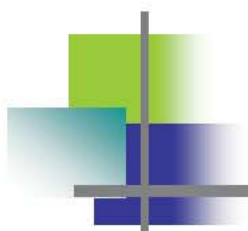


北海道地方ダム等管理フォローアップ委員会



二風谷ダム定期報告書 概要版

令和8年3月

目 次

1. 事業の概要
2. 防災操作
3. 利水補給
4. 堆砂
5. 水質
6. 生物
7. 水源地域動態
8. 景観

（取りまとめ期間：令和元年度から令和6年度（6ヶ年））



1. 事業の概要

事業の経緯

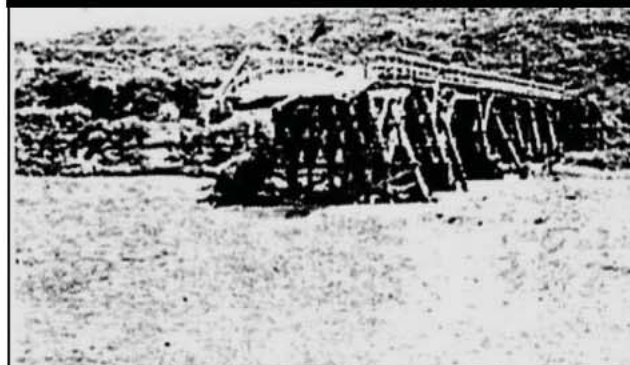
- ・ 沙流川流域は、明治31年(1898年)9月洪水をはじめ過去に多くの洪水に見舞われていたが、計画的な治水事業は行われず部分的な河川改修にとどまっていた。その後、昭和36年(1961年)7月洪水、昭和37年(1962年)8月洪水と記録的な出水を契機に二風谷ダム及び平取ダムによる洪水調節を含めた治水計画がたてられた。
- ・ この計画に基づき、沙流川総合開発事業を推進し、平成10年(1998年)4月に二風谷ダムが竣工した。

◆ 主要な事業の経緯

年月日	内 容
昭和44年	沙流川水系工事实施基本計画策定
昭和46年	予備調査開始
昭和48年	実施計画調査開始
昭和53年3月	沙流川水系工事实施基本計画変更
昭和57年4月	建設事業着手
昭和61年9月	本体工事着手
平成10年4月	管理開始
平成11年12月	沙流川水系河川整備基本方針策定
平成14年7月	沙流川水系河川整備計画策定
平成15年8月	当時の計画を上回る洪水を記録
平成17年11月	沙流川水系河川整備基本方針変更
平成19年3月	沙流川水系河川整備計画変更
令和4年7月	平取ダム管理開始
令和6年3月	沙流川水系河川整備基本方針変更

◆ 沙流川流域の洪水状況

流失した振内橋 昭和36年7月



越水寸前の去場築堤 昭和37年8月



昭和37年 8 月 越水寸前の去場築堤

二風谷ダム過去の洪水状況

- 二風谷ダムでは、平成15年(2003年)8月の洪水において管理開始後最大流入量約 $6,100\text{m}^3/\text{s}$ を観測したため、操作規則に基づく防災操作を実施し、下流の洪水被害軽減に努めた。
- この洪水は既存の計画を超過しており、ダム基本計画等を見直す契機となった。

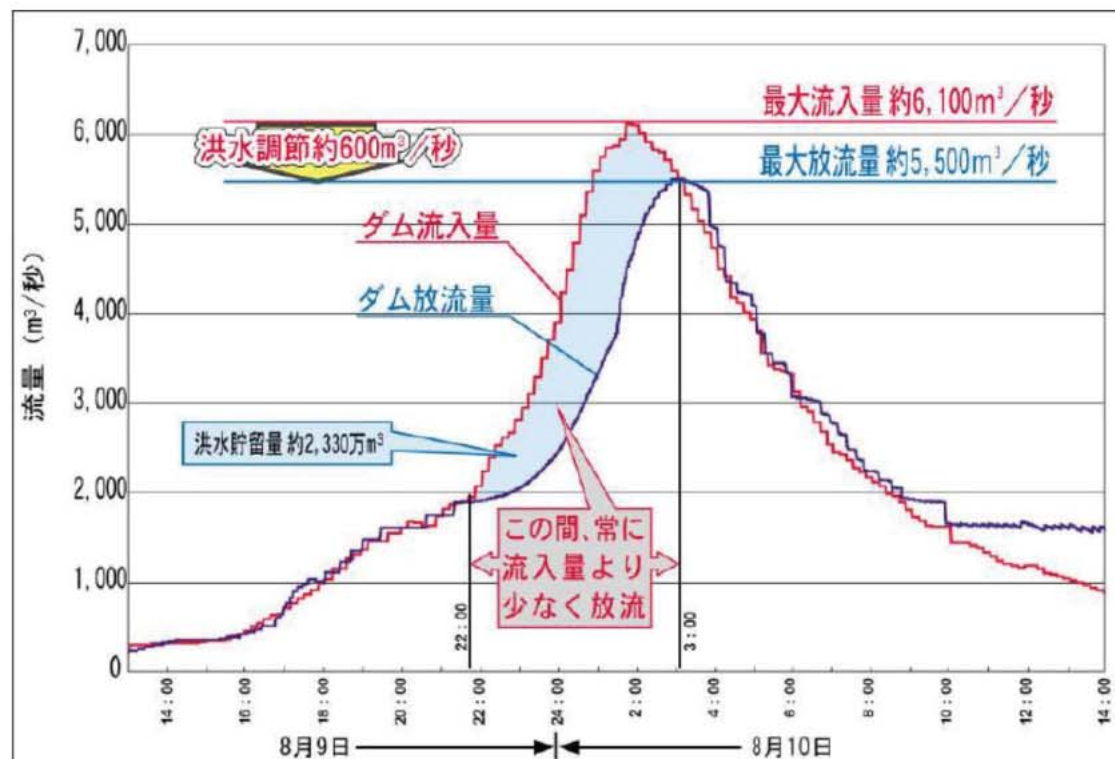
◆平成15年8月洪水の状況 貯水状況（洪水前）



貯水状況（洪水中）



防災操作によってダムに
貯めた水量約 $2,330\text{万m}^3$



二風谷ダムの概要と位置

- ・ 二風谷ダムは、沙流川水系沙流川の中流域に位置する。
- ・ 平成9年(1997年)に竣工し、管理に移行してから令和6年(2024年)まで26年が経過している。

◆二風谷ダムの概要

- ・ 所在地：沙流郡平取町字二風谷
- ・ 型式：重力式コンクリートダム
- ・ 目的：防災操作、流水の正常な機能の維持、水道、発電
- ・ 堤高：32m
- ・ 堤頂長：550m
- ・ 総貯水容量：31,500千 m^3
- ・ 堤体積：276千 m^3
- ・ 集水面積：1,215 km^2
- ・ 管理開始：平成10年
(令和6年まで26年経過)

◆二風谷ダムの外観

[R7.9.18撮影]



◆二風谷ダムの位置



◆二風谷ダムの流域



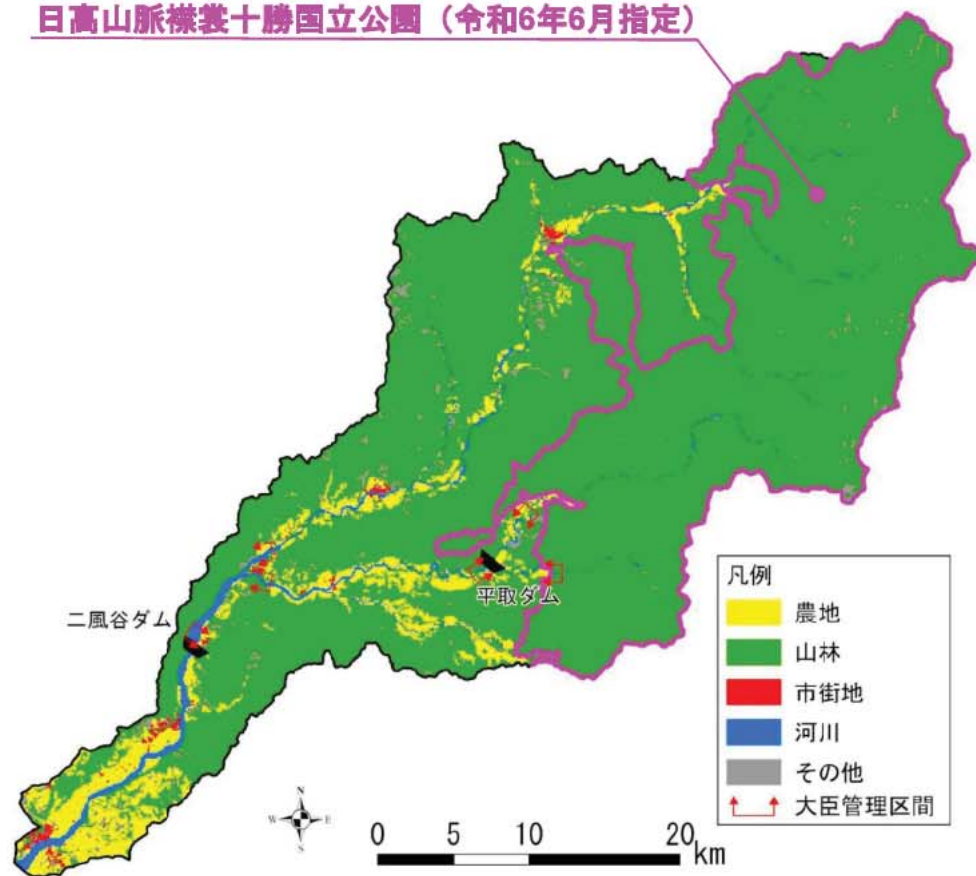
◆貯水池平面図



二風谷ダム流域の概要

- ・二風谷ダムの集水面積は1,215km²で、その多くが国立公園であり、大半が自然林で覆われている。

日高山脈襟裳十勝国立公園（令和6年6月指定）



二風谷ダム周辺の状況



R6.6.6撮影

二風谷ダム地点の降水量

- 二風谷ダムの年間降水量は至近9カ年平均で約1,096mm/年となっており、北海道平均と同程度となっている。また、月別の平均降水量は、8月に最も多く、12月～2月に少なくなっている。

◆ダム地点の年間降水量の推移



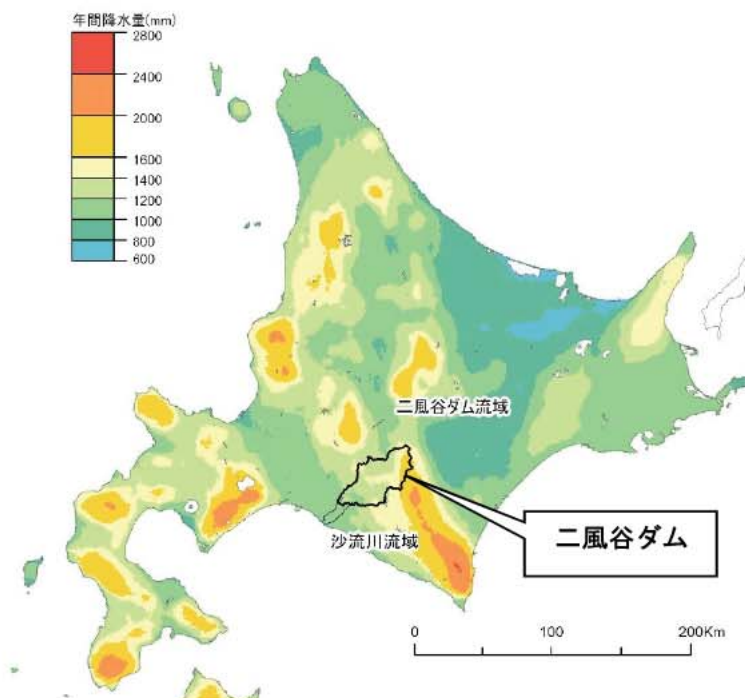
※全国平均、北海道平均: 「令和6年版 日本の水資源の現況 (国土交通省)」 に示される平成27年(2015年)～令和5年(2023年)まで9年間の平均値

※二風谷ダム地点の雨量も平成27年(2015年)～令和5年(2023年)の平均値

◆ダム地点の月別降水量 (H27(2015)～R6(2024)の平均)



年間降水量分布図



出典: 国土数値情報 (<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)
R4 平年値メッシュデータ (平成3(1991)～令和2(2020))
提供: 国土交通省国土政策局国土情報課

◆二風谷ダムの目的

防 災 操 作

ダム地点の計画高水流量 $5,600\text{m}^3/\text{s}$ に対して、 $600\text{m}^3/\text{s}$ をダムに貯留し下流の洪水被害軽減を図る。

流 水 の 正 常 な
機 能 の 維 持

ダム下流の既得用水に対する補給等流水の正常な機能の維持を図るため、基準地点の平取地点で概ね $11\text{m}^3/\text{s}$ を確保する。

水 道

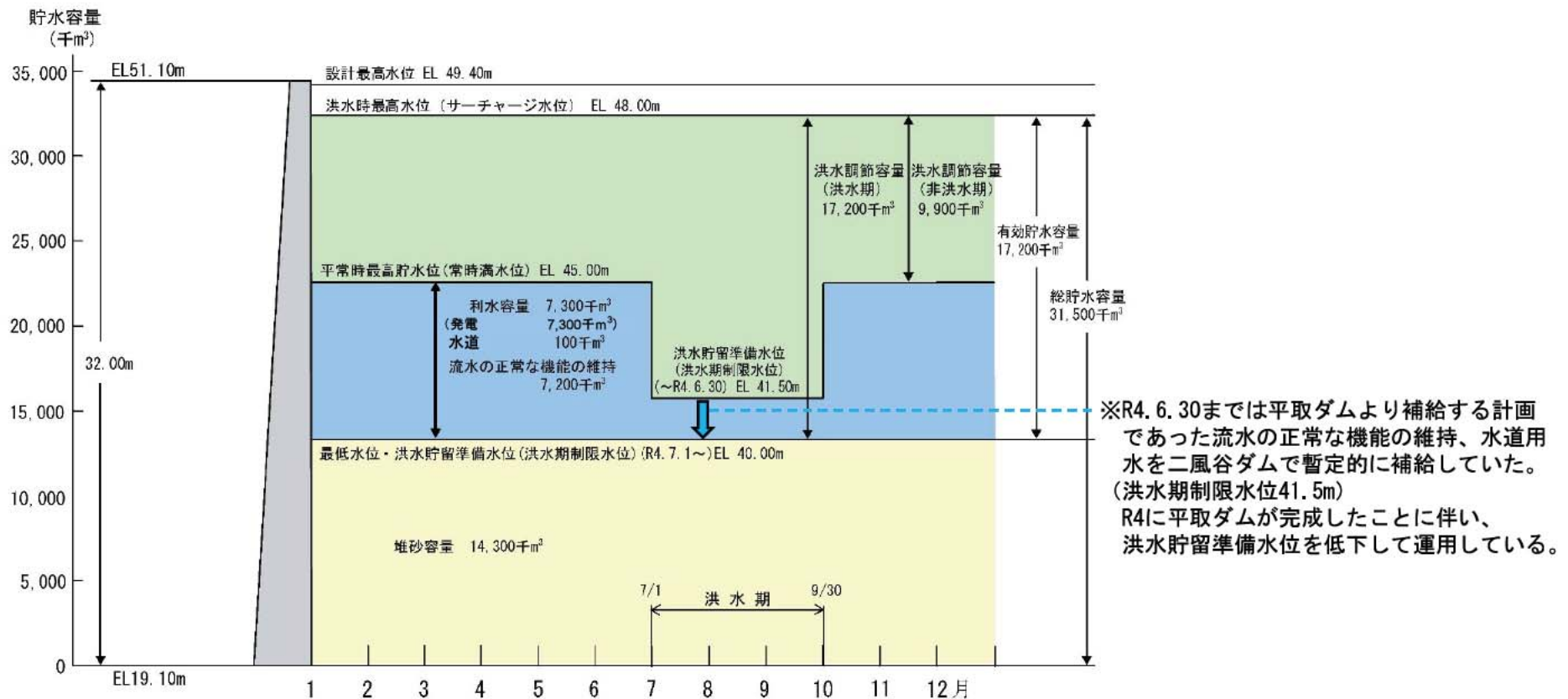
平取町に対し、最大 $1,200\text{m}^3/\text{日}$ 、日高町（門別地区）に対し、最大 $1,400\text{m}^3/\text{日}$ の水道用水の取水を可能とする。

発 電

二風谷発電所は、最大 $3,000\text{kW}$ 、年間 $18,141\text{MWh}$ を発電し、安定的な電力の供給を行う。

二風谷ダム貯水池容量配分

- 二風谷ダムは、洪水調節容量として洪水期17,200千 m^3 （非洪水期9,900千 m^3 ）、利水容量として非洪水期に7,300千 m^3 を確保している。



※) 「洪水等に関する防災情報体系の見直し実施要領」(平成18年10月1日国河情第3号河川局長通知)によりダム水位関係の用語が以下のように変更された。

(旧) 設計洪水位	→	(新) 設計最高水位
(旧) サーチャージ水位	→	(新) 洪水時最高水位
(旧) 常時満水位	→	(新) 平常時最高貯水位
(旧) 洪水期制限水位	→	(新) 洪水貯留準備水位

注) 洪水期 : 7月1日から 9月30日まで
非洪水期 : 10月1日から翌年6月30日まで

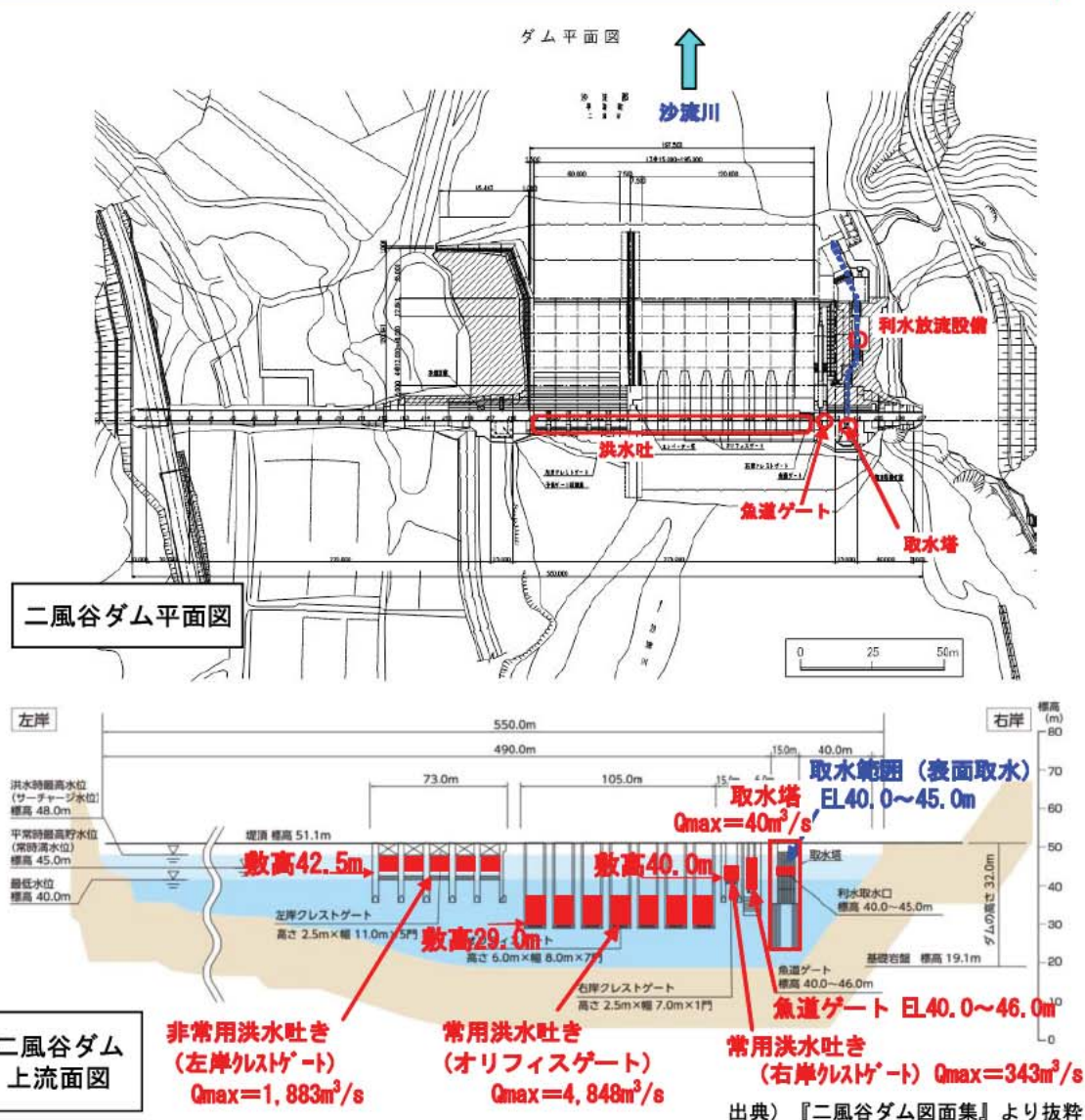
二風谷ダムの放流設備

二風谷ダムには、防災操作の常用洪水吐き、非常用洪水吐きと利水放流設備、取水塔、魚道ゲートが設置されている。

◆二風谷ダム平面図・上流面図



※写真は全て2025/9/18に撮影



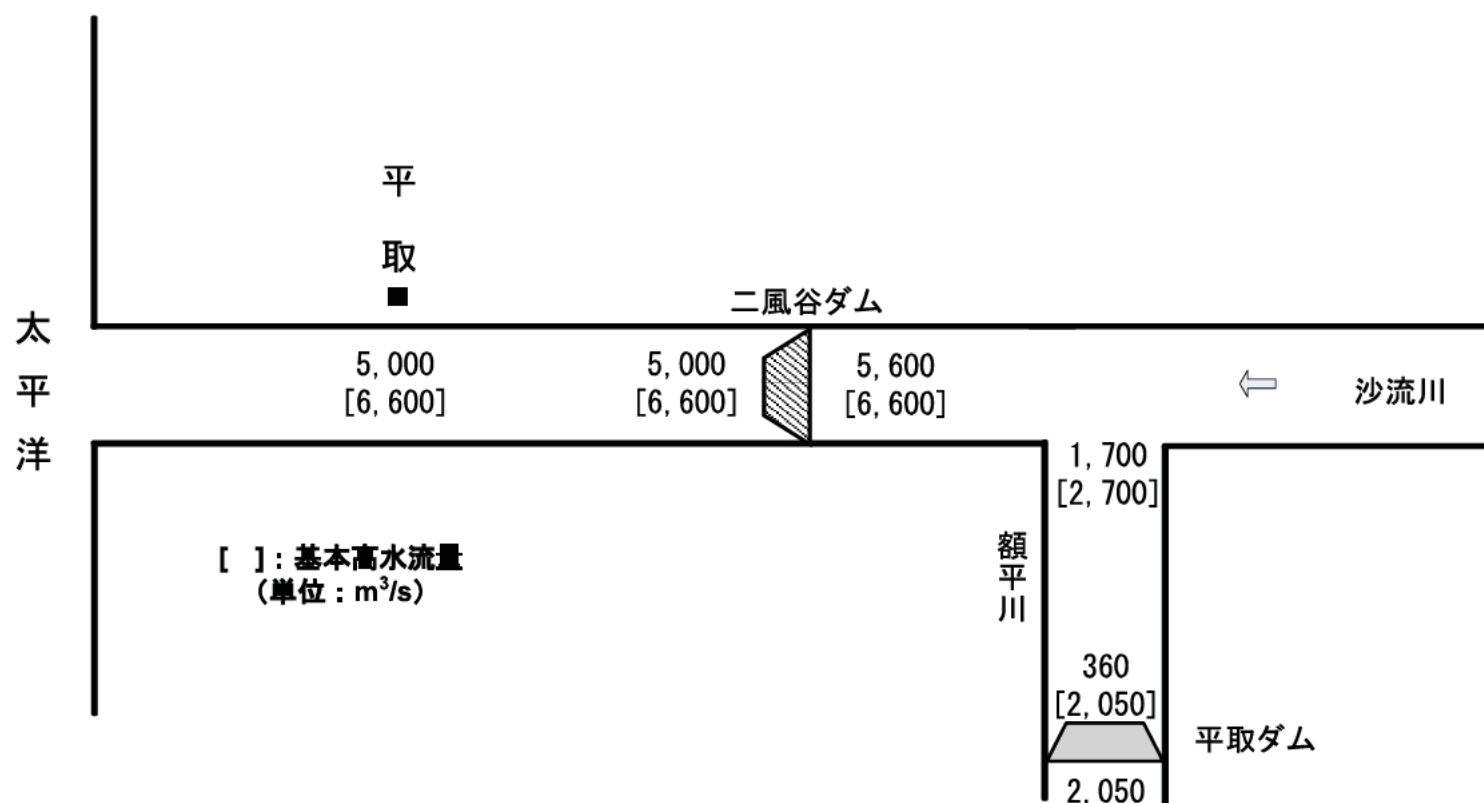


2. 防災操作

二風谷ダムの防災操作計画

平成17年(2005年)に見直した沙流川水系河川整備基本方針では、平取地点における基本高水ピーク流量を $6,600\text{m}^3/\text{s}$ とし、そのうち二風谷ダム及び平取ダムの防災操作施設により $1,600\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $5,000\text{m}^3/\text{s}$ としている。

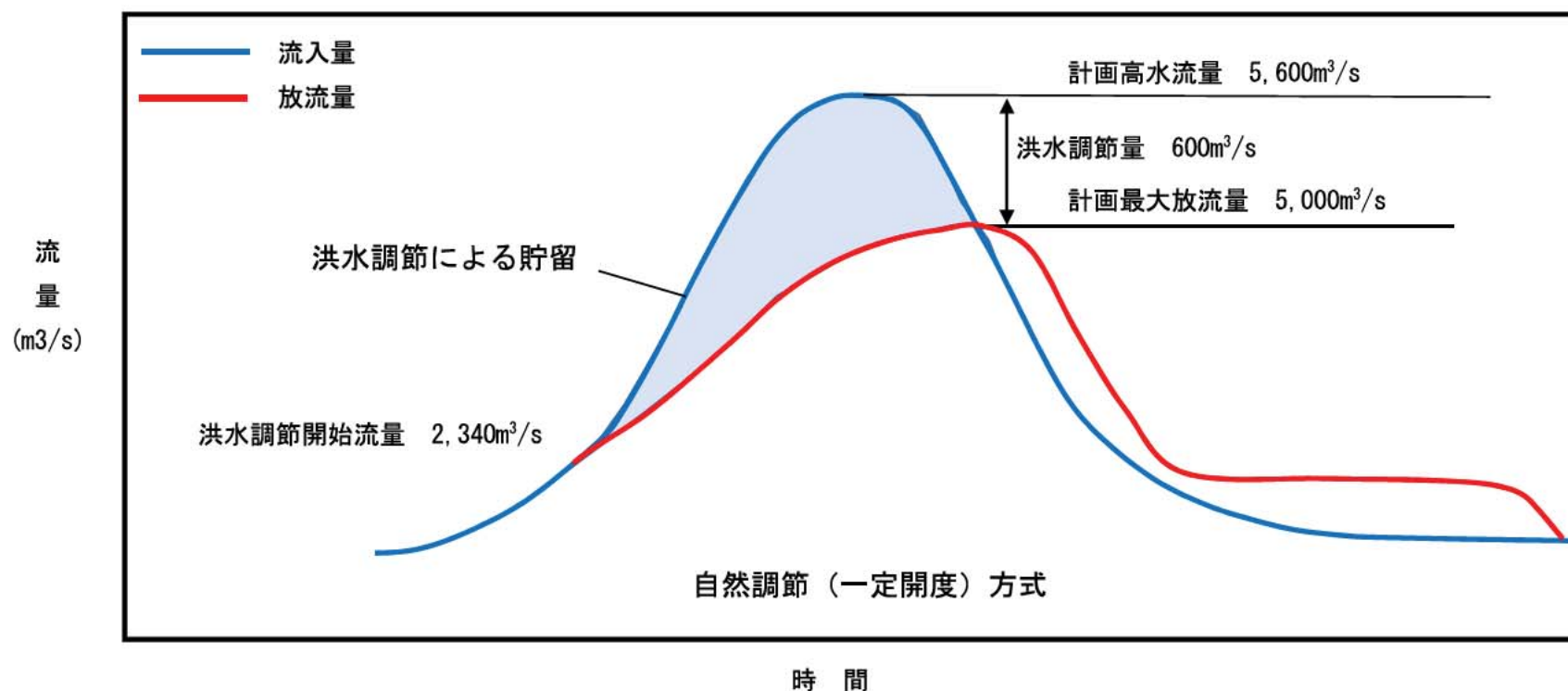
◆流量配分図



二風谷ダム防災操作計画

二風谷ダムは、ダム地点の計画高水流量 $5,600\text{m}^3/\text{s}$ に対して、計画最大放流量 $5,000\text{m}^3/\text{s}$ を放流し、最大 $600\text{m}^3/\text{s}$ の防災操作を行う。

◆二風谷ダム地点防災操作模式図



※令和4年7月に下流の整備状況を踏まえて、洪水調節開始流量を変更
(H19～R4.6は $1,900\text{m}^3/\text{s}$)

二風谷ダムの防災操作実績

- 二風谷ダムは、管理開始の平成10年(1998年)以降、令和6年(2024年)までに4回の防災操作を行い、至近6カ年は防災操作を行っていない。

過去の防災操作実績

管理開始後最大洪水

洪水年月日	発生期別	洪水要因	総雨量 (mm)	降雨期間	最大流入量 (m ³ /s)	最大流入時放 流量 (m ³ /s)	調節量 (m ³ /s)
平成13年 9月 11日	洪水期	台風	232.0	9月 10日 15時 ~ 9月 12日 15時	1945.00	1893.00	52.0
平成15年 8月 9日	洪水期	台風	334.0	8月 8日 1時 ~ 8月 11日 0時	6119.00	4599.00	1520.0
平成18年 8月 18日	洪水期	停滞前線	311.0	8月 18日 3時 ~ 8月 19日 4時	3412.00	2379.00	1033.0
平成28年 8月 19日	洪水期	台風	288.0	8月 19日 10時 ~ 8月 23日 8時	2605.00	2052.00	553.0

至近6カ年の年最大流入量

洪水年月日	総雨量 (mm)	降雨期間	最大流入量 (m ³ /s)
令和元年 8月 17日	78	8月 16日 17時 ~ 8月 17日 17時	379
令和 2年 3月 11日	65	3月 10日 12時 ~ 3月 11日 12時	617
令和 3年 6月 4日	89	6月 4日 8時 ~ 6月 5日 8時	651
令和 4年 8月 16日	96	8月 15日 18時 ~ 8月 16日 18時	1,571
令和 5年 4月 7日	34	4月 7日 1時 ~ 4月 8日 1時	439
令和 6年 8月 31日	80	8月 31日 1時 ~ 9月 1日 1時	638

※平成19年～令和4年6月の期間では、貯水池への流入量1,900m³/s以上の場合に防災操作を実施

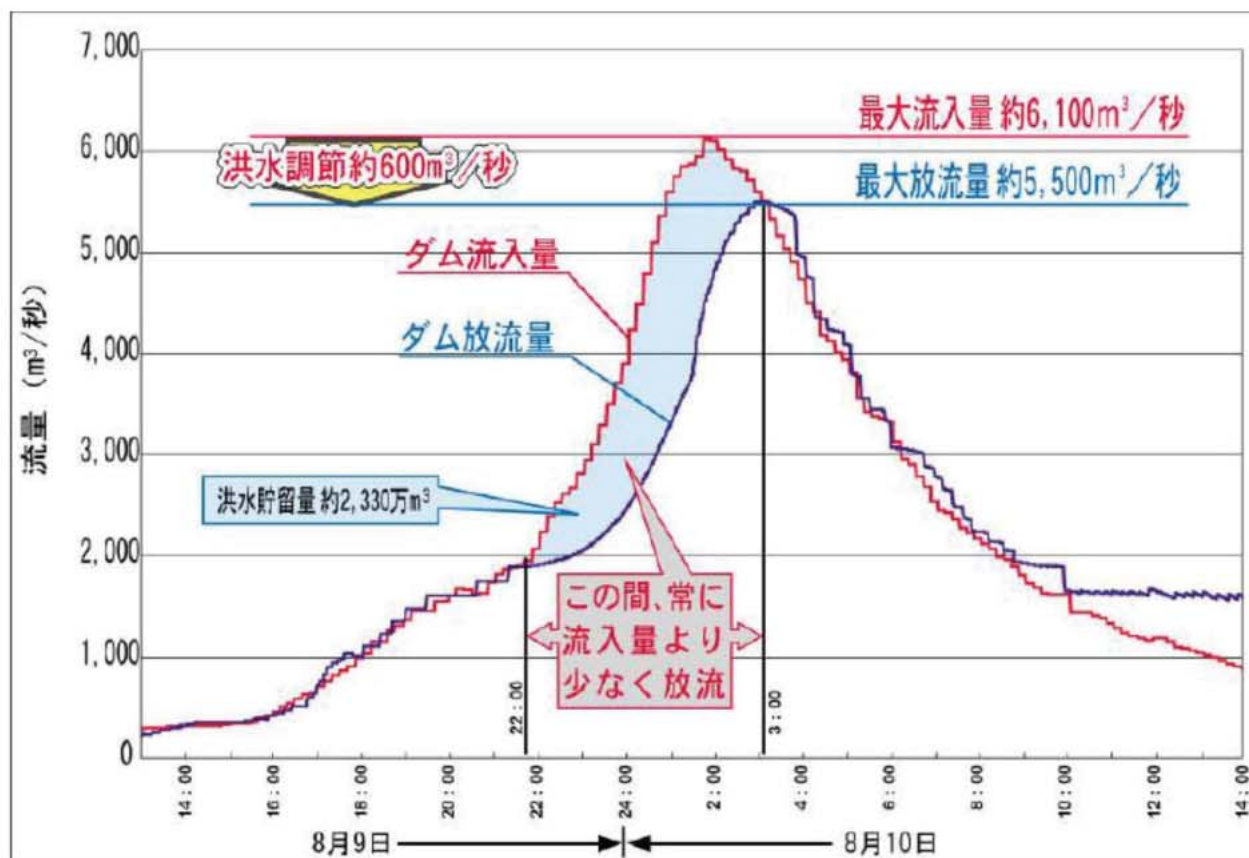
※令和4年7月以降は、貯水池への流入量2,340m³/s以上の場合に防災操作を実施

注) 洪水期 : 7月1日から9月30日まで

非洪水期 : 10月1日から翌年6月30日まで

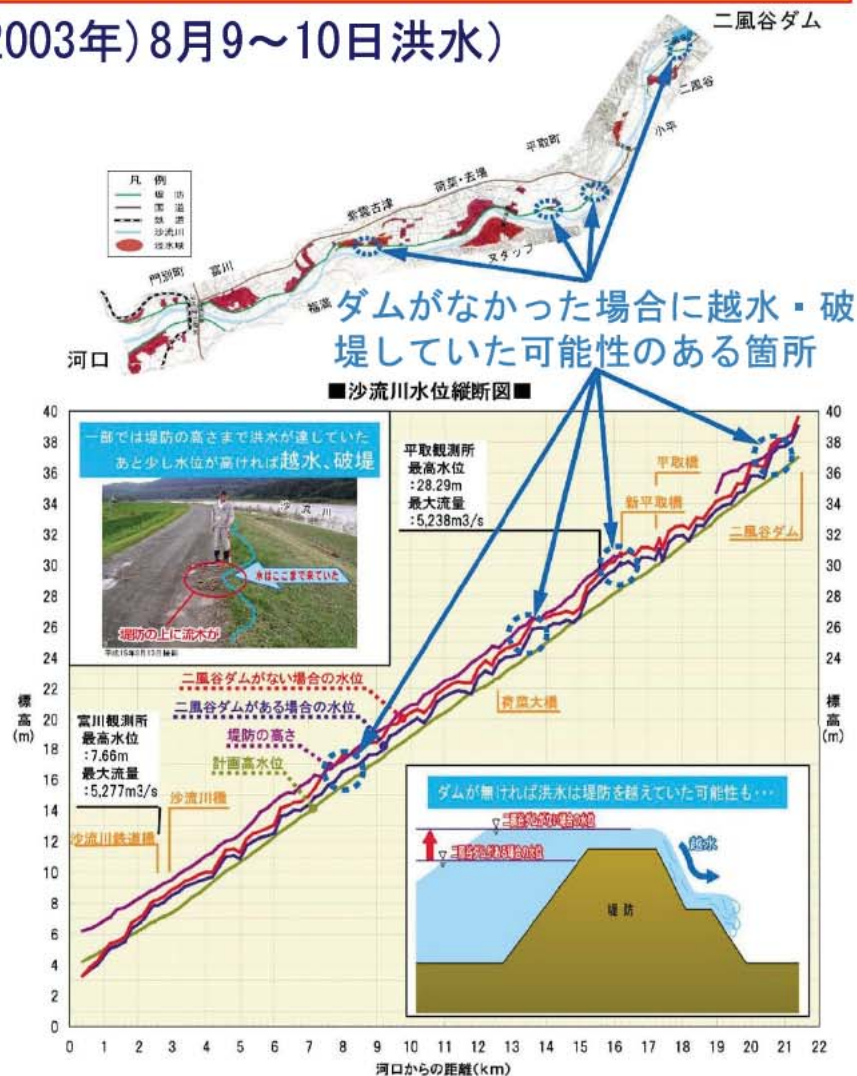
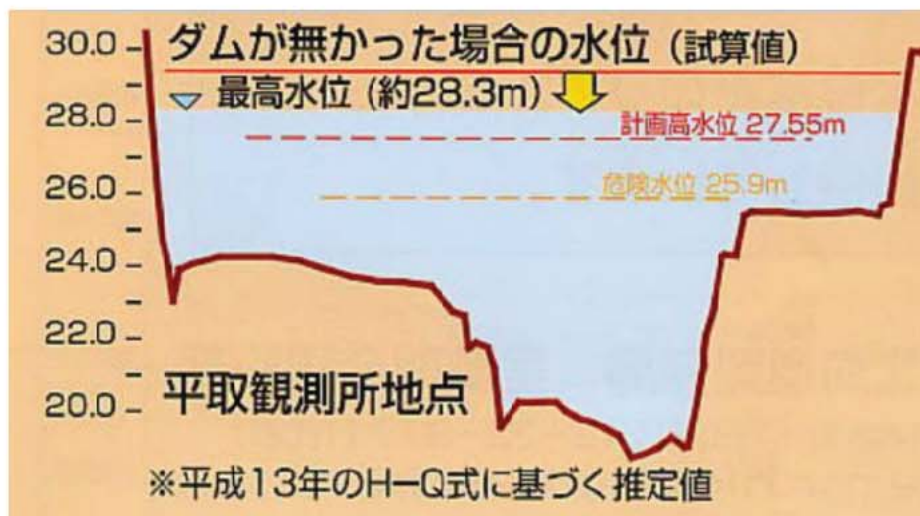
【参考】平成15年8月洪水の防災操作実績

- 平成15年(2003年)8月10日の洪水の際、二風谷ダムは最大流入約 $6,100\text{m}^3/\text{s}$ のうち約 $5,500\text{m}^3/\text{s}$ を放流し、ピーク時の流量を約 $600\text{m}^3/\text{s}$ 低減した。



- ・二風谷ダム防災操作により、平取地点において、洪水時の水位を約1.0m低減するとともに、ダム下流への流木等の流出を抑制し、洪水被害軽減に貢献した。

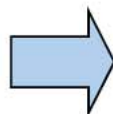
◆平取地点における水位低減効果（平成15年（2003年）8月9～10日洪水）



副次的効果（流木等流出抑制効果）

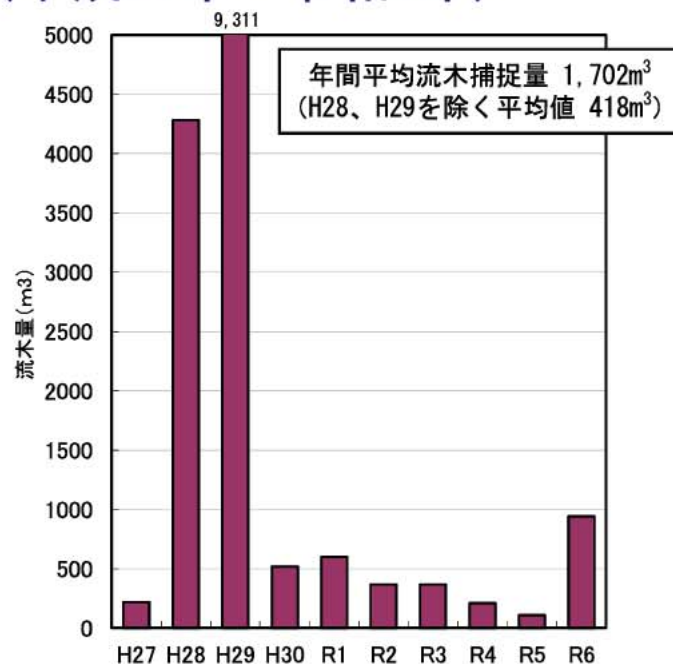
- ・ 二風谷ダムにより、ダム下流への流木等の流出を抑制し、ダム下流の被害リスクを軽減した。

流木等を貯水池内で捕捉



- ・ ダム下流施設の被害リスクを軽減
- ・ 流木は無料配布し有効利用

◆ 流木捕捉量 （平成27年～令和6年）



◆ 流木の有効利用

二風谷ダムで回収した流木は、資源の有効活用を目的として一般の方々へ無料配布した。



流木の引き上げ状況



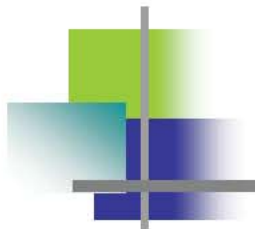
流木配布状況

◆防災操作のまとめ

項目	まとめ
防災操作実績	●令和元年(2019年)から令和6年(2024年)までの6年間で防災操作は実施されていない。(管理開始後4回)
防災操作の効果	●二風谷ダムにより、ダム下流への流木等の流出を抑制し、ダム下流の被害のリスクを低減した。

◆今後の方針

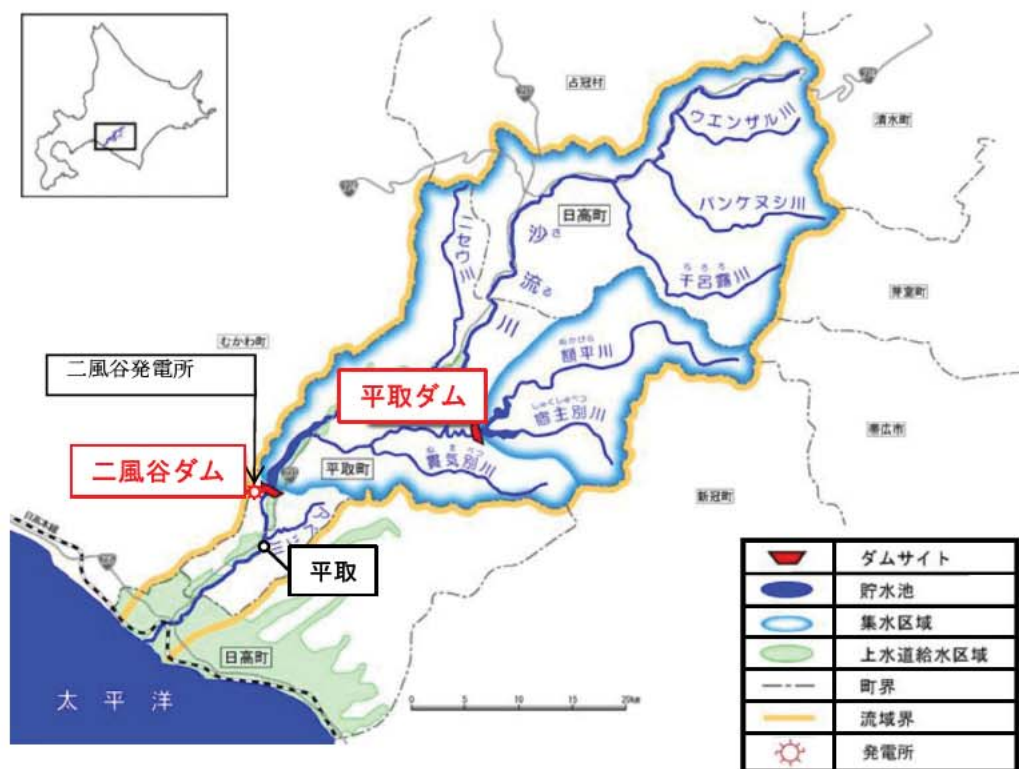
防災機能を適切に発揮できるように今後も引き続き管理していく。



3. 利水補給

二風谷ダムの利水補給計画①

◆二風谷ダムの利水補給区域



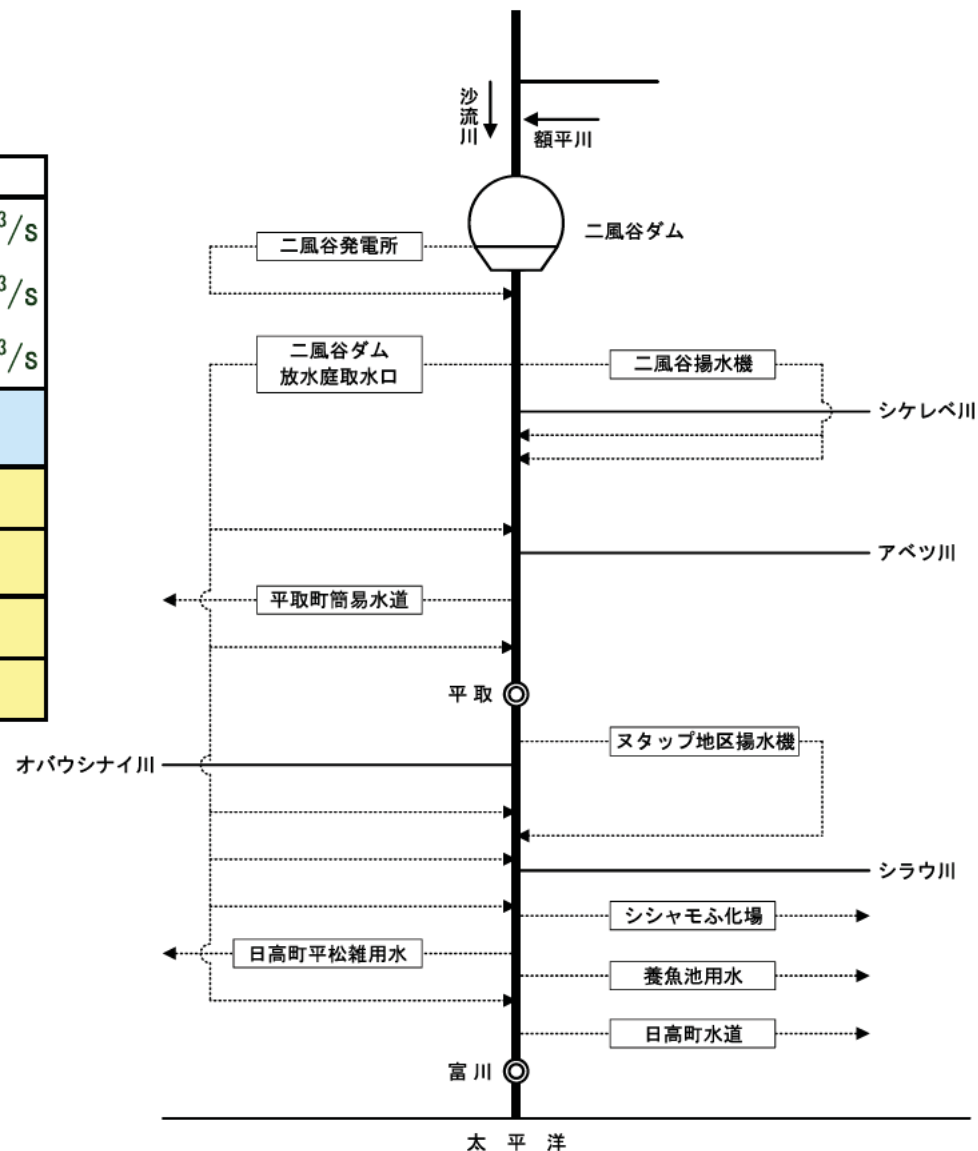
◆利水補給の概要

- ・ 流水の正常な機能の維持
二風谷ダム下流の既得用水に対する補給等、流水の正常な機能の維持を図るため、基準地点の平取地点において、概ね $11\text{m}^3/\text{s}$ を確保する。
- ・ 水道用水
平取町に対し、最大 $1,200\text{m}^3/\text{日}$ 、日高町（門別地区）に対し、新たに最大 $1,400\text{m}^3/\text{日}$ の水道用水の取水を可能とするよう補給する。
- ・ 発電用水
二風谷ダムから最大 $35\text{m}^3/\text{s}$ を取水し、二風谷発電所において、最大 $3,000\text{kW}$ 、年間計画発生電力量 $18,141\text{MWh}$ の発電を行う。

※二風谷発電所は水車・発電機等の更新のため

令和6年2月～令和9年7月（予定）の期間は停止中

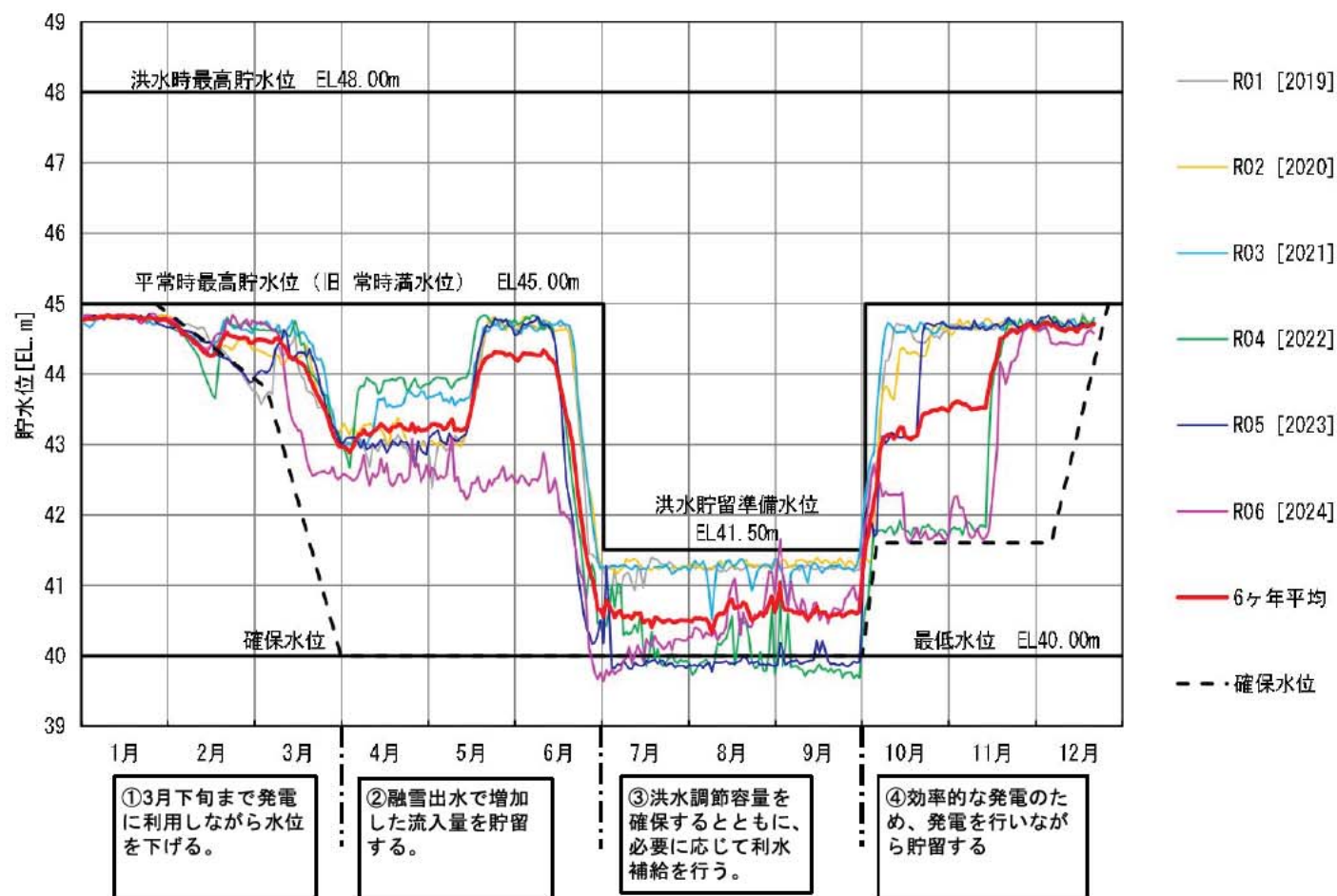
※二風谷発電所は水車・発電機等の更新のため
令和6年2月～令和9年7月（予定）の期間は停止中



貯水池運用実績

標準的な貯水池運用は①融雪出水が始まる3月下旬を目途に利水補給を行いつつ発電を行い、貯水位を下げる。②4月上旬以降は融雪出水を貯留し、平常時最高貯水位まで上昇させる。③洪水期は、洪水貯留準備水位を維持しながら発電を行う。④洪水期終了後は、発電を行いながら、平常時最高貯水位までの水位上昇を図る。

◆貯水池運用実績(令和元年(2019年)～令和6年(2024年))



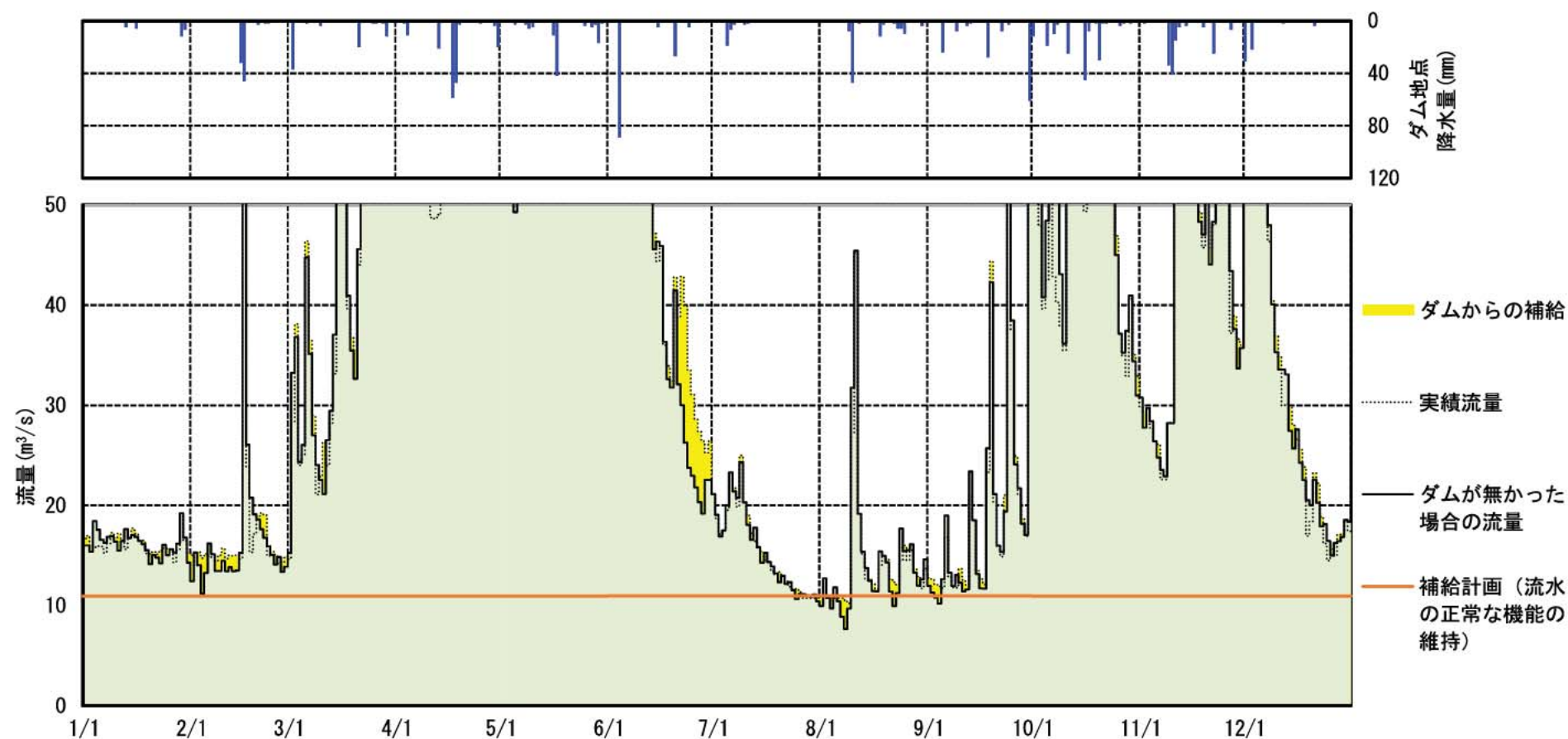
※R4までは平取ダムより補給する計画であった流水の正常な機能の維持、水道用水を二風谷ダムで暫定的に補給。
(洪水期制限水位41.5m)
※R4に平取ダムが完成したことに伴い、R4、R5は洪水貯留準備水位を低下させて運用。
(洪水期制限水位40.0m)
※R6地域文化や地元要望により、柔軟な運用を試行。
(洪水期制限水位41.5m)

※令和4年は利水放流設備周辺、令和6年は取水塔周辺の工事のため、非洪水期に貯水位を低下している時期がある

流水の正常な機能の維持

- 二風谷ダム下流の流水の正常な機能の維持を図るため、二風谷ダムより補給を行っている。

◆平取地点の流況図(令和3年(2021年))

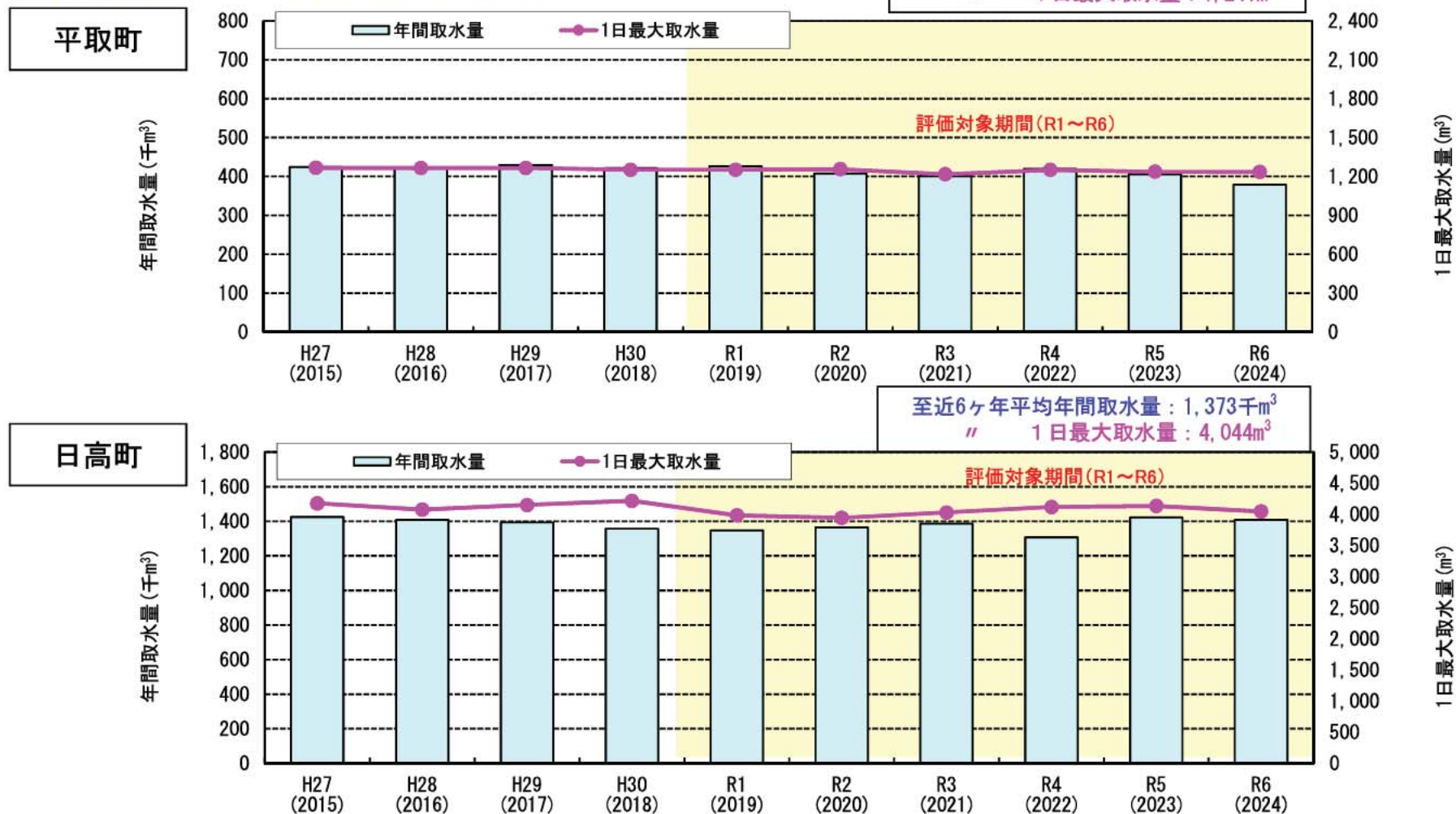


※令和元年(2019年)～令和6年(2024年)のうち、ダムによる利水補給効果が見られる令和3年(2021年)を対象とした。

水道用水の取水実績

- 至近6ヶ年の平均年間取水量は平取町で407千 m^3 、日高町（門別地区）で1,373千 m^3 である。二風谷ダムは水道用水の安定した供給に貢献している。

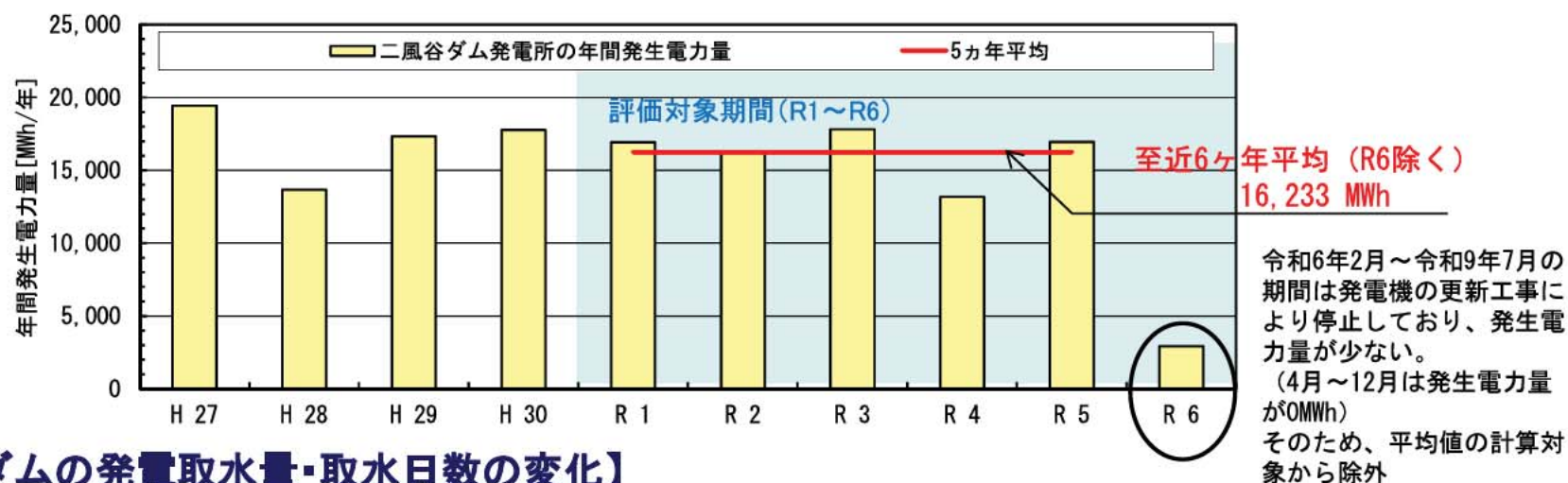
◆水道用水の取水実績の変化



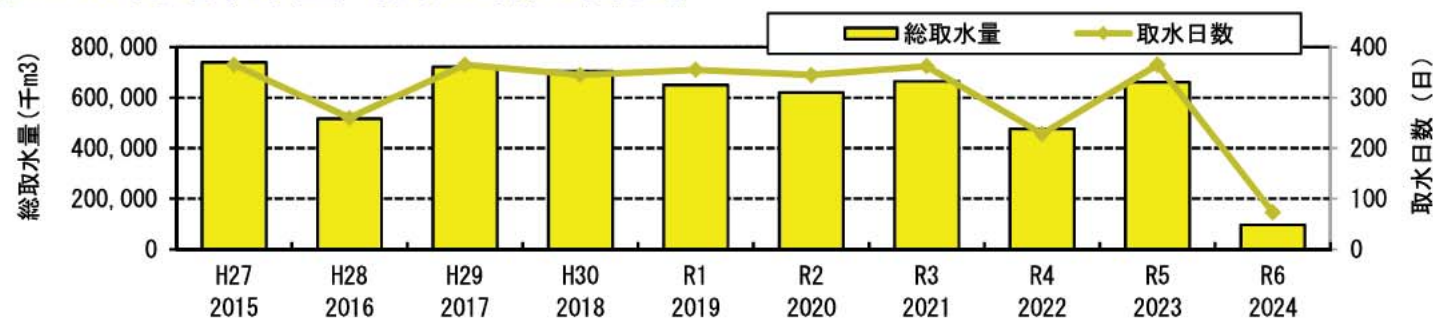
二風谷発電所の発電実績

- 二風谷発電所では、至近6ヶ年（令和6年（2024年）を除く）は平均的な一般家庭の約4,336世帯分※の年間消費電力量に相当する年間約16,233MWhの発電を行っており、貴重な純国産エネルギーの供給源となっている。

◆発生電力量実績の変化



【ダムの発電取水水量・取水日数の変化】



※16,233MWh/年÷3,744kWh/年/世帯=4,336世帯

3,744kWh/年/世帯は、「令和4年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査」(環境省)による北海道の値13.48GJ/年/世帯をkWhに変換

◆利水補給のまとめ

項目	まとめ
流水の正常な機能の維持	●二風谷ダムはダム下流河川の水質や環境の保全に必要な水量を補給し、利水基準点の平取地点において流水の正常な機能の維持を図っている。
水道用水	●二風谷ダムでは、平取町及び日高町（門別地区）に対して水道用水を補給し、至近6ヶ年の平均年間取水量は平取町で407千 m^3 、日高町（門別地区）で1,373千 m^3 である。二風谷ダムは水道用水の安定した供給に貢献している。
発電	●二風谷発電所では、至近6ヶ年（令和6年（2024年）を除く）は平均的な一般家庭の約4,336世帯分の年間消費電力量に相当する年間約16,233MWhの発電を行っており、貴重な純国産エネルギーの供給源となっている。

◆今後の方針

今後も安定した利水補給に努め、適切な管理を継続していく。

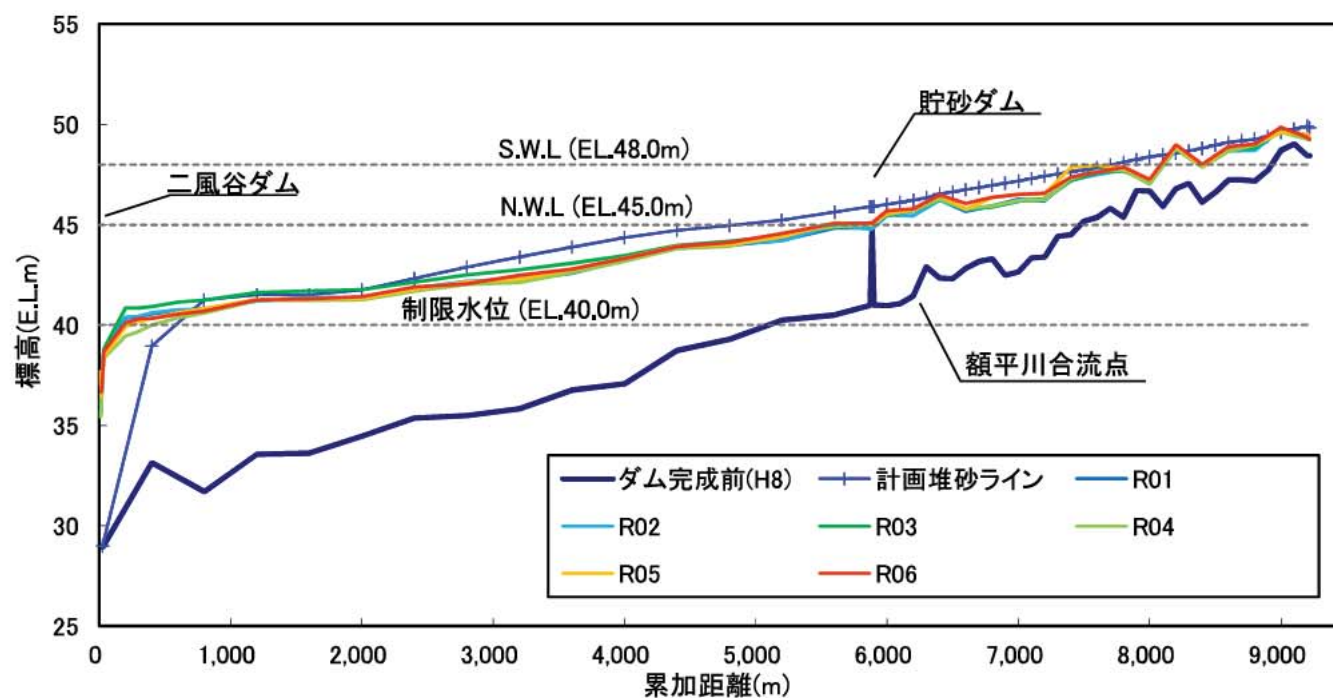


4. 堆 砂

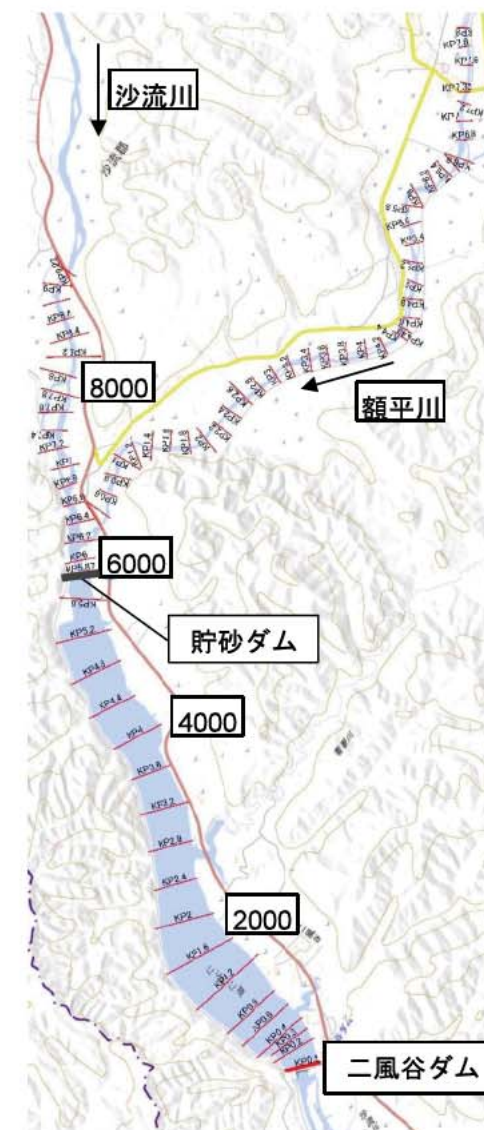
堆砂状況①

- 洪水調節容量及び利水容量範囲における堆砂は、概ね計画の範囲内となっており、各容量は確保されている。

◆二風谷ダムの中平均河床高の变化



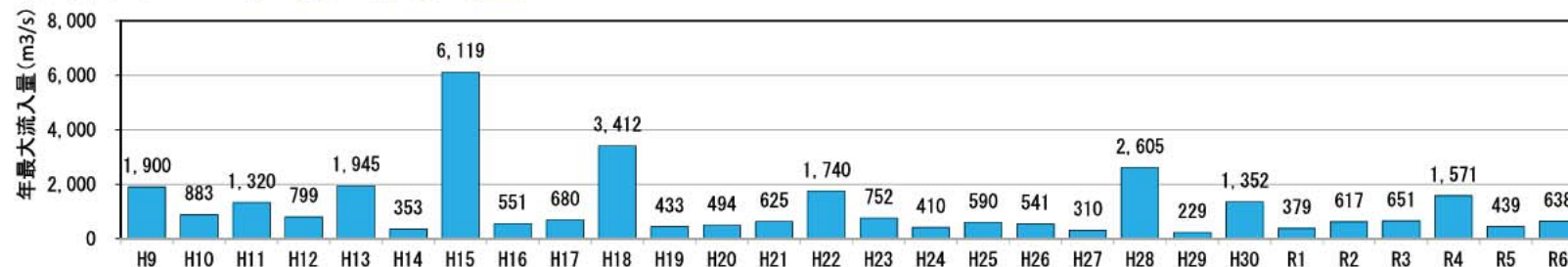
※計画堆砂ラインは、平成19年基本計画変更時の100年後の堆砂形状のシミュレーション結果より設定



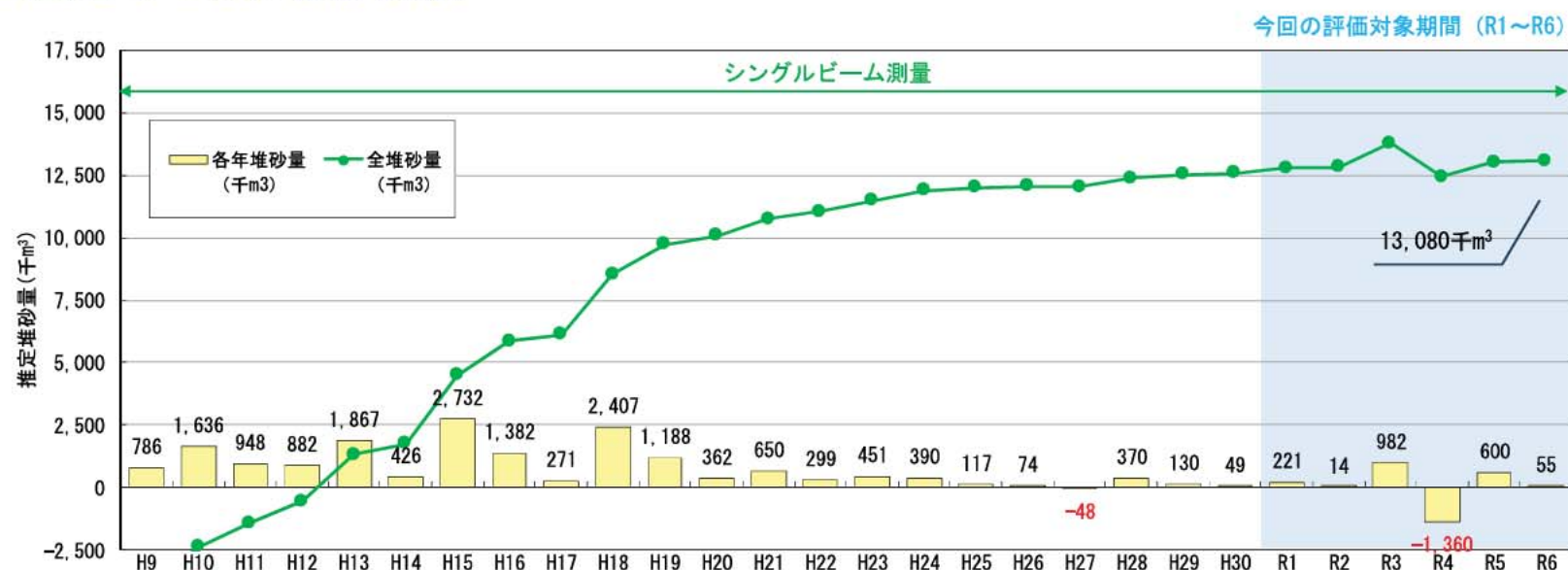
堆砂状況②

- 二風谷ダムにおける、令和6年(2024年)の堆砂量は13,080千 m^3 となっている。

◆二風谷ダム年最大流入量



◆二風谷ダムの堆砂状況

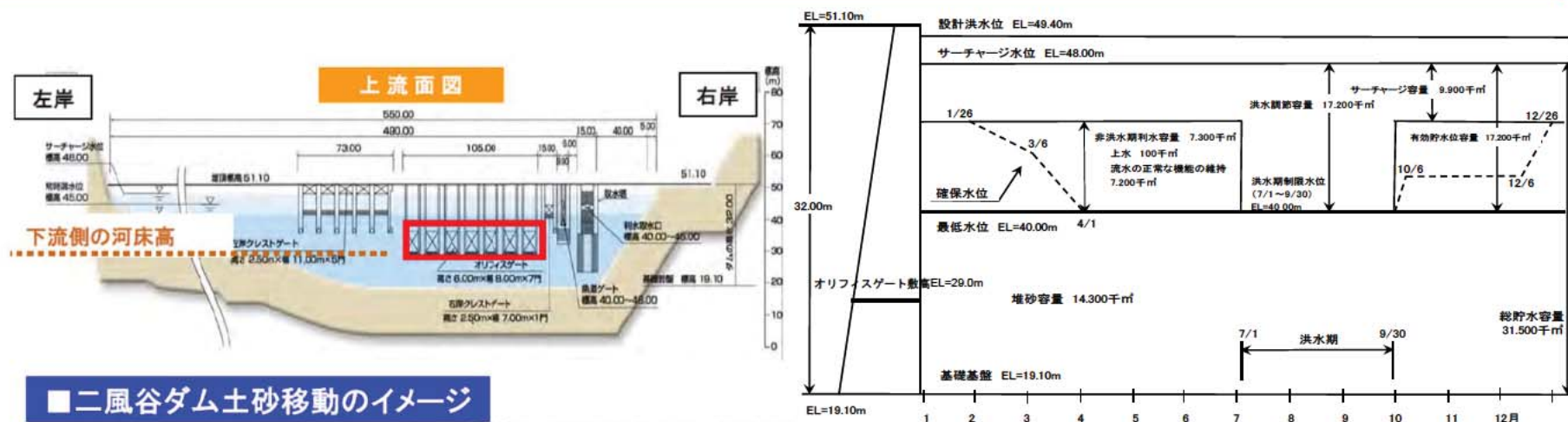


※平取ダム完成によりR4以降は洪水貯留準備水位を下げて運用している。それにより流れが生じ排砂されやすくなったことが想定される。

※H9~12はダム建設時の川底からの骨材採取等による窪地の容積-4,800千 m^3 の範囲内であるため負の値となっている。

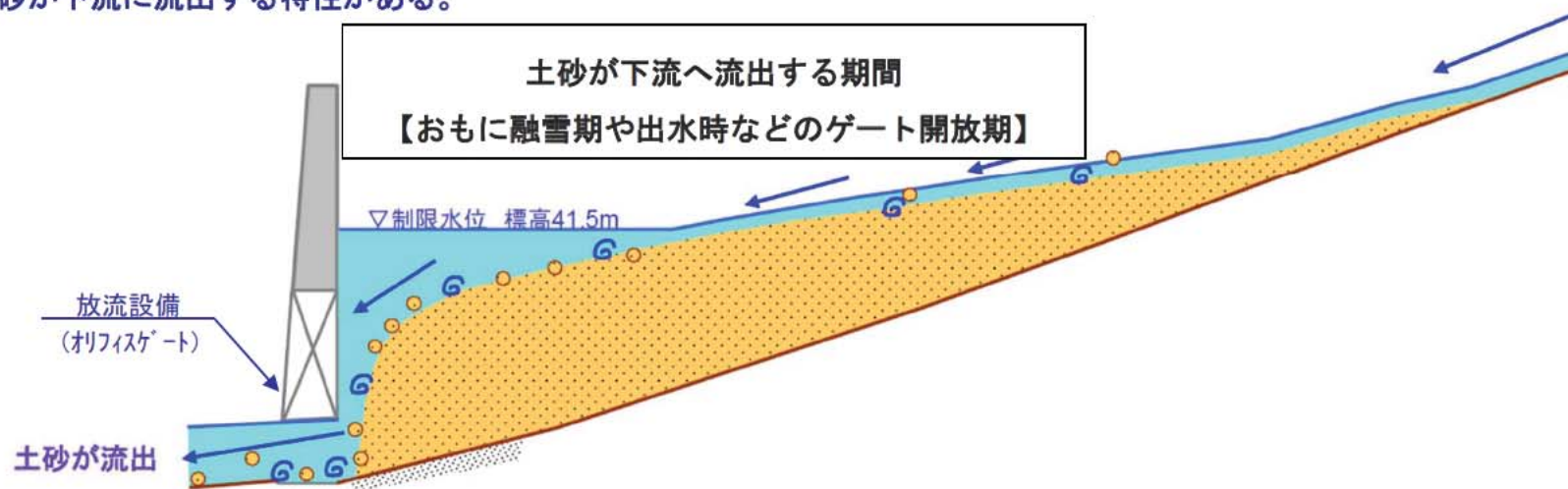
【参考】堆砂管理①

- ・二風谷ダムの放流設備（オリフィスゲート）は、下流側の河床とほぼ同じ低い位置（EL29.0m）にあり、洪水期には利水容量を持たず、融雪期や出水期に河川水と一緒に土砂が流れる構造になっている。



■二風谷ダム土砂移動のイメージ

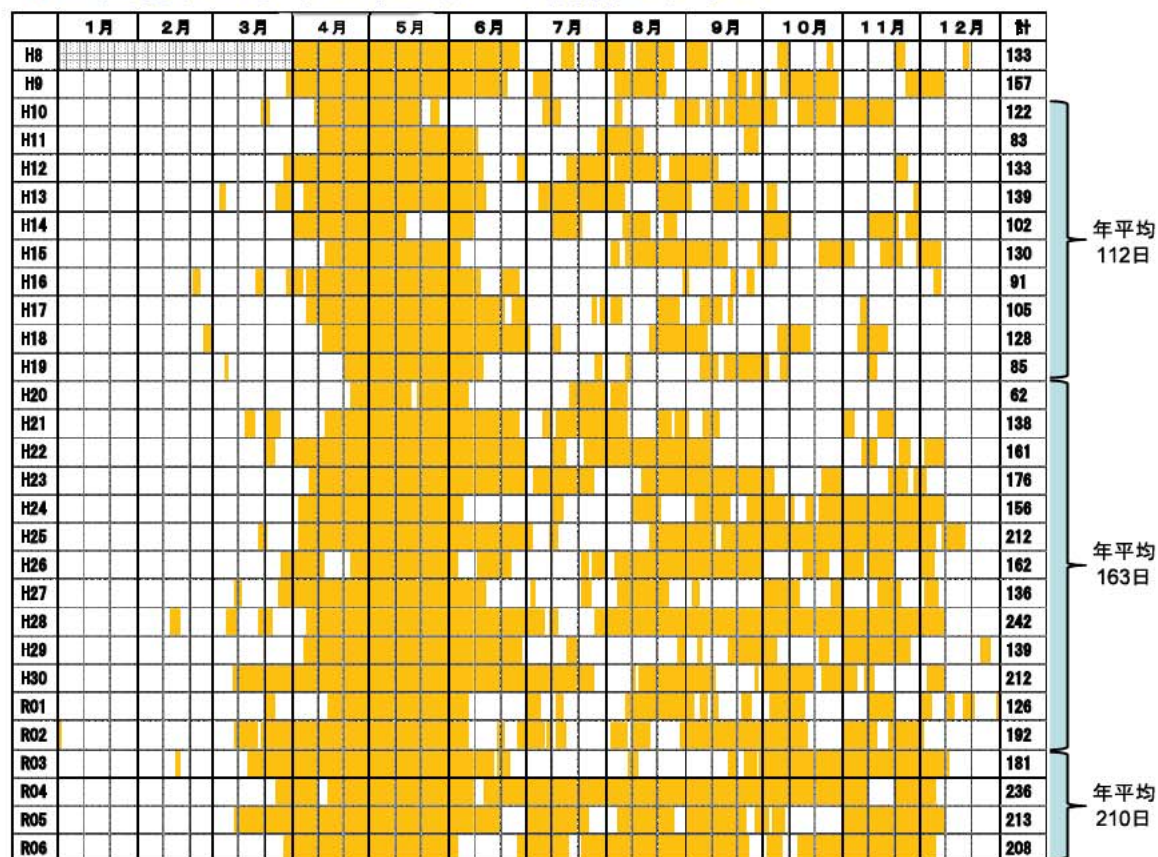
- 融雪期や出水時には下流河床高に設置されているオリフィスゲートを開けた運用をしていることが多いため、土砂が下流に流出する特性がある。



【参考】堆砂管理②

- 近年はダムの運用変更によりゲートの開放日数が多くなったことで排砂が促され、堆砂の進行は横ばいとなっている。

◆二風谷ダムオリフィスゲート開放日グラフ



※着色部はオリフィスゲートが開いていた期間

- オリフィスゲートの年平均開放日数は、管理開始後のH10年～H19年では112日
基本計画変更後のH20年～R2年では163日、平取ダム運用開始後のR3年～R6年では210日。

◆堆砂のまとめ

- 現時点の総堆砂量は計画堆砂容量の範囲内となっており、洪水調節容量、利水容量は確保されている。
- 令和6年(2024年)で管理開始から26年が経過し、至近6ヵ年の平均河床高の縦断形状に大きな変化は見られない。

◆今後の方針

- 今後も継続的に堆砂測量を行い、堆砂の傾向と形状について注視するとともに、適切な貯水池管理を行う。



5. 水 質

環境基準類型指定状況

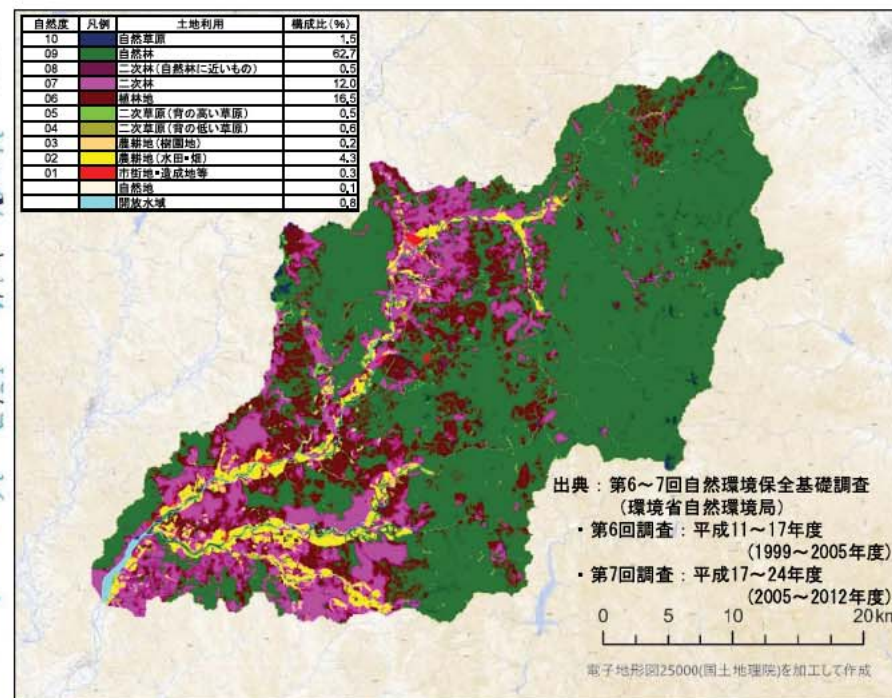
二風谷ダムは、沙流川水系沙流川の中流域に位置する。

沙流川では、貯水池流入端を境とし、上流は河川A類型に、貯水池を含む下流は河川B類型に指定されている（環境基準地点：千呂露橋、長知内橋、沙流川橋）。

二風谷ダム流域の土地利用は、主として自然林、次いで植林地、二次林、農耕地（水田・畑）である。



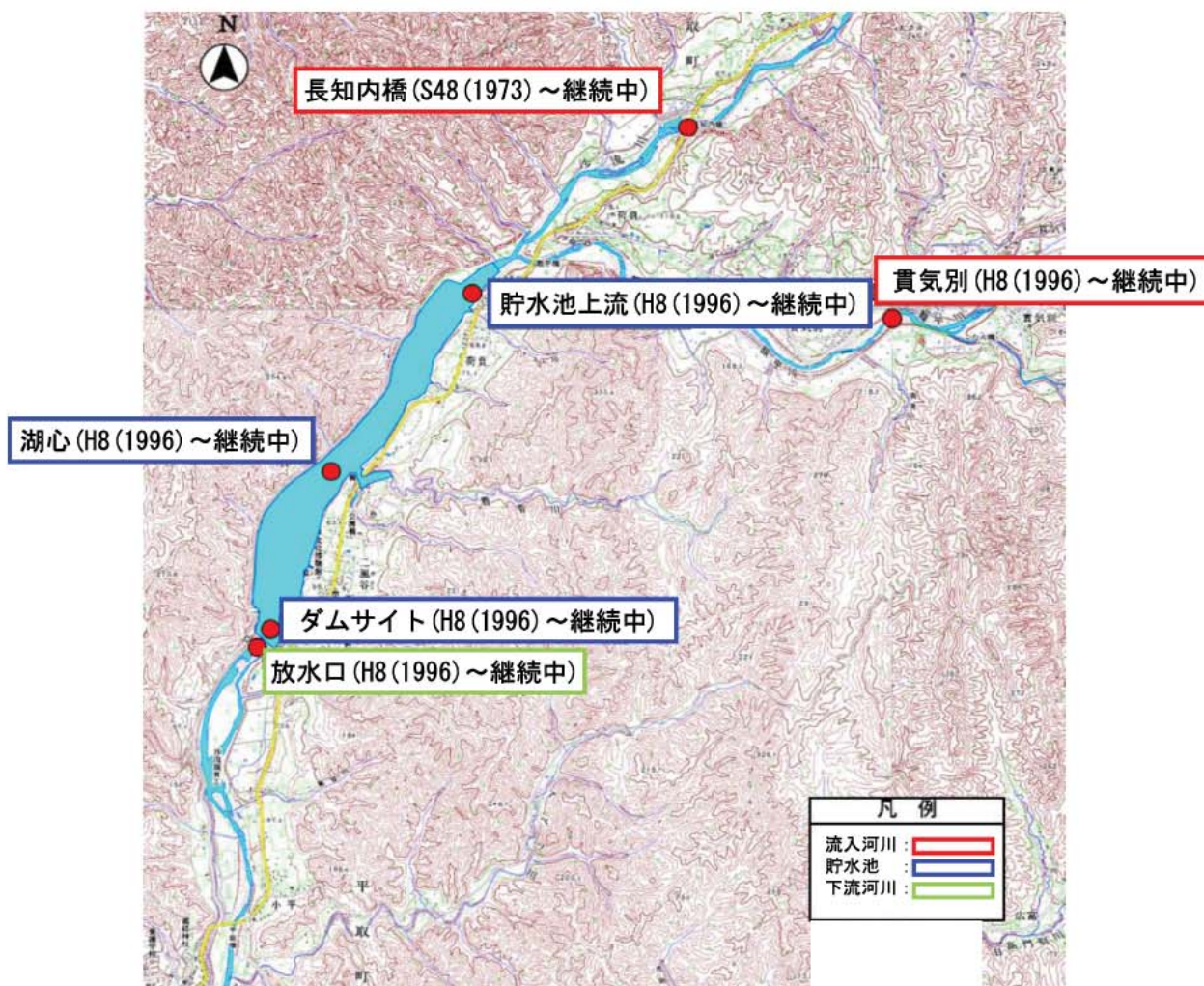
環境基準類型指定状況



二風谷ダム流域の土地利用

定期水質調査地点

二風谷ダムでは、流入河川2地点（長知内橋、貫気別）、貯水池内3地点（ダムサイト、湖心、貯水池上流）、下流河川1地点（放水口）で、定期水質調査を実施している。



二風谷ダムでは、生活環境項目、富栄養化関連項目等について、貯水池内・流入河川・下流河川で月一回を基本として調査している。

健康項目については、ダムサイトで年2回調査している。

◆定期水質調査頻度の概要

種別		流入河川		貯水池			下流河川
調査地点		長知内橋	貫気別	ダムサイト	湖心	貯水池上流	放水口
調査 頻度 ^{注)}	生	年11～12回		年11～12回			年11～12回
	富	—		年11～12回			—
	健	—		年2回			—
	カ	—		年4回			—
	水	—		年4回			—
調査項目		・生活環境項目 ・富栄養化関連項目 ・健康項目（年2回） ・計器観測（水温、濁度、D0等） ・植物プランクトン ・カビ臭関連項目（2-MIB、ジェオスミン）（年4回） ・水道水関連項目（トリハロメタン生成能）（年4回） ・その他（糞便性大腸菌群数等）					

注) 生:生活環境項目、富:富栄養化関連項目、健:健康項目、カ:カビ臭関連項目、水:水道水関連項目を示す。

なお、貯水池内は表層(0.5m)、中層(1/2水深)、底層(底上1.0m)で採水している。

二風谷ダムの水質①(水温)

●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川の水温の年平均値は、長知内橋は7.7～10.2℃、貫気別は10.5～12.8℃、放水口は9.3～11.9℃の範囲で推移しており、流入河川と下流河川で概ね同様の値を示す傾向がある。また、経月変化としては、流入河川・下流河川ともに、夏季に高く、冬季に低くなる規則的な季節変化を示す。
- ・貯水池内の水温の年平均値は、上層は8.9～12.8℃、中層は8.9～12.3℃、下層は9.0～11.9℃の範囲で推移しており、全層で概ね同様の値を示す傾向がある。これは、二風谷ダムの水位が他ダムに比べ浅いことに起因する。また、経月変化としては、全層において夏季に高く、冬季に低くなる規則的な季節変化を示す。

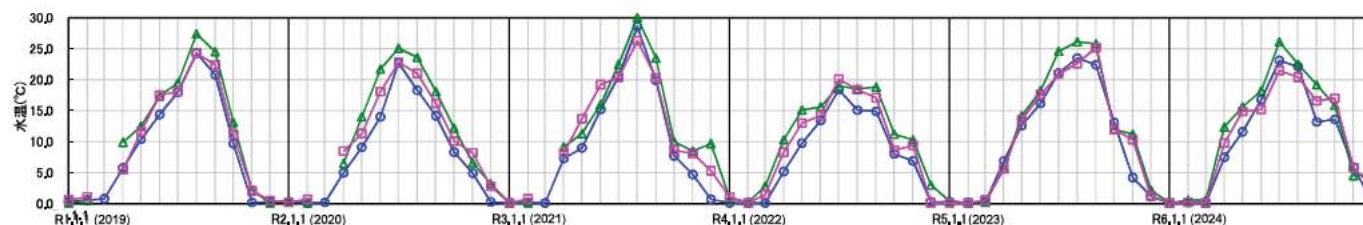
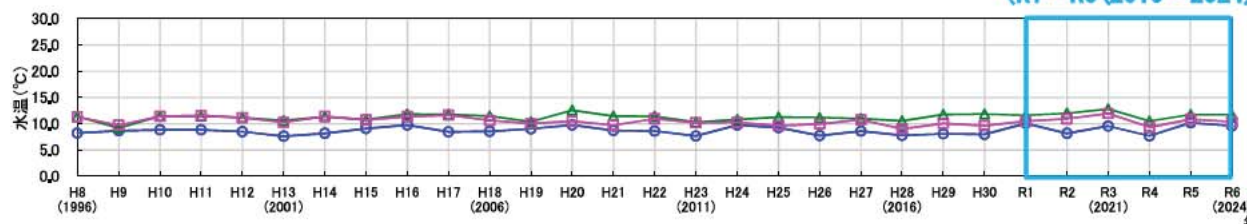
流入河川・下流河川 ：水温(℃)

上段：経年変化(年平均値)

下段：経月変化

—○— 流入河川(長知内橋) —△— 流入河川(貫気別) —□— 下流河川(放水口)

今回の評価対象期間
(R1～R6 (2019～2024))

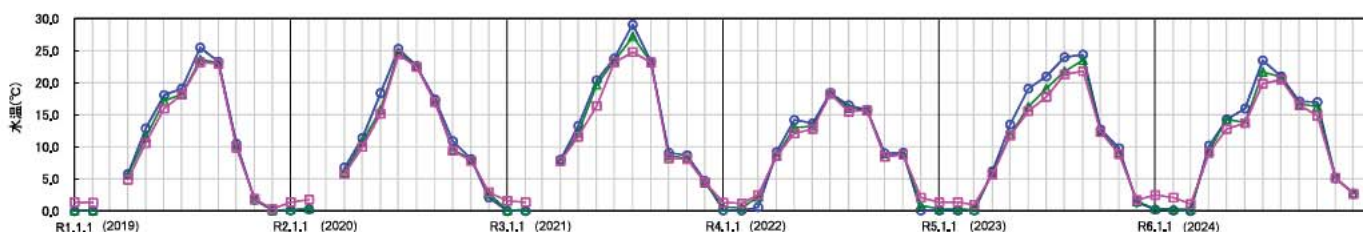
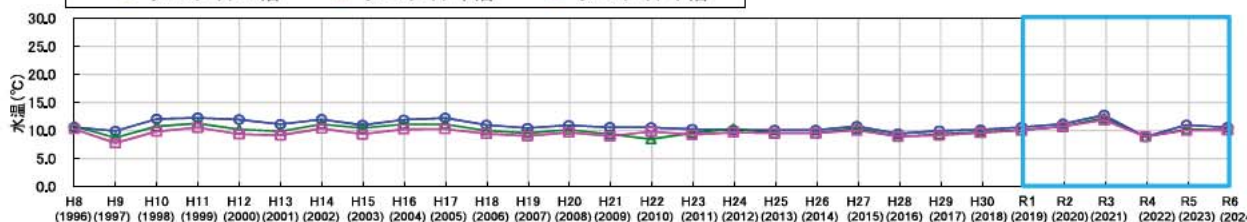


貯水池内：水温(℃)

上段：経年変化(年平均値)

下段：経月変化

—○— ダムサイト上層 —△— ダムサイト中層 —□— ダムサイト下層

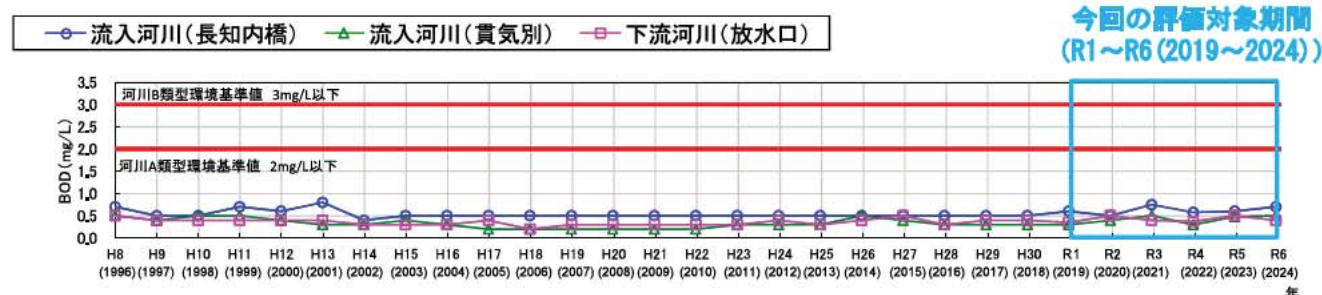


二風谷ダムの水質② (BOD)

●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

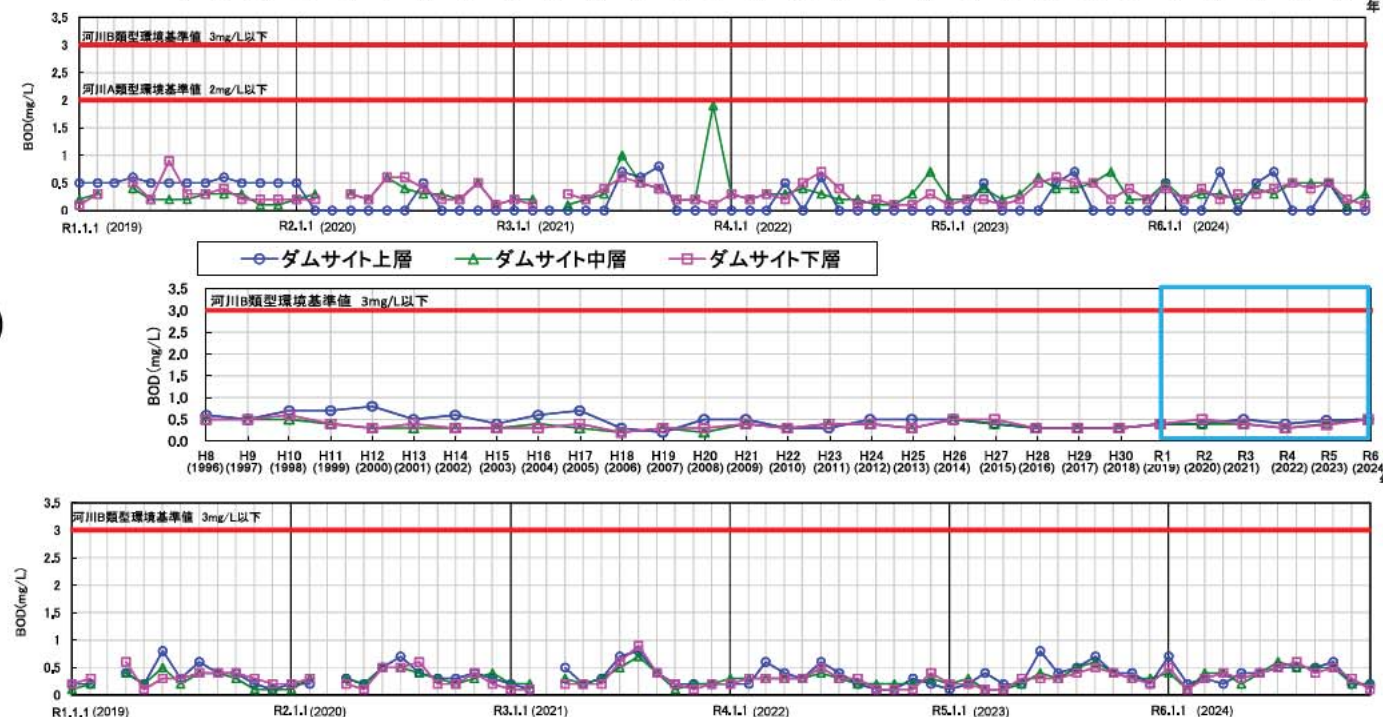
- ・流入河川・下流河川のBODの年75%値は、長知内橋は0.5～0.8mg/L、貫気別は0.2～0.5mg/L、放水口は0.3～0.5mg/Lの範囲で推移し、流入河川・下流河川ともに環境基準を満足する。また、経月変化としては、明確な季節変化は見られない。
- ・貯水池内のBODの年75%値は、0.3～0.5mg/Lの範囲で推移し、全層において環境基準を満足する。また、経月変化としては、全層において夏季から秋季に値がやや高くなる季節変化を示す。

流入河川・下流河川
: BOD (mg/L)
上段: 経年変化 (年75%値)
下段: 経月変化



貯水池内: BOD (mg/L)

上段: 経年変化 (年75%値)
下段: 経月変化



二風谷ダムの水質③ (COD)

●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川のCODの年75%値は、2.0～2.7mg/Lの範囲で推移しており、概ね同様の値を示す傾向がある。また、経月変化としても流入河川と下流河川で概ね同様の値を示す傾向がある。令和3年12月に値が高くなっているが、その原因として調査当日の朝方の降雨による影響が考えられる。
- ・貯水池内のCODの年75%値は、2.1～2.8mg/Lの範囲で推移し、全層で概ね同様の値を示す傾向がある。また、経月変化としては、夏季から秋季にかけてやや値が高くなる季節変化を示す。

流入河川・下流河川 ：COD (mg/L)

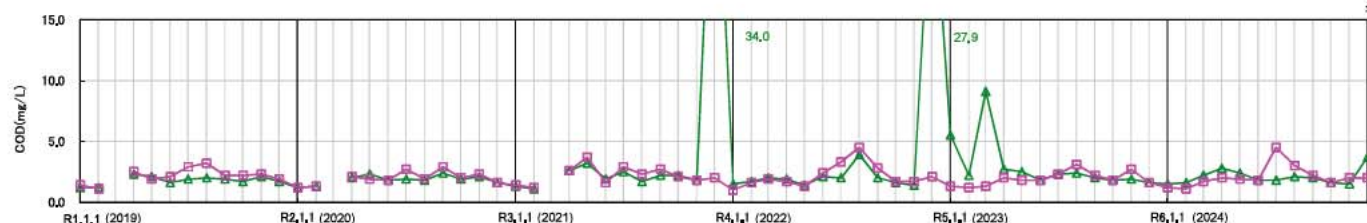
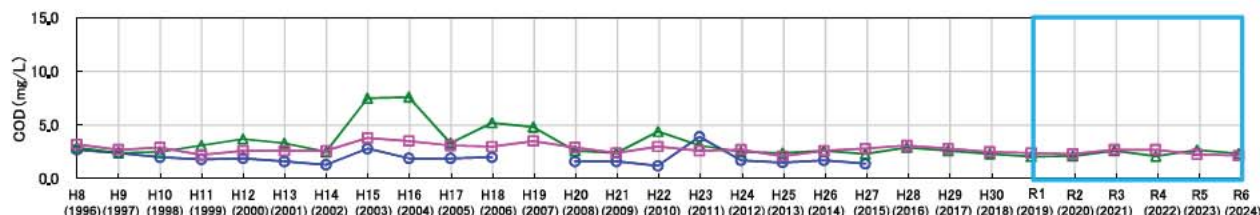
上段：経年変化(年75%値)

下段：経月変化

※流入河川(長知内橋)のCODは、
H19, 28～R6 (2007, 2016～2024) 年は
調査未実施

—○— 流入河川(長知内橋) —△— 流入河川(貫気別) —□— 下流河川(放水口)

今回の評価対象期間
(R1～R6 (2019～2024))

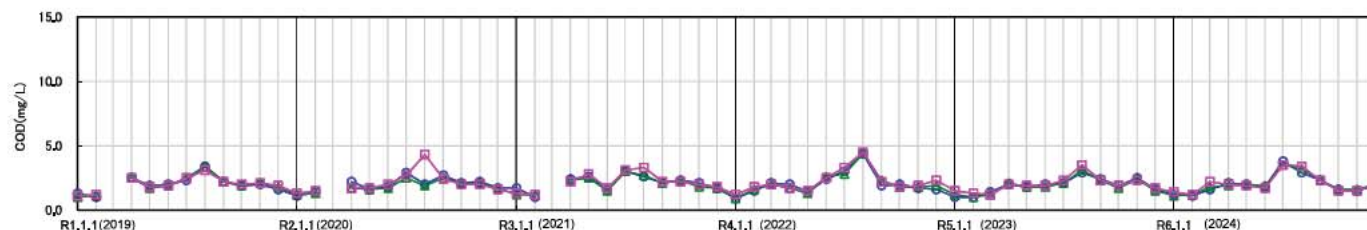
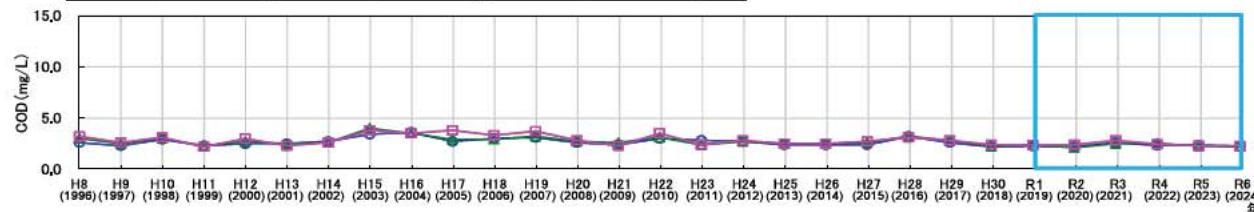


—○— ダムサイト上層 —△— ダムサイト中層 —□— ダムサイト下層

貯水池内：COD (mg/L)

上段：経年変化(年75%値)

下段：経月変化



二風谷ダムの水質④ (pH)

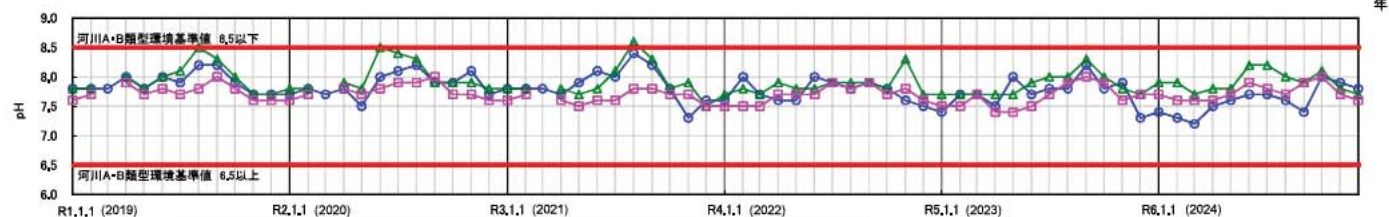
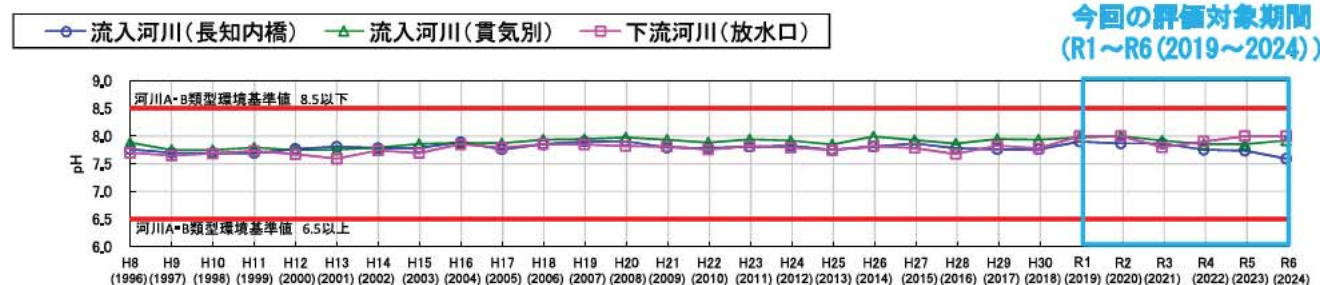
●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川のpHの年平均値は、7.6～8.0の範囲で概ね同様の値で推移しており、流入河川・下流河川ともに環境基準の範囲内である。また、経月変化としては、概ね同様の値で推移しているが、流入河川（貫気別）において令和3年8月に基準値を超過している。原因としては、水温上昇により藻類が活性化したと考えられる。
- ・貯水池内のpHの年平均値は、全層で環境基準の範囲内で推移しており、全層で概ね同様の値を示す傾向がある。また、経月変化としては、全層で夏季から秋季にかけて値がやや高くなる季節変化を示す。

流入河川・下流河川 ： pH

上段：経年変化（年平均値）

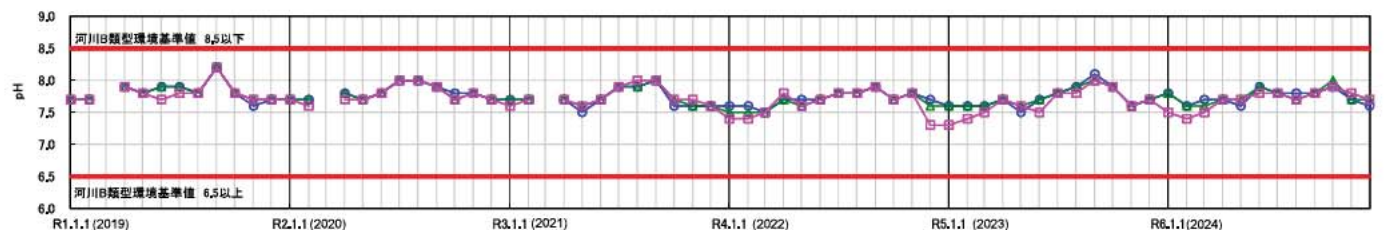
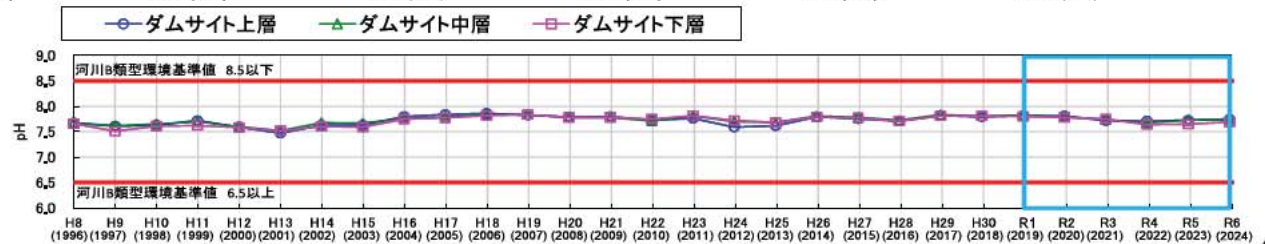
下段：経月変化



貯水池内： pH

上段：経年変化（年平均値）

下段：経月変化



二風谷ダムの水質⑤(SS)

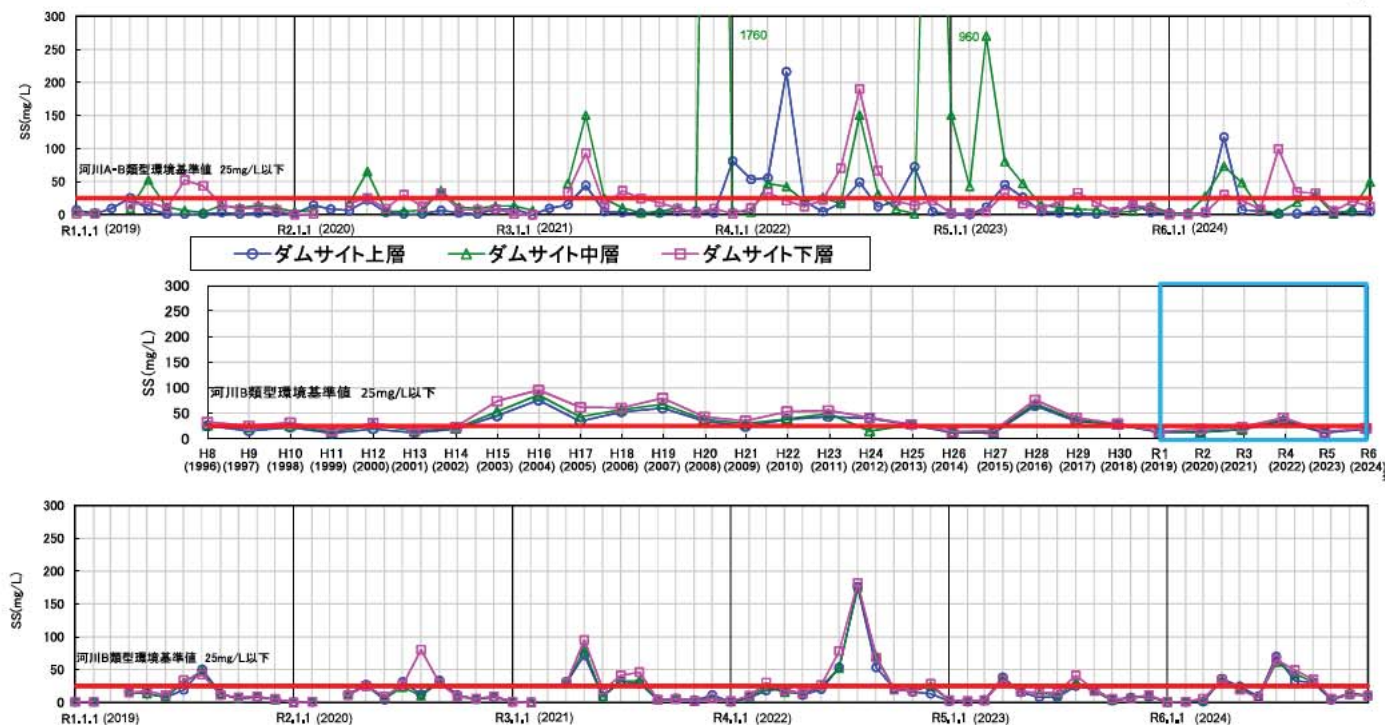
●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

- ・年平均値は、5.5～184.4mg/Lの範囲で推移し、流入河川（長知内）では環境基準を概ね満足しているが、流入河川（貫気別）・下流河川（放水口）では環境基準を上回る傾向がある。また、経月変化としては、流入河川・下流河川ともに融雪・降雨による出水の影響で値が高くなる場合があるが、懸濁物の貯水池内での滞留時間の影響で濃度上昇のタイミングが異なる傾向が見られる。
- ・貯水池内のSSの年平均値は、全層で概ね同様の傾向があり、全層で環境基準を上回る場合がある。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられないが、融雪・降雨による出水の影響で値が高くなる場合がある。

流入河川・下流河川
：SS (mg/L)
上段：経年変化(年平均値)
下段：経月変化



貯水池内：SS (mg/L)
上段：経年変化(年平均値)
下段：経月変化



二風谷ダムの水質⑥(DO)

●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川のDOの年平均値は、長知内橋は11.5～12.0mg/L、貫気別は11.2～11.6mg/L、放水口は11.5～12.3mg/Lの範囲で推移している。流入河川・下流河川ともに環境基準を満足しており、概ね同様の傾向である。また、経月変化としては、春季から夏季にかけて値が低くなり、夏季から秋季にかけて値が高くなる季節変化を示す。
- ・貯水池内のDOの年平均値は、上層では11.0～11.6mg/L、中層では11.0～11.4mg/L、下層では10.6～11.3mg/Lの範囲で推移している。全層で環境基準を満足しており、概ね同様の傾向である。また、経月変化としては、全層において春季から夏季にかけて値が低くなり、夏季から秋季にかけて値が低下する傾向がある。

流入河川・下流河川

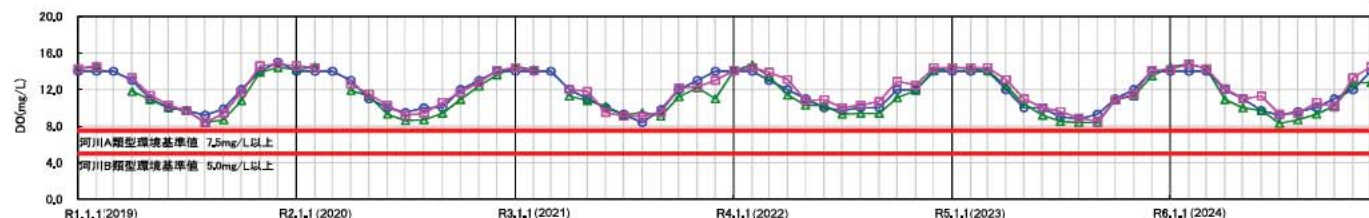
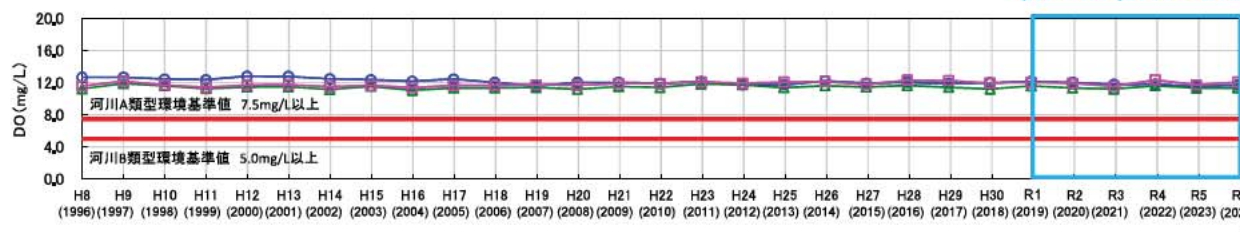
: DO (mg/L)

上段: 経年変化(年平均値)

下段: 経月変化

—○— 流入河川(長知内橋) —△— 流入河川(貫気別) —□— 下流河川(放水口)

今回の評価対象期間
(R1～R6(2019～2024))

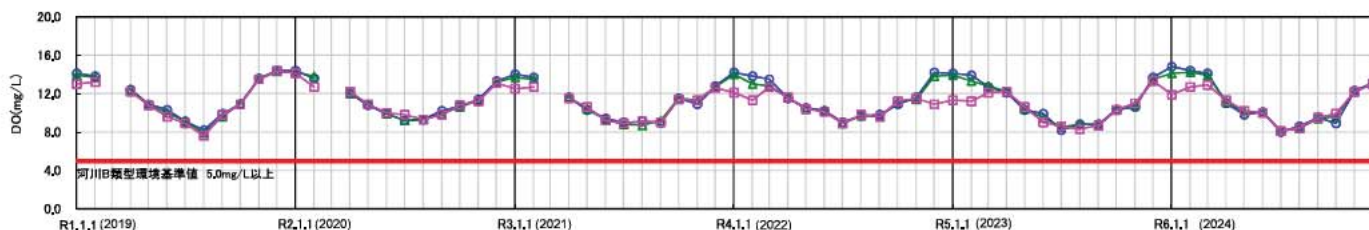
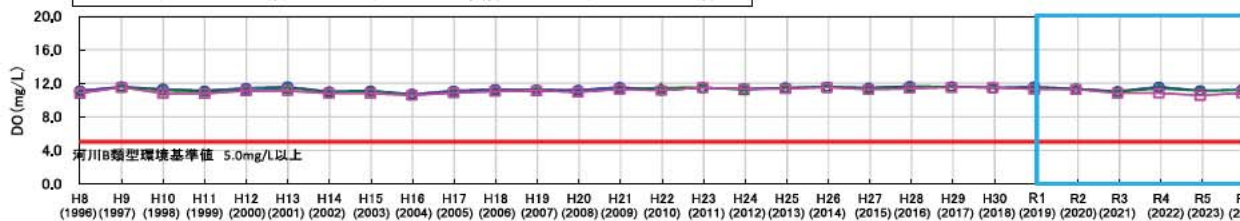


貯水池内: DO (mg/L)

上段: 経年変化(年平均値)

下段: 経月変化

—○— ダムサイト上層 —△— ダムサイト中層 —□— ダムサイト下層



二風谷ダムの水質⑦(T-N)

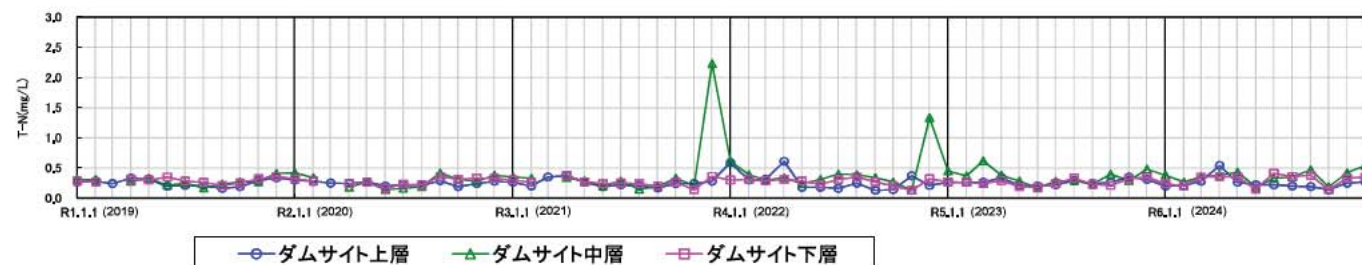
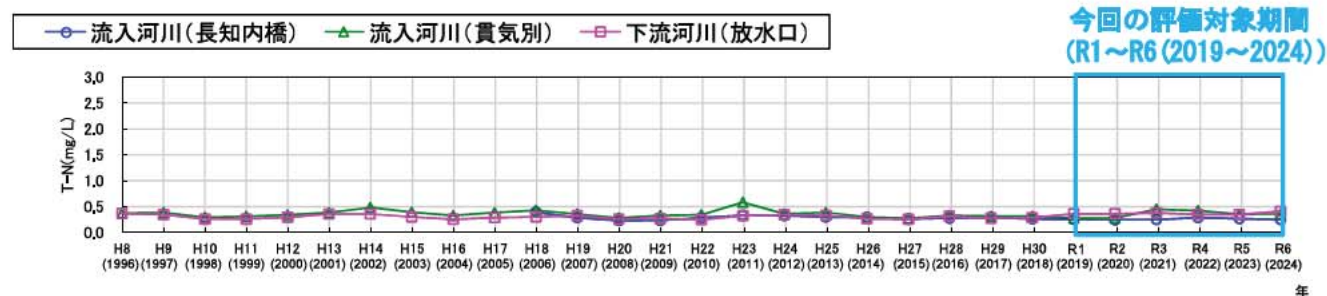
●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川のT-Nの年平均値は、0.25～0.45mg/Lの範囲で推移しており、流入河川と下流河川で概ね同様の傾向を示す。また、経月変化としては特筆すべき季節変化はみられない。令和3年12月に値が高くなっているが、その原因として調査当日の朝方の降雨による影響が考えられる。
- ・貯水池内のT-Nの年平均値は、流入河川・下流河川ともに0.3mg/L付近で推移しており、全層で概ね同様の値を示す傾向にある。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられない。

流入河川・下流河川 : T-N(mg/L)

上段：経年変化(年平均値)

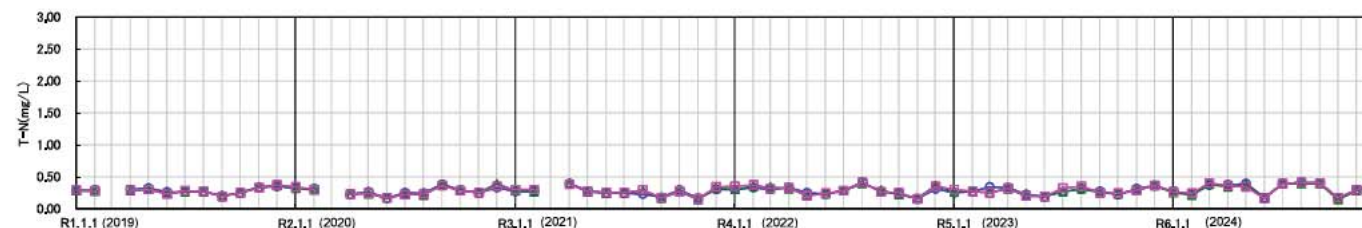
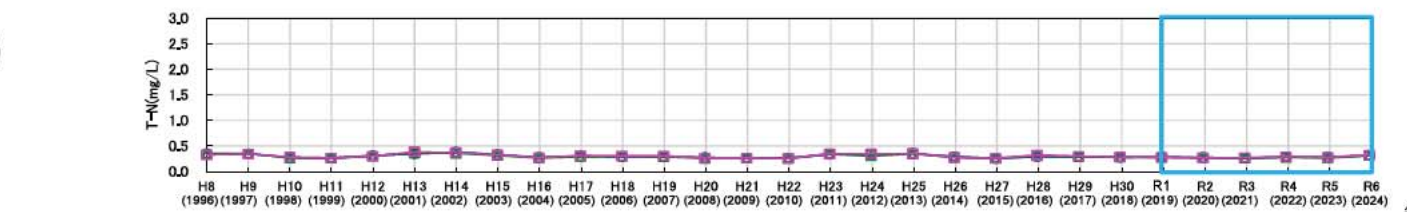
下段：経月変化



貯水池内：T-N(mg/L)

上段：経年変化(年平均値)

下段：経月変化



二風谷ダムの水質⑧(T-P)

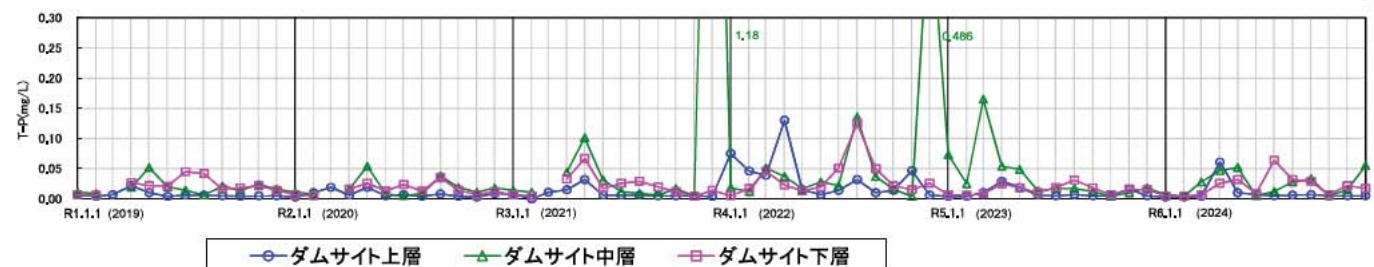
●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

- ・流入河川・下流河川のT-Pの年平均値は、0.007～0.130mg/Lの範囲で推移しており、流入河川（貫気別）・下流河川と比較して流入河川（長知内橋）が低い値を示す傾向がある。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられない。令和3年12月に値が高くなっているが、その原因として調査当日の朝方の降雨による影響が考えられる。
- ・貯水池内のT-Pの年平均値は、上層は0.015～0.035mg/L、中層は0.016～0.036mg/L、下層は0.016～0.038mg/Lの範囲で推移しており、全層で概ね同様の値を示す傾向がある。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられない。

流入河川・下流河川 ：T-P(mg/L)

上段：経年変化(年平均値)

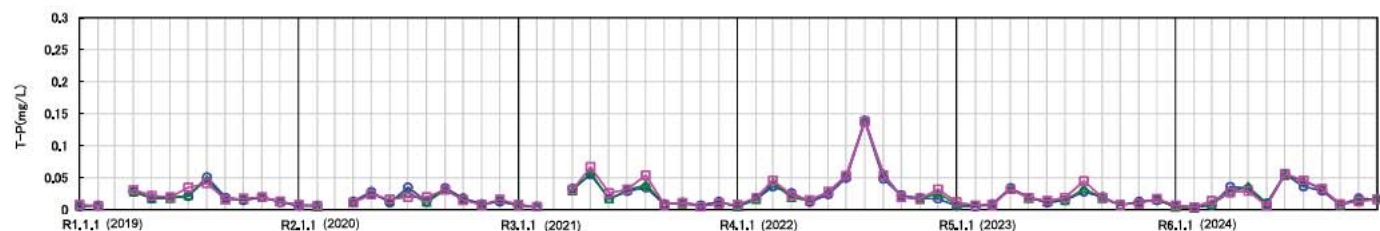
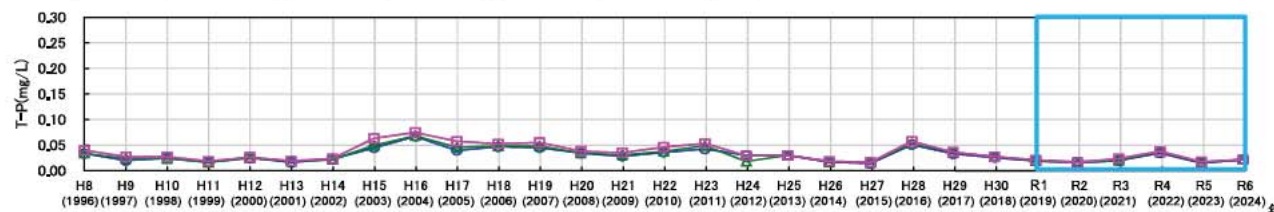
下段：経月変化



貯水池内：T-P(mg/L)

上段：経年変化(年平均値)

下段：経月変化



二風谷ダムの水質⑨(クロロフィルa)

●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

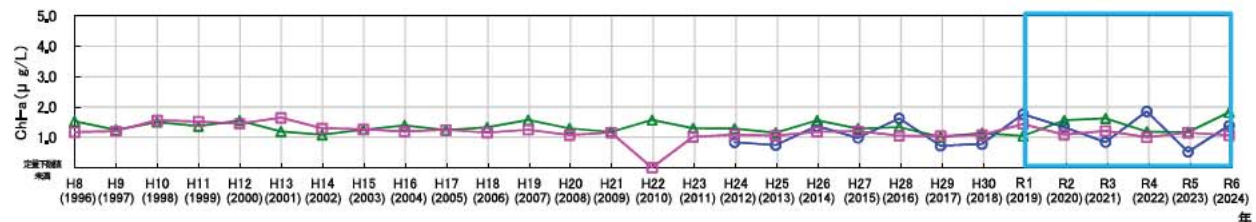
- ・流入河川のクロロフィルa(Chl-a)の年平均値は、0.52～1.85 $\mu\text{g/L}$ の範囲で推移している。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられない。
- ・貯水池内のクロロフィルa(Chl-a)の年平均値は、上層は1.13～1.89 $\mu\text{g/L}$ 、中層は1.03～1.83 $\mu\text{g/L}$ 、下層は1.00～1.57 $\mu\text{g/L}$ の範囲で推移している。また、経月変化としては、特筆すべき季節変化はみられない。

流入河川・下流河川 : Chl-a($\mu\text{g/L}$)

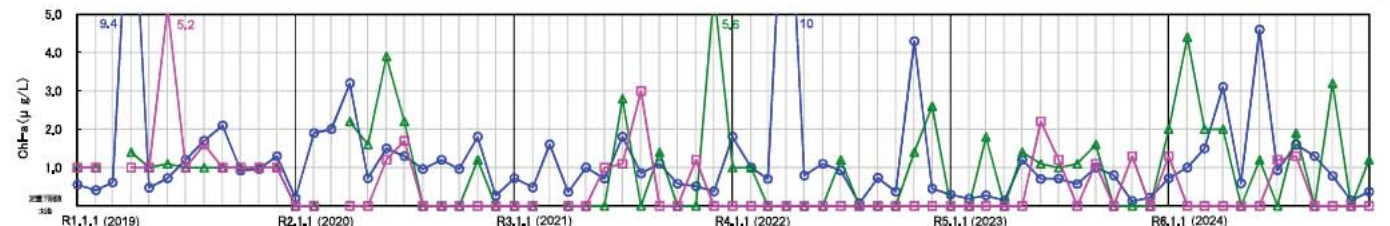
上段：経年変化(年平均値)
下段：経月変化

○流入河川(長知内橋) △流入河川(貴気別) □下流河川(放水口)

今回の評価対象期間
(R1～R6(2019～2024))



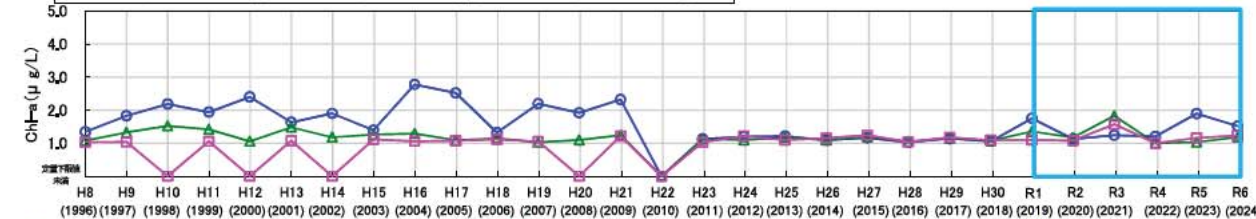
※定量下限値：
長知内橋0.01 $\mu\text{g/L}$
貴気別・放水口1.0 $\mu\text{g/L}$



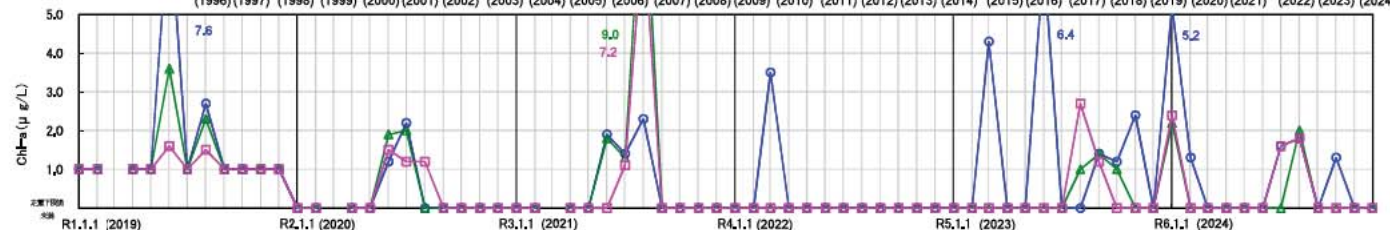
貯水池内：Chl-a($\mu\text{g/L}$)

上段：経年変化(年平均値)
下段：経月変化

○ダムサイト上層 △ダムサイト中層 □ダムサイト下層



※定量下限値：1.0 $\mu\text{g/L}$



貯水池内の水質鉛直分布

- 水温鉛直分布は、年間を通じて上層から下層までほぼ一様であり、ほとんど水温躍層を形成しない。貯水池の水深が浅く、回転率が高いためと考えられる。
- DO鉛直分布についても、上層から下層までほぼ一様であるが、冬季には上層で値が高くなる傾向がある。
- 濁度鉛直分布は、出水等により一時的に全層で濃度が上昇する場合があります。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

R1 (2019)

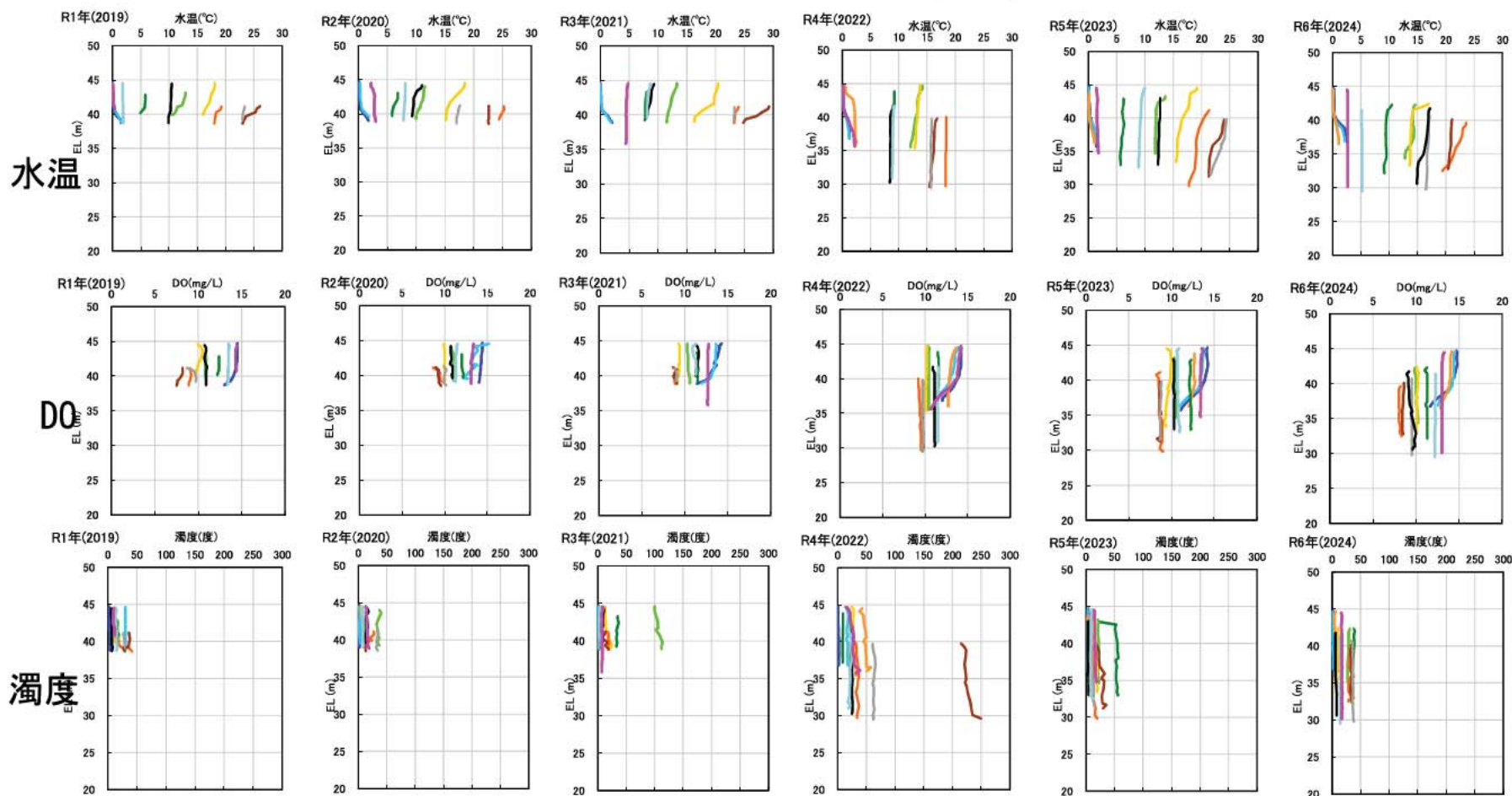
R2 (2020)

R3 (2021)

R4 (2022)

R5 (2023)

R6 (2024)

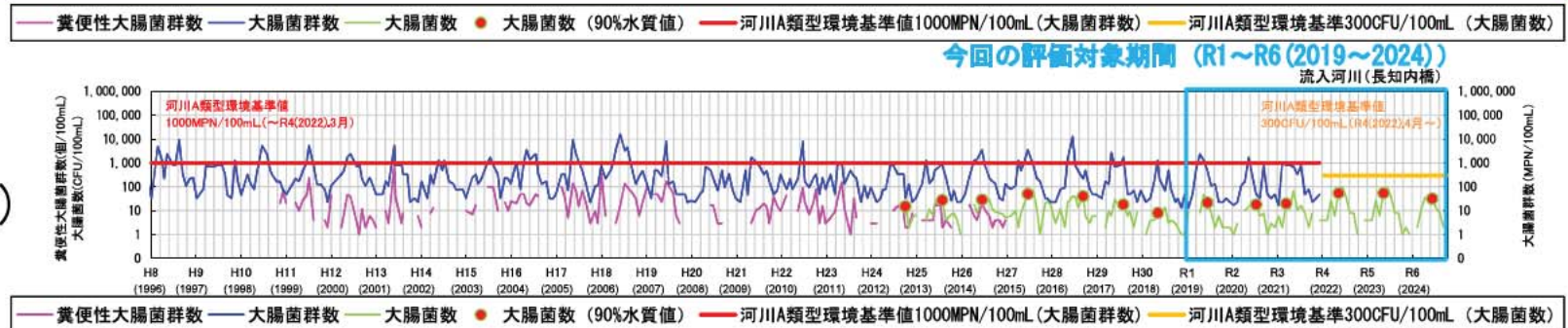


大腸菌群数、糞便性大腸菌群数及び大腸菌数

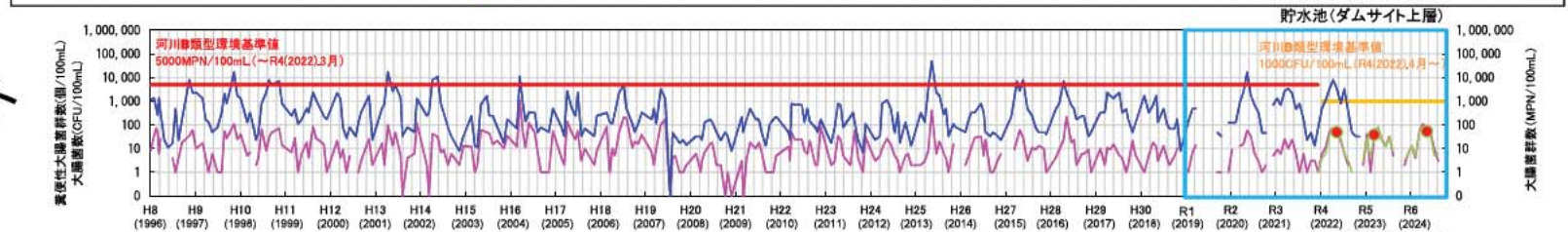
●今回の評価対象期間R1～R6(2019～2024)を中心に評価を行った。

- ・大腸菌群数は、全地点で夏季に環境基準を超過する傾向を示す。
- ・糞便性大腸菌群数は、概ね水浴場水質基準の「適」の基準以下であることを確認しており、衛生上の問題は小さいと考えられる。
- ・大腸菌数は、流入河川・ダムサイト・下流河川の全てにおいて概ね100CFU/100mL以下で推移し、「90%水質値」は環境基準を満足する傾向にある。

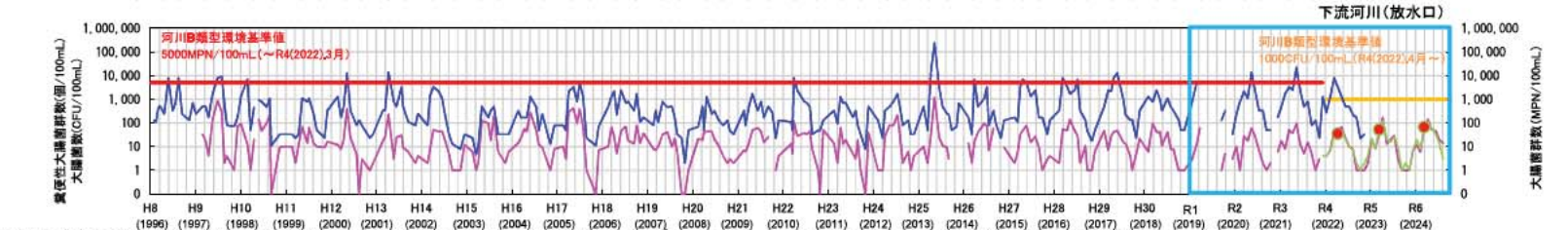
流入河川 (長知内橋)



ダムサイト (上層)



下流河川 (放水口)



※大腸菌群数:長知内橋は令和4年(2022年)3月、その他の流入・下流河川、ダムサイトでは令和5年(2023年)3月まで観測
 ※大腸菌数:長知内橋は平成24年(2012年)11月から、その他の流入・下流河川、ダムサイトでは令和4年(2022年)4月から観測
 ※糞便性大腸菌群数の水浴場水質基準では、100個/100mL以下が適、100～1000個/100mLが可とされる。
 ※大腸菌数は「90%水質値」(年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の0.9×n番目のデータ値(0.9×nが整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値))を併記

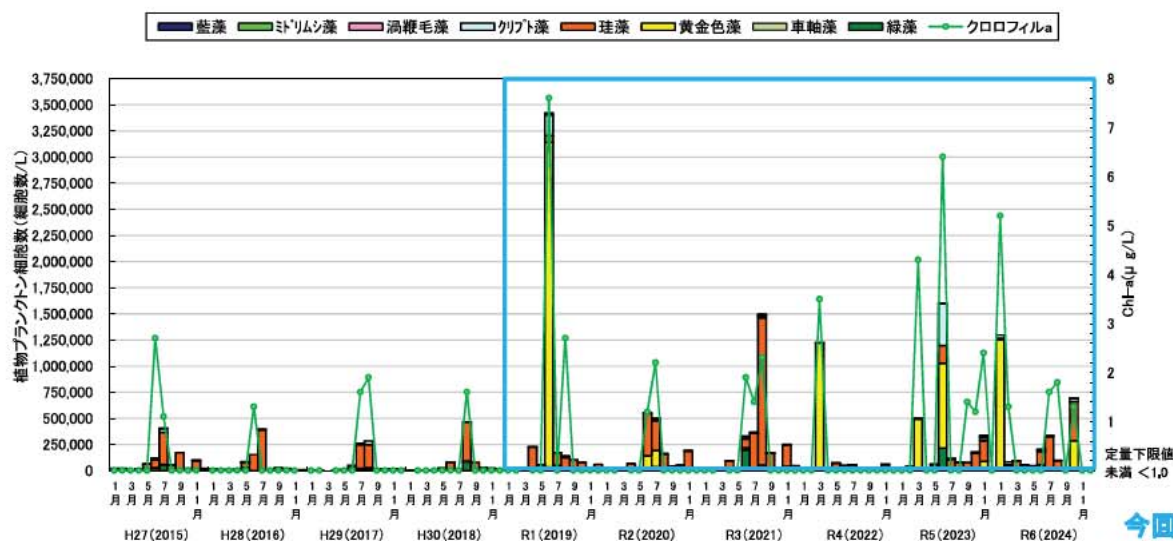
- ・大腸菌群…糞便による汚染の指標として、大腸菌の生化学的性状をもつ細菌を検出した菌群。水中や土壌由来の菌類も検出される。
- ・糞便性大腸菌群…一般に45℃付近の高温条件下で増殖できる大腸菌群をいう。大腸菌群に比べると糞便汚染による指標性が高い指標細菌とみなされている。
- ・大腸菌…ヒトや温血動物の腸管内に常在する細菌で、便で汚染されていない水、土壌、植物等に存在することはまれである。
 生活環境の保全に関する基準のうち、大腸菌群数に代わる新たな項目として設定された(令和3年10月7日告示、令和4年4月1日施行)。

貯水池内の植物プランクトン

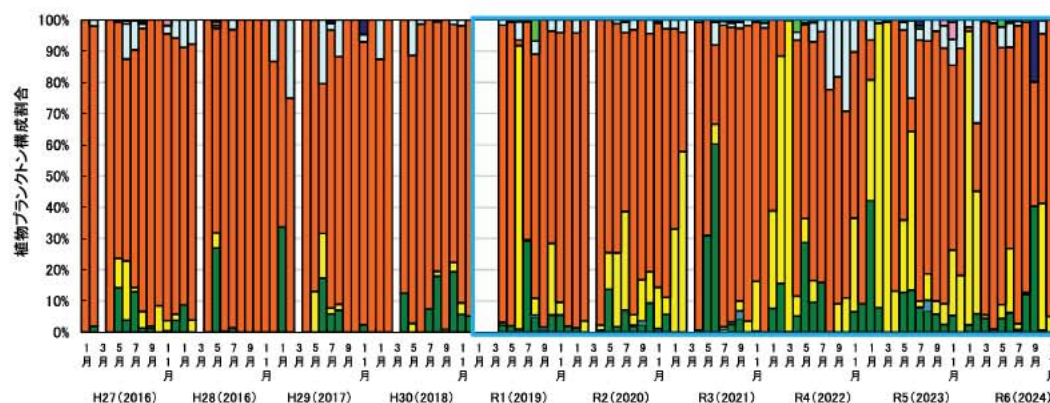
●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

- ・植物プランクトン細胞数は、最大で令和元年(2019年)6月に3,423,150細胞数/Lであったが、概ね1,000,000細胞数/L以下で推移している。
- ・珪藻類が増殖する5月から7月にかけて細胞数が増える傾向を示す。
- ・優占種は、珪藻類または黄金色藻類となる場合が多い。

ダムサイト上層の植物プランクトン細胞数・構成割合



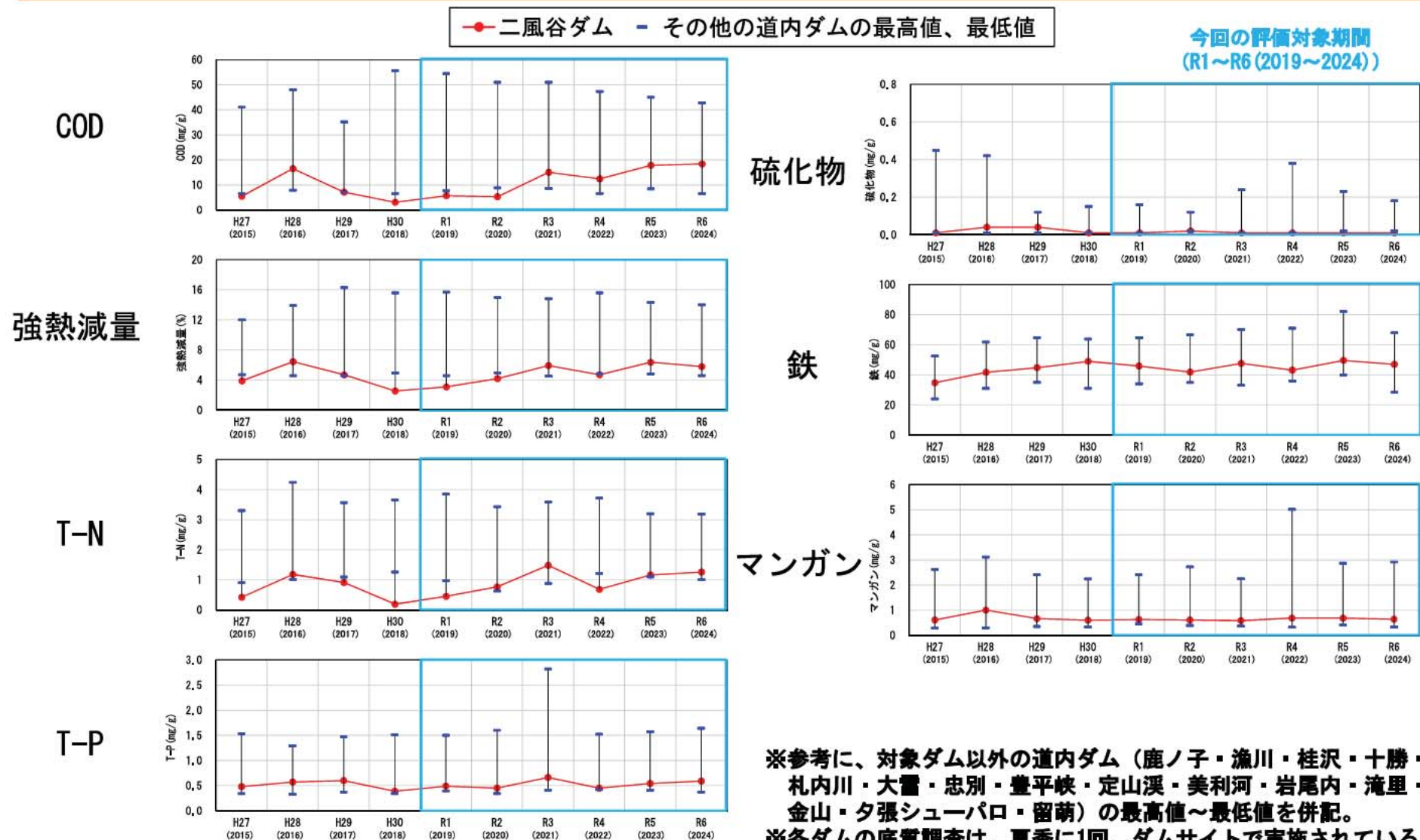
今回の評価対象期間
(R1～R6 (2019～2024))



底質の状況

●今回の評価対象期間R1～R6 (2019～2024) を中心に評価を行った。

- 全項目において、その他の道内ダムと比べて低い値であり、COD・強熱減量・T-N・硫化物の4項目においてはその他の道内ダムの最低値となる場合がある。経年的にも大きな変化はみられない。



◆水質のまとめ

- 流入河川、貯水池内、下流河川の評価期間の水質は、SS・大腸菌群数を除いていずれの調査地点でも概ね環境基準を満足しており、良好な状況にある。
- 貯水池内の植物プランクトンは、概ね1,000,000細胞数/L以下のレベルで推移し、優占種は珪藻類または黄金色藻類の場合が多く、富栄養化の問題は生じていない。

◆今後の方針

- 水質調査計画に基づき、流入河川・貯水池内・下流河川の水質の状況について、継続して調査・監視していく。
- SSの変化については、今後も注視する。

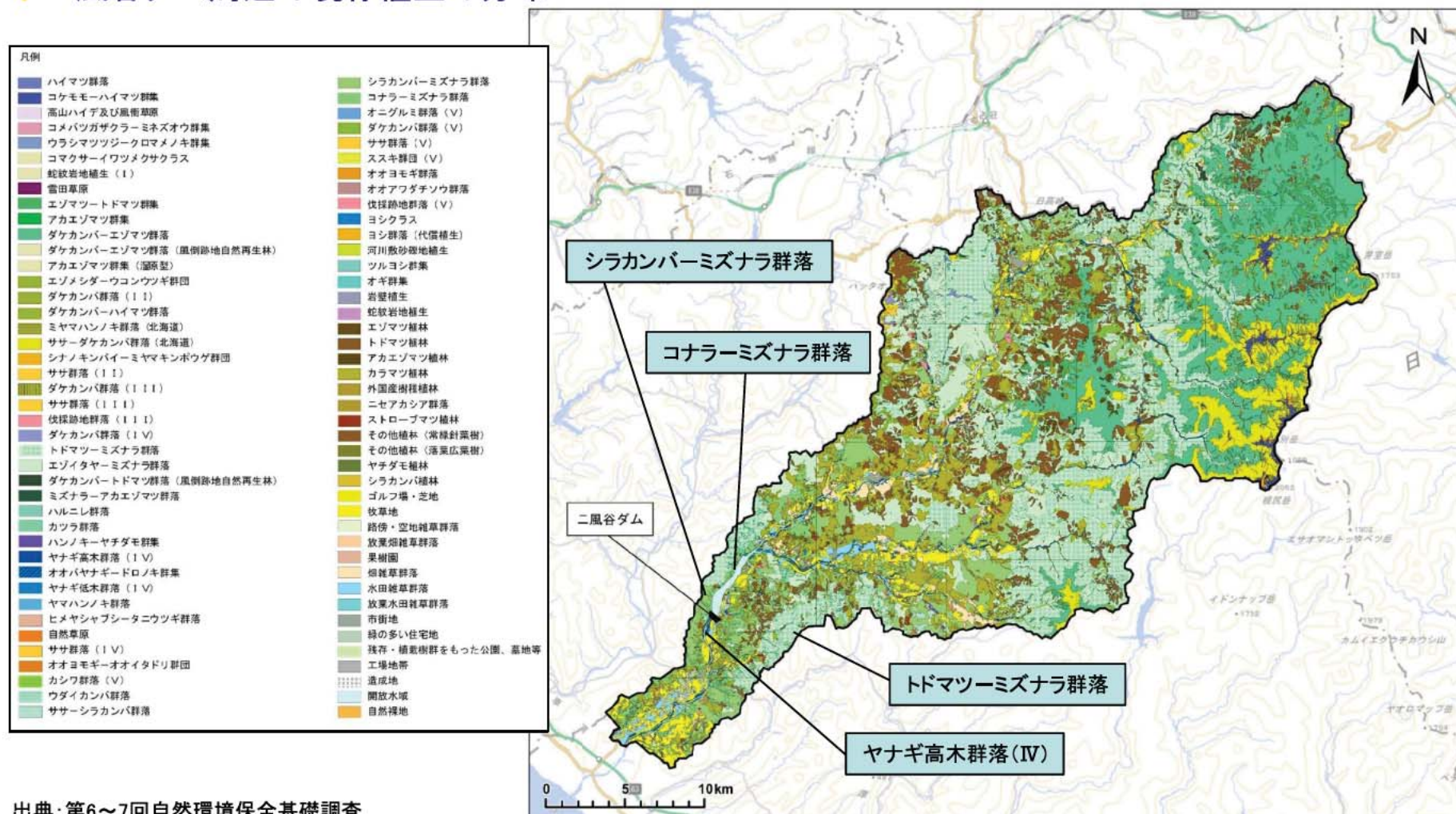


6. 生 物

ダムとその周辺域における自然環境の概況

二風谷ダムは、沙流川水系沙流川の河口から約21km上流に位置する。その集水面積は1,215km²で、ダム流域にはダム湖近傍にコナラーミズナラ群落、シラカンバーミズナラ群落、ヤナギ高木群落(Ⅳ)等が分布し、その周辺にトドマツミズナラ群落等が分布している。

◆二風谷ダム周辺の現存植生の分布



これまで、モニタリング調査及び河川水辺の国勢調査として、魚類、底生動物、動植物プランクトン、植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等、環境基図作成調査等の調査を継続的に実施した。

[illegible]

注) 1. 平成9年ダム竣工

2. ☐は本報告における生物の生息・生育環境の変化の検討項目を示す。

3. ○: モニタリング調査、●: 河川水辺の国勢調査であることを示す。

4. 平成18(2006)年度以降は、河川水辺の国勢調査の見直しが行われ、魚類、底生動物、動植物プランクトン、環境基因作成調査(水域・陸域)については5年に1回、植物、鳥類、哺乳類・爬虫類・両生類、陸上昆虫類等については10年に1回の頻度で調査が実施されることとなった。

5. モニタリング調査結果をもとに、継続調査となった調査

6. 平成10(1998)年度は哺乳類のみが対象。

7. 動植物プランクトンは、定期水質調査において同時に実施。

今回定期報告書作成時の評価対象年度(R1(2019)～R6(2024))。なお、評価対象としたR1(2019)～R6(2024)年度に調査を実施していない鳥類については、本評価の対象外とした。

検証を行う場所の設定

◆二風谷ダム周辺図



分析項目の選定

二風谷ダム特性(立地条件、経過年数、既往調査結果、出水の状況、貯水池運用の状況、環境保全対策の実施状況等)を踏まえ、ダムの存在やダムの管理・運用に伴い、影響が想定される生物群について分析項目を選定した。

項目		選定理由	ダム湖内	流入河川	下流河川	ダム湖周辺
魚類	ダム湖内の魚類の生息状況	ダム湖内を魚類が利用しており、これら魚類の生息状況の変化等について検証する必要がある。	○			
	回遊性魚類の生息状況	ダムの存在に伴い、河川域が分断されており、回遊性魚類の生息状況が変化する可能性が考えられる。	○	○	○	
	底生性魚類の生息状況	ダムの存在や管理・運用に伴い、ダム下流河川において、土砂供給量の変化、流況の安定化等の環境変化が発生し、それに伴い、砂礫底等を利用する底生性魚類の生息状況が変化する可能性が考えられる。		○	○	
底生動物	EPT指数※	ダムの存在や管理・運用に伴い、ダム下流河川において、土砂供給量の変化、流況の安定化等の環境変化が発生し、それに伴い、ダム下流河川に生息する底生動物の種組成が変化する可能性が考えられる。		○	○	
	生活型					
植物	植生の変化(水位変動域・上流端)	湛水域の存在、ダム管理・運用に伴う水位変動域の存在等により、水位変動域や貯水池上流端の外來種の侵入など植生が変化する可能性が考えられる。				○
	植生の変化(流入河川)	ダムの存在や管理・運用に伴う生息・生育環境の攪乱等により、流入河川の植生が変化する可能性が考えられる。		○		
	植生の変化(下流河川)	ダムの存在や管理・運用に伴い、土砂供給量の変化、流況の安定化等の環境変化が発生し、それに伴い、ダム下流河川の植生が変化する可能性が考えられる。			○	
両生類・爬虫類・哺乳類	ダム湖周辺の両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況	ダム湖周辺を両生類・爬虫類・哺乳類が利用しており、これらの生息状況等について検証する必要がある。				○
陸上昆虫類等	止水性トンボ類・樹林性・草原性チョウ類の生息状況	湛水域の存在、ダム管理・運用に伴う水位変動域の存在等により、陸上昆虫類の生息状況が変化する可能性が考えられる。				○

※EPT指数とは、水質の良好さを示す指標の一つである。

生物の生息・生育状況の変化の検証

【魚類】ダム湖内における魚類の確認状況

- ・ダム湖内においては、既往の調査全体で7科22種類の魚類が確認され、コイ(型不明)、ギンブナ、エゾウグイ、フクドジョウが経年的に確認されている。
- ・重要な種としては、エゾウグイ、サクラマス(ヤマメ)、ジュズカケハゼ等の6種類が確認されており、エゾウグイは概ね経年的に確認個体数が最も多くなっている。
- ・外来種として、コイ(型不明)、モツゴ、ドジョウ類、ニジマスの4種類が確認されている。

◆ダム湖内における魚類の確認状況

No.	科名	種類名	学名	H16 (2004)	H18 (2006)	H23 (2011)	H28 (2016)	R3 (2021)	備考
1	ヤツメウナギ	シベリアヤツメ	<i>Lethenteron kessleri</i>	●			●	●	底生性
2	コイ	コイ(型不明)	<i>Cyprinus carpio</i>	●	●	●	●	●	
3		ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.	●	●	●	●	●	
4		フナ属 ^{注3}	<i>Carassius</i> sp.		●		●	●	
5		ヤチウグイ	<i>Rhynchocypris percunurus sachalinensis</i>				●		
6		エゾウグイ	<i>Pseudaspius sachalinensis</i>	◎	●	●	◎	◎	回遊性
7		ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>	●	●	●	●	●	回遊性
8		ウグイ属 ^{注3}	<i>Pseudaspius</i> sp.	●	●	◎	●	●	
9		モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>		●	●	●	●	
10		コイ科 ^{注3}	Cyprinidae sp.			●		●	
11	ドジョウ	ドジョウ類	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i> sp.complex			●	●	●	底生性
12	フクドジョウ	フクドジョウ	<i>Barbatula oreas</i>	●	◎	●	●	●	底生性
13	サケ	アメマス	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>				●	●	回遊性
14		ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>				●		回遊性
15		サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>	●	●	●	●	●	回遊性
16		ベニザケ	<i>Oncorhynchus nerka</i>		●				回遊性
17		カラフトマス	<i>Oncorhynchus gorboscha</i>		●				回遊性
18		サクラマス(ヤマメ)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>	●	●	●	●	●	回遊性
19	トゲウオ	トミヨ	<i>Pungitius sinensis</i>			●	●	●	
20	ハゼ	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>			●			底生性
21		トウヨシノボリ種群	<i>Rhinogobius</i> sp. OR unidentified complex			●	●	●	底生性
22		ヨシノボリ属 ^{注3}	<i>Rhinogobius</i> sp.		●				
23		ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		●	●	●	●	底生性
24		シマウキゴリ	<i>Gymnogobius opperiens</i>			●			底生性
25		ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>		●	●	●	●	底生性
26		ウキゴリ属 ^{注3}	<i>Gymnogobius</i> sp.					●	
27	7科	22種類	確認種類数	8種類	14種類	16種類	18種類	16種類	-

注)1.ダム湖内で実施した平成16(2004)年度、平成18(2006)年度、平成23(2011)年度、平成28(2016)年度及び令和3(2021)年度の春季、夏季及び秋季調査による確認種を整理した。

2.和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」による。

3.モツゴ、フナ属はギンブナ、ウグイ属はエゾウグイ、ウグイ、コイ科はコイ(型不明)、ヤチウグイ、モツゴ、ヨシノボリ属はトウヨシノボリ種群、ウキゴリ属はウキゴリ、シマウキゴリ、ジュズカケハゼとそれぞれ同一の可能性があるため、種類数のカウントには含んでいない。

4.青字は重要な種、赤字は外来種であることを示す。

5.「●」:確認種、「空欄」:未確認種、「◎」:確認種のうち確認個体数が一番多いものを示す。

- ・回遊性魚類として、エゾウグイ、ウグイ、サクラマス(ヤマメ)等の8種類が確認された。
- ・エゾウグイはダム湖内、流入河川及び下流河川で、ウグイ、サケはダム湖内及び下流河川で、サクラマス(ヤマメ)はダム湖内で経年的に確認されている。

◆回遊性魚類の確認状況

種類名	調査年度	ダム湖内	流入河川	下流河川
エゾウグイ <i>Pseudaspius sachalinensis</i>	H16(2004)	●	●	●
	H18(2006)	●	●	●
	H23(2011)	●	●	●
	H28(2016)	●	●	●
	R3(2021)	●	●	●
ウグイ <i>Pseudaspius hakonensis</i>	H16(2004)	●		●
	H18(2006)	●	●	●
	H23(2011)	●		●
	H28(2016)	●	●	●
	R3(2021)	●	●	●
アメマス <i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>	H16(2004)			
	H18(2006)			
	H23(2011)			
	H28(2016)			
	R3(2021)			●
ニジマス <i>Oncorhynchus mykiss</i>	H16(2004)			
	H18(2006)			
	H23(2011)			
	H28(2016)	●	●	
	R3(2021)			

種類名	調査年度	ダム湖内	流入河川	下流河川
サケ <i>Oncorhynchus keta</i>	H16(2004)	●		●
	H18(2006)	●		●
	H23(2011)	●		●
	H28(2016)	●	●	●
	R3(2021)	●	●	●
ベニザケ <i>Oncorhynchus nerka</i>	H16(2004)			
	H18(2006)	●		
	H23(2011)			
	H28(2016)			
	R3(2021)			
カラフトマス <i>Oncorhynchus gorbusha</i>	H16(2004)			
	H18(2006)	●		
	H23(2011)			
	H28(2016)		●	
	R3(2021)			
サクラマス(ヤマメ) <i>Oncorhynchus masou masou</i>	H16(2004)	●		
	H18(2006)	●	●	●
	H23(2011)	●	●	●
	H28(2016)	●	●	●
	R3(2021)	●	●	●

注) 1.ダム湖内、流入河川、下流河川で実施した平成16(2004)年度、平成18(2006)年度、平成23(2011)年度、平成28(2016)年度及び令和3(2021)年度の春季、夏季及び秋季調査による確認種を整理した。

2.和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。

3.青字は重要な種、赤字は外来種であることを示す。

4.「●」: 確認種、「空欄」: 未確認種を示す。

生物の生息・生育状況の変化の検証

【魚類】下流河川・流入河川における底生魚の確認状況

- ・底生魚として、■■■■■、フクドジョウ、ウキゴリ等の11種類が確認され、そのうちフクドジョウは経年的に確認されている。
- ・確認個体数については、年度により変動はあるものの、全般的に流入河川に比べ下流河川で個体数、種類数ともに多くなっている。
- ・平成28(2016)年度以降、下流河川ではシマウキゴリ、ウキゴリ、ヌマチチブの確認個体数が増加しているが、明確な変化の要因については不明である。

◆下流河川及び流入河川における底生魚の確認状況

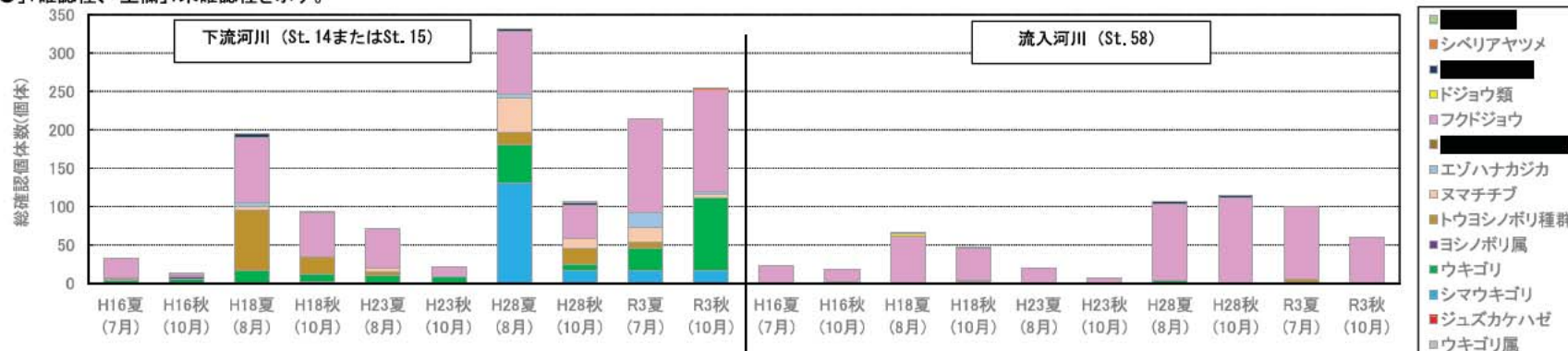
No.	科名	種類名	学名	下流河川										流入河川										
				H16 (2004)		H18 (2006)		H23 (2011)		H28 (2016)		R3 (2021)		H16 (2004)		H18 (2006)		H23 (2011)		H28 (2016)		R3 (2021)		
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	
1	ヤツメウナギ																							
2		シベリアヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>																					
-																								
3	ドジョウ	ドジョウ類	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i> sp.complex													●				●				
4	フクドジョウ	フクドジョウ	<i>Barbatula oreas</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5																								
6	カジカ	エゾハナカジカ	<i>Cottus amblystomopsis</i>	●	●	●				●	●	●	●											
7	ハゼ	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	●		●	●	●		●	●	●	●											
8		トウヨシノボリ種群	<i>Rhinogobius</i> sp.OR unidentified			●	●	●	●	●	●	●											●	
-		ヨシノボリ属	<i>Rhinogobius</i> sp.		●										●	●	●							
9		ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●	●			
10		シマウキゴリ	<i>Gymnogobius opperiens</i>					●		●	●	●	●											
11		ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>		●	●	●																	
-			ウキゴリ属	<i>Gymnogobius</i> sp.									●											
-	5科	11種類	確認種類数	4	6	7	6	6	3	7	7	6	6	1	2	4	4	1	1	4	3	3	1	

注) 1. 下流河川及び流入河川で実施した平成8(1996)年度、平成9(1997)年度、平成16(2004)年度、平成18(2006)年度、平成23(2011)年度、平成28(2016)年度及び令和3(2021)年度の夏季及び秋季調査の確認種類数を整理した。

2. 和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。

3. 青字は重要な種、赤字は外来種であることを示す。

4. 「●」: 確認種、「空欄」: 未確認種を示す。



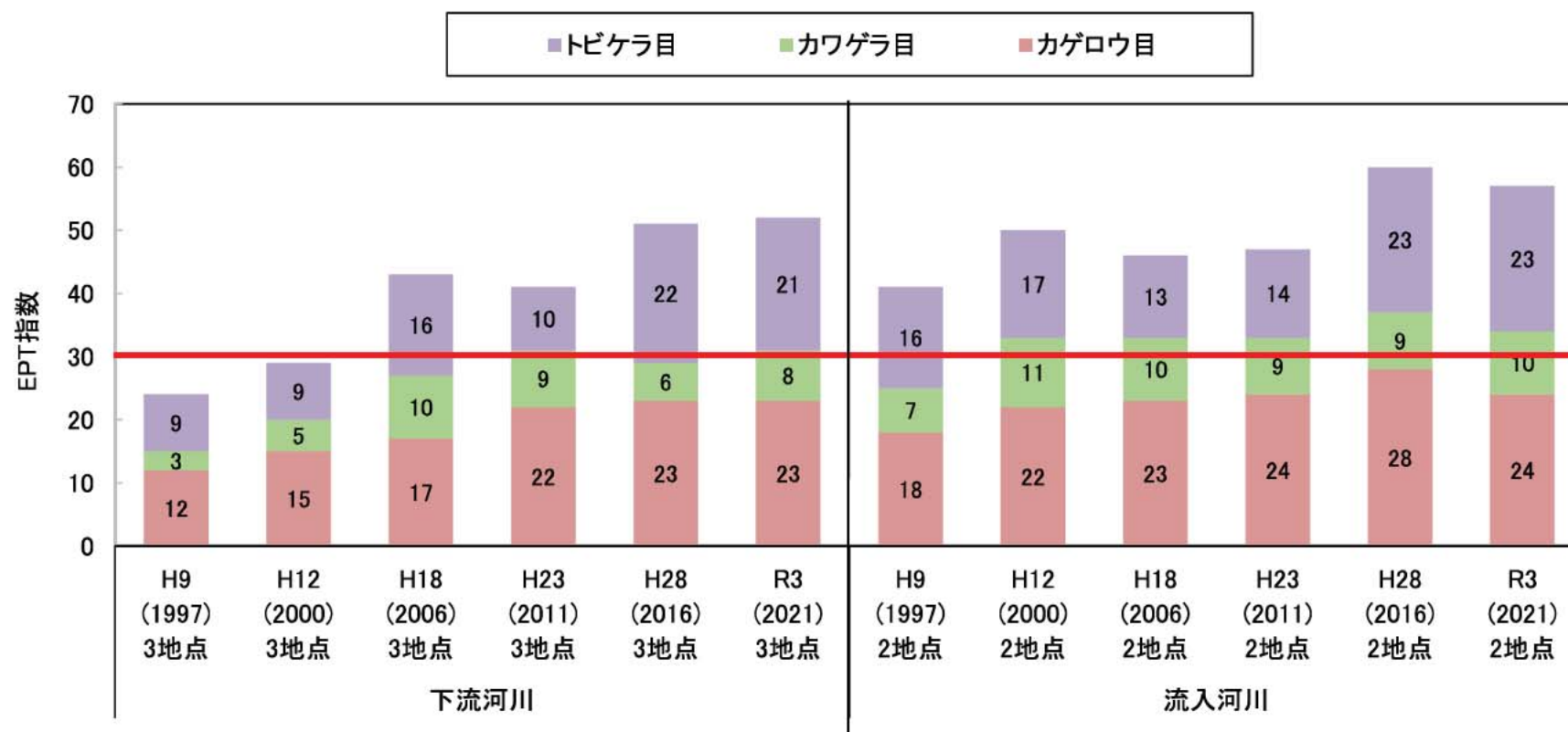
注) 下流河川(St.14またはSt.15)及び流入河川(沙流川)(St.58)で実施した平成16(2004)年度、平成18(2006)年度、平成23(2011)年度、平成28(2016)年度及び令和3(2021)年度の夏季及び秋季調査の確認個体数の合計を整理した。

生物の生息・生育状況の変化の検証

【底生動物】下流河川・流入河川における底生動物のEPT指数の変化

- ・EPT指数は、下流河川の平成9(1997)年度及び平成12(2000)年度を除き、30以上となっており、水質環境は概ね良好であると考える。
- ・全般的に、種類数の構成には大きな変化はみられない。

◆下流河川・流入河川における底生動物のEPT指数の変化



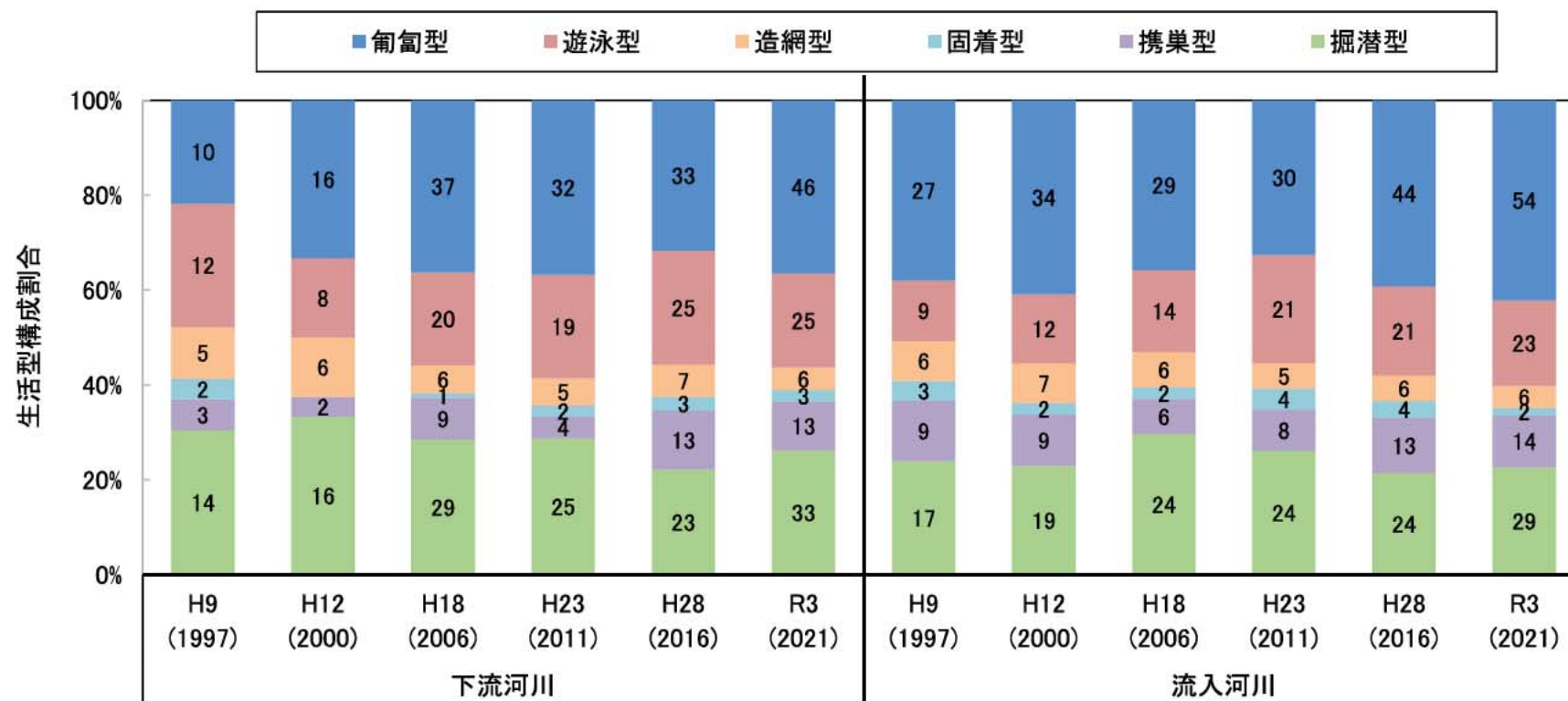
- 注) 1. 下流河川、流入河川における各調査年度の定性、定量調査結果により確認された種類数を整理した。
 2. 調査は、平成9(1997)年度、平成12(2000)年度、平成18(2006)年度～令和3(2021)年度の春季・夏季・冬季に実施している。
 3. EPT指数とは、水質の良好さを示す指標の一つであり、カゲロウ目(Ephemeroptera)、カワゲラ目(Plecoptera)、トビケラ目(Trichoptera)の合計種類数で示し、値が30を超えていれば水質環境は良好であることを示す。
 4. 各調査年度の下に記載した数値は、当該年度における調査地点数を示す。

生物の生息・生育状況の変化の検証

【底生動物】下流河川・流入河川における底生動物の生活型構成比の変化

- ・生活型構成は、下流河川、流入河川ともに掘潜型や匍匐型の割合が高い傾向にある。
- ・年度により変動はあるものの、全般的に底生動物の生活型構成割合に大きな変化はみられない。

◆下流河川・流入河川における底生動物の生活型構成割合の変化



注) 1. 下流河川、流入河川ともに各調査年度の定性、定量調査結果により確認された種類数を整理した。

2. 生活型については、以下のとおりである。

掘潜型：河川や湖沼の砂泥中に棲むもの。

携巢型：可搬型の巣を作り、巣を携えて移動しながら生活するもの。

固着型：流水の瀬や波の打ち寄せる湖岸で、基質の表面にしがみつく行動や形態を有するもの。

造網型：絹糸を用いて、基質に固着した巣を作るもの。

遊泳型：流水域あるいは止水的環境で、魚のように泳ぐことに適応したもの。

匍匐型：水生植物の葉や砂泥上で生活するもの。

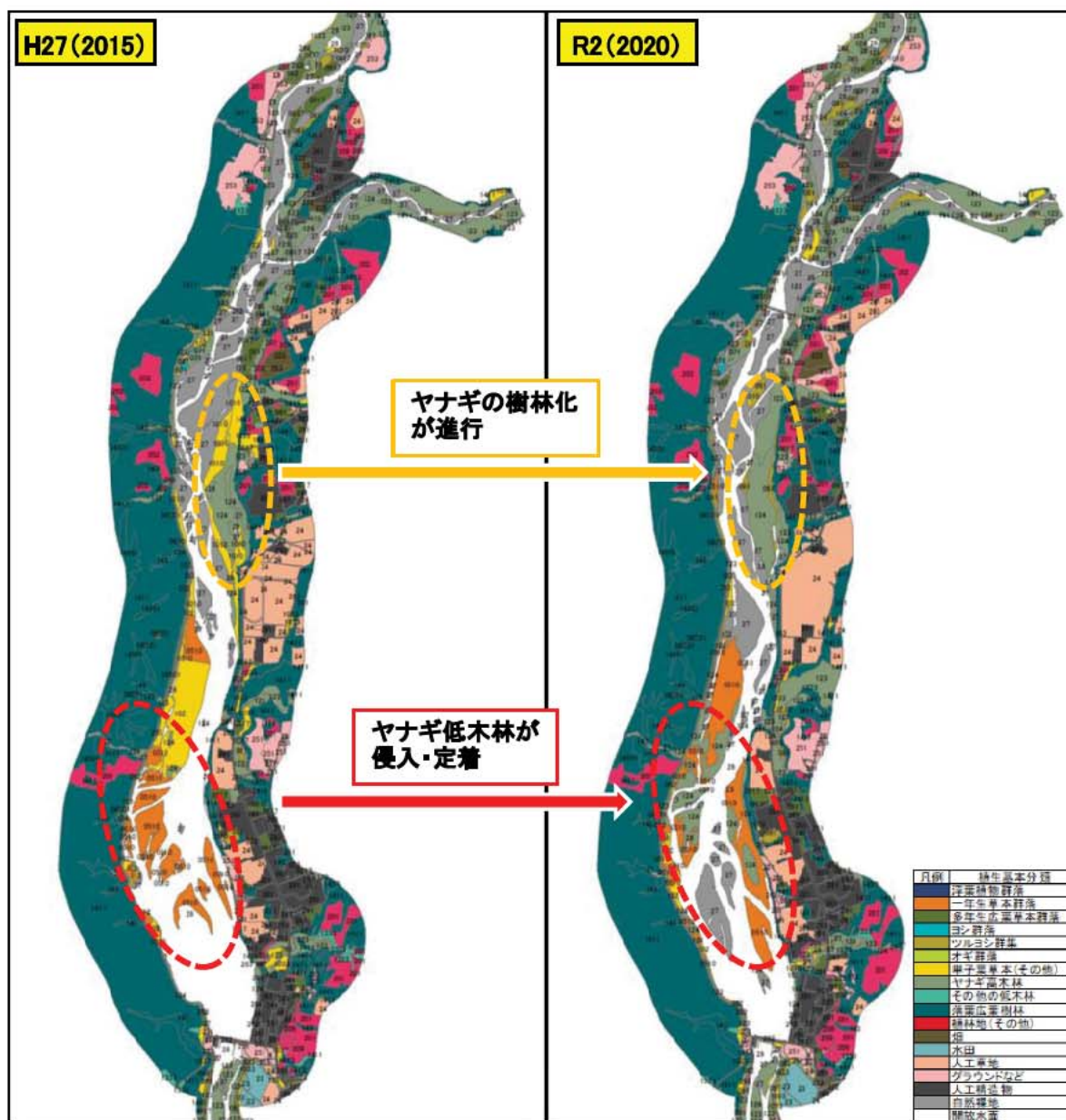
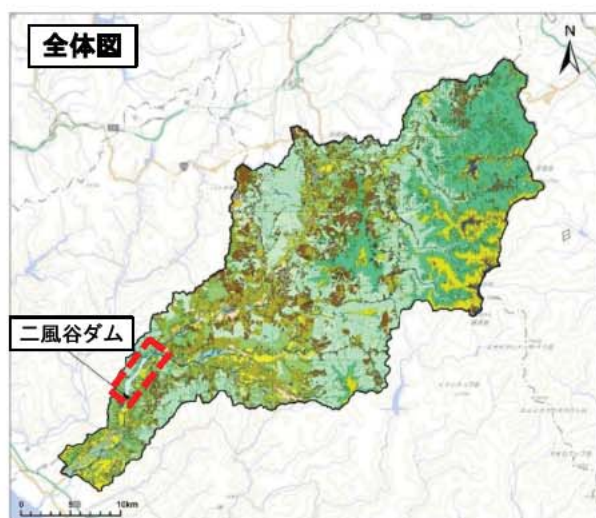
生物の生息・生育状況の変化の検証

【植物】植生の変化(水位変動域・上流端)

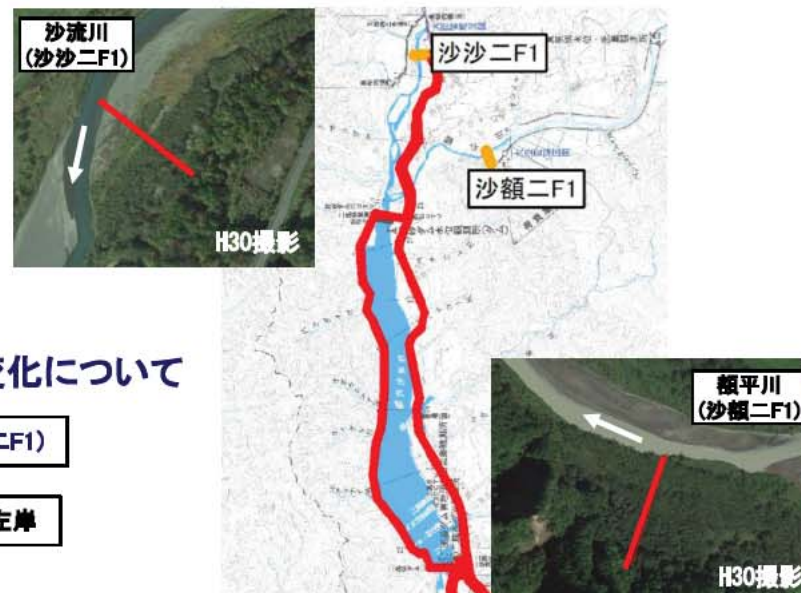
- ・ダム湖上流部では、平成27(2015)年度に比べ、令和2(2020)年度にはヤナギの樹林化が進行している。
- ・ダム湖岸では、平成27(2015)年度には確認されなかったヤナギ低木林の侵入・定着、自然裸地の出現がみられる。



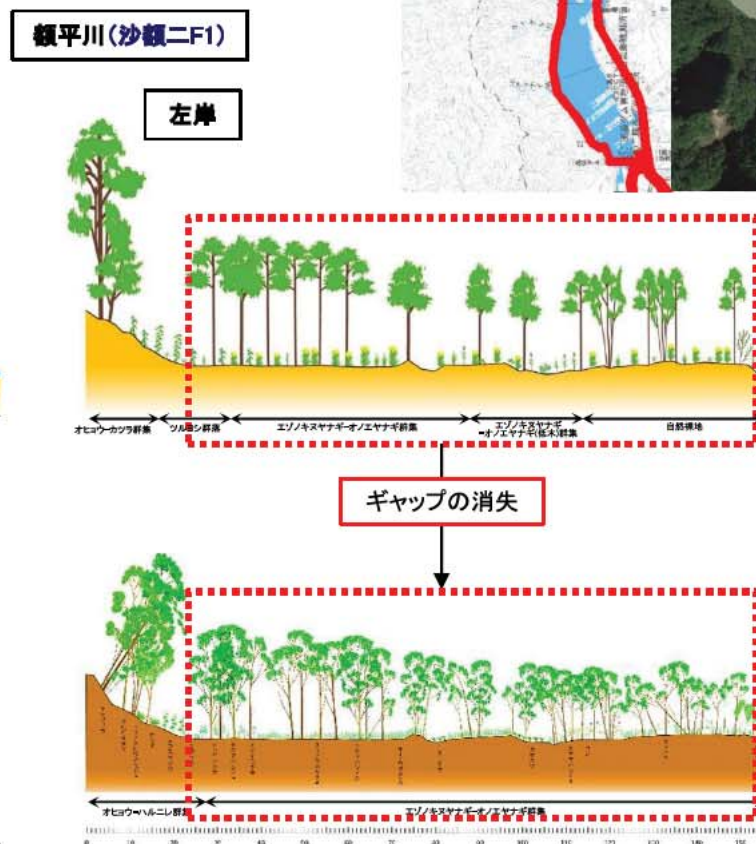
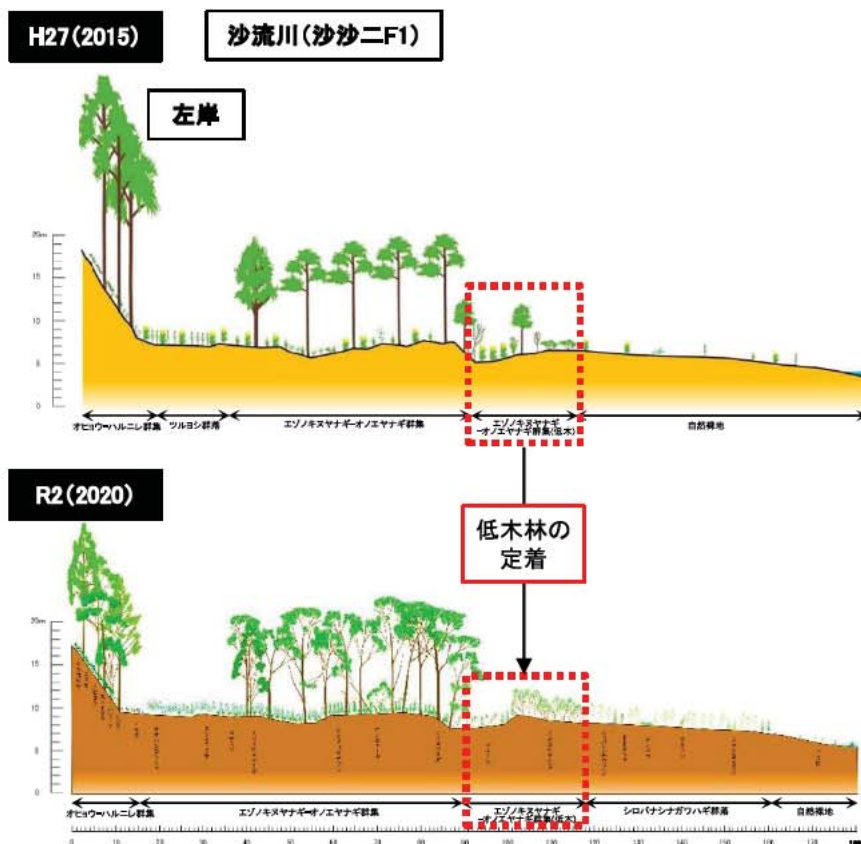
ダム湖等の砂州や水際で確認された樹高4m未満のエゾノキヌヤナギ・オノエヤナギ群集(低木林)
(R2(2020), 10.8撮影)



- ・ 沙流川(沙沙二F1)では、平成27(2015)年度に比べ、令和2(2020)年度は一部で低木林(ヤナギ類)の定着がみられたが、全体的に大きな植生変化はみられない。
- ・ 額平川(沙額二F1)では、平成27(2015)年度にはギャップ状に草本群落が見られたが、令和2(2020)年度にはギャップが消失している。



◆ 流入河川(沙流川: 沙沙二F1, 額平川: 沙額二F1)における植生変化について



- ・沙沙室F4では、平成27(2015)年度にはギャップ状に草本群落が見られたが、令和2(2020)年度にはギャップが縮小していた。また、河岸侵食等に伴い、群落高の低下が見られた。
- ・沙沙室F6では、令和2(2020)年度に方形区4箇所を含む中州左岸側及び左岸で工事に伴う樹木伐採が実施され、一部植生が変化していた。



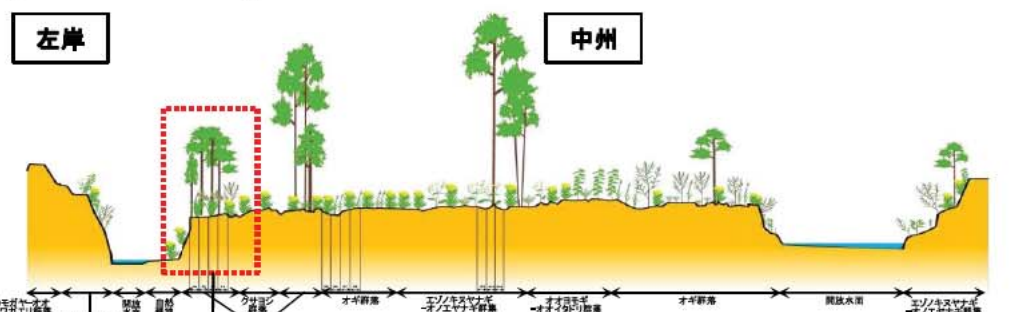
◆下流河川(沙流川: 沙沙室F4, 沙沙室F6)における植生変化について

H27(2015)

沙流川(沙沙室F4)

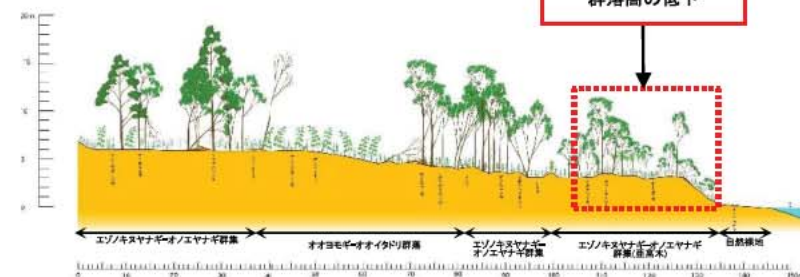


沙流川(沙沙室F6)

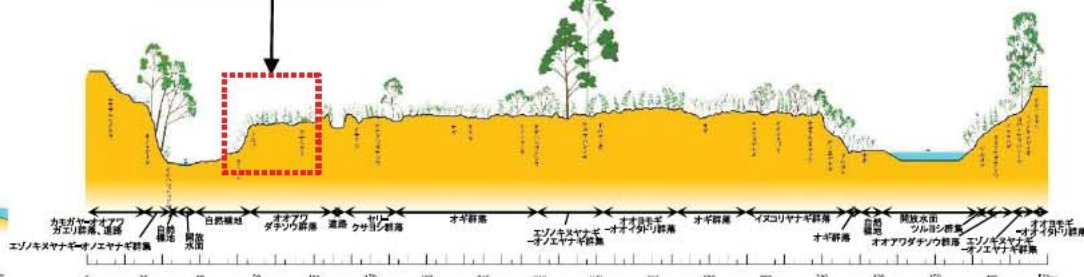


R2(2020)

河岸の侵食等に伴う
群落高の低下



工事に伴う伐採



- ・既往の河川水辺の国勢調査全体で、両生類が3科3種類、爬虫類が4科5種類確認された。
- ・両生類では、エゾサンショウウオ、エゾアカガエルが経年的に確認されている。なお、重要な種としてはエゾサンショウウオが確認された。
- ・爬虫類では、ニホンカナヘビ、シマヘビが経年的に確認されている。

◆ダム湖周辺における両生類・爬虫類の確認状況

項目	科名	種類名	学名	H9 (1997)	H10 (1998)	H16 (2004)	H25 (2013)	R5 (2023)
両生類	サンショウウオ	エゾサンショウウオ	<i>Hynobius retardatus</i>	●	●	●	●	●
	アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>	●		●	●	●
	アカガエル	エゾアカガエル	<i>Rana pirica</i>	●	●	●	●	●
	3科	3種類	確認種類数	3種類	2種類	3種類	3種類	3種類
項目	科名	種類名	学名	H9 (1997)	H10 (1998)	H16 (2004)	H25 (2013)	R5 (2023)
爬虫類	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	●	レ		●	●
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	レ	●	●	●
	ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●	レ	●	●	●
		アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	●	レ		●	●
		ナメラ属	<i>Elaphe</i> sp.		レ			●
	クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>		レ		●	●
	4科	5種類	確認種類数	4種類	—	2種類	5種類	5種類

- 注) 1. ダム湖周辺で実施した全調査方法による調査の結果を整理した。
 2. 和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。
 3. ナメラ属は、シマヘビ、アオダイショウと同一の可能性があるので、種類数のカウントに含んでいない。
 4. 平成10(1998)年度は、爬虫類の調査を実施していない。
 5. 青字は、重要な種であることを示す。
 6. 「●」: 確認種、「レ」: 未調査種、「空欄」: 未確認種を示す。

- ・既往の河川水辺の国勢調査全体で11科26種類が確認された。
- ・重要な種は、ヒメホオヒゲコウモリ、クロテン(エゾクロテン)、 等の6種類が確認されている。
- ・外来種は、クマネズミ、ドブネズミ、アライグマ、ミンクの4種類が確認されている。

◆ダム湖周辺における哺乳類の確認状況

No.	科名	種類名	学名	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H16 (2004)	H25 (2013)	R5 (2023)	確認方法
1	トガリネズミ	バイカルトガリネズミ	<i>Sorex caecutiens</i>		●	●	●	●	●	捕獲
2		オオアシトガリネズミ	<i>Sorex unguiculatus</i>		●	●	●	●	●	捕獲
3	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ(ニホンコキクガシラコウモリ)	<i>Rhinolophus cornutus (P. c. cornutus)</i>	レ	レ	レ			●	バットデテクター
4		キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	レ	レ	レ			●	バットデテクター
5	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	<i>Myotis ikonnikovi</i>	レ	レ	レ		●		かすみ網
6		モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	レ	レ	レ		●		かすみ網
7		ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	レ	レ	レ	●			目撃、痕跡(糞)
8		コテンゴウモリ	<i>Murina ussuriensis</i>	レ	レ	レ		●		かすみ網
-		ヒナコウモリ科	Vespertilionidae sp.	レ	レ	レ		●	●	痕跡(糞)、バットデテクター
-	(コウモリ目)	コウモリ目	Chiroptera sp.	レ	レ	レ		●	●	痕跡(糞)、無人撮影
9	ウサギ	ユキウサギ	<i>Lepus timidus</i>	●		●	●	●	●	目撃、痕跡(糞、足跡、食痕)等
10	リス	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	●		●	●	●	●	痕跡(足跡、食痕、掘り返し)、無人撮影
11		シマリス(エゾシマリス)	<i>Tamias sibiricus (T. s. lineatus)</i>					●		目撃
12		タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>					●	●	痕跡(糞、食痕)、無人撮影
13	ネズミ	タイリクヤチネズミ(エゾヤチネズミ)	<i>Craseomys rufocanus (C. r. bedfordiae)</i>		●	●	●	●		捕獲
14		アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		●	●	●	●	●	捕獲、痕跡(食痕)
15		ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>		●	●	●	●		捕獲
16		クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>					●		捕獲
17		ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		●			●		捕獲
-		ネズミ科	Muridae sp.					●	●	痕跡(足跡、食痕)、無人撮影
18	クマ	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>				●	●	●	痕跡(糞、足跡、食痕)、無人撮影
19	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>				●	●	●	痕跡(足跡)、無人撮影
20	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>				●	●	●	目撃、痕跡(糞、足跡)等
21		キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	●		●	●	●	●	痕跡(糞、足跡、掘り返し)、無人撮影
22	イタチ	クロテン(エゾクロテン)	<i>Martes zibellina (M. b. brachyura)</i>					●		痕跡(糞、足跡)
-		テン属	<i>Martes sp.</i>					●	●	痕跡(足跡)、無人撮影
23		イイズナ(キタイイズナ)	<i>Mustela nivalis (M. n. nivalis)</i>	●			●	●		痕跡(足跡)
24										
-		イタチ属	<i>Mustela sp.</i>					●	●	目撃、痕跡(足跡)
25		ミンク	<i>Neovison vison</i>	●			●			目撃
-		イタチ科	Mustelidae sp.					●	●	痕跡(糞、足跡)、無人撮影
26	シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	●		●	●	●	●	目撃、痕跡(糞、足跡、食痕、角研ぎ、抜け毛、死体)等
-	11科	26種類	確認種類数	6種類	6種類	9種類	16種類	21種類	15種類	-

注) 1.ダム湖周辺で実施した全調査方法による調査の結果を整理した。

2.平成8(1996)～平成10(1998)年度は、コウモリ調査を実施していないため、確認種類数が少なくなっている。

3.和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。

4.青字は重要な種、赤字は外来種であることを示す。

5.「●」:確認種、「レ」:未調査種、「空欄」:未確認種を示す。

生物の生息・生育状況の変化の検証

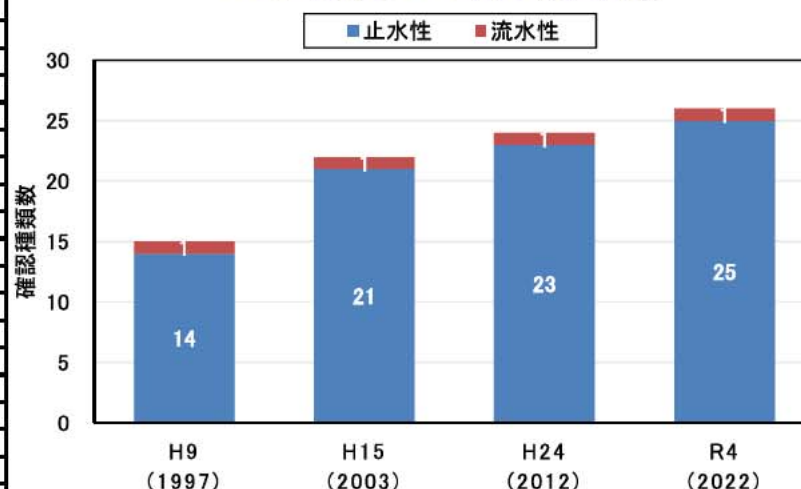
【陸上昆虫類等】トンボ類の確認状況

- ・ダム湖周辺では、止水性のトンボ類が7科33種類、流水性のトンボ類が1科1種類確認された。
- ・トンボ類の構成比を経年比較すると、止水性のトンボ類の確認種類数はやや増加傾向を示しているが、流水性のトンボ類は経年的にオニヤンマのみであった。

◆ダム湖周辺におけるトンボ類の確認状況

No.	科名	種類名	学名	H9 (1997)	H15 (2003)	H24 (2012)	R4 (2022)
1	アオイトトンボ	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	●	●	●	●
2		オツネイトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>	●	●	●	●
3	イトトンボ	キタイトンボ	<i>Coenagrion ecornutum</i>		●	●	
4		エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i>	●	●	●	●
5		オゼイトトンボ	<i>Coenagrion terue</i>		●	●	●
6		ルリイトトンボ	<i>Enallagma circuratum</i>		●		
7		アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>			●	
8		クロイトトンボ	<i>Paracercion calamorum calamorum</i>	●	●		●
9	モノサシトンボ	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>		●	●	●
10	ヤンマ	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna crenata</i>	●		●	●
11		ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i>		●		
12		ギンヤンマ	<i>Anax parthenope Julius</i>			●	●
13		サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>		●		
14	サナエトンボ	モイワサナエ	<i>Davidius moiwanus moiwanus</i>		●	●	●
15		ホシサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>	●			●
16		コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>	●	●		●
17	エゾトンボ	エゾコヤマトンボ	<i>Macromia amphigena masaco</i>	●			
18		モリトンボ	<i>Somatochlora graeseri</i>		●	●	
19		タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>		●	●	●
20		エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>				●
21	トンボ	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>		●	●	
22		シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●	●	●
23		シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	●	●	●	●
24		ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>			●	●
25		コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>				●
26		キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>				●
27		ムツアカネ	<i>Sympetrum danae</i>			●	
28		ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>			●	●
29		マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	●	●	●	●
30		アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	●	●	●	●
31		ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	●	●	●	●
32		ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	●	●	●	●
33		ヒメリスアカネ	<i>Sympetrum risi yosico</i>			●	●
-	7科	33種類	確認種類数	14	21	23	25
流水性	1科	1種類	確認種類数	1	1	1	1

生息環境別トンボ類確認種類数



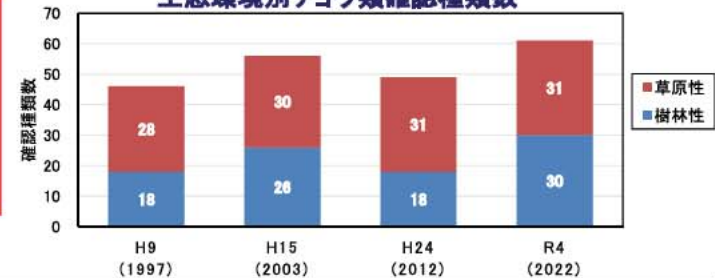
- 注) 1.ダム湖周辺で実施した全調査地点におけるトンボ類の確認種類を整理した。
 2.和名及び学名、配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」による。
 3.青字は重要な種であることを示す。
 4.「●」: 確認種、「空欄」: 未確認種を示す。

生物の生息・生育状況の変化の検証

【陸上昆虫類等】樹林性、草原性チョウ類の確認状況

- ・チョウ類の構成比を経年比較すると、樹林性の種より草原性の種が経年的に多く確認された。
- ・樹林性の種の確認種類数は令和4(2022)年度にやや多いものの、草原性の種は確認種類数に大きな変化はみられない。

生息環境別チョウ類確認種類数



ダム湖周辺におけるチョウ類の確認状況

No.	科名	種類名	学名	H9 (1997)	H15 (2003)	H24 (2012)	R4 (2022)
1	セセリチョウ	キバネセセリ	<i>Burara aquilina aquilina</i>		●		●
2		ミヤマセセリ	<i>Erynnis montana montana</i>		●		
3		オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida pellucida</i>	●	●	●	●
4		コチャバネセセリ	<i>Praethoessa varia</i>	●	●	●	●
5	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia attilia</i>		●		
6		ウスイロオナガシジミ	<i>Antigius butleri butleri</i>				●
7		オナガシジミ	<i>Araragi enthea enthea</i>	●		●	●
8		ウラゴマダシジミ	<i>Artopetes pryeri pryeri</i>		●	●	●
9		コツバメ	<i>Callophrys ferrea ferrea</i>		●		
10		スギタニルシジミ北海道亜種	<i>Celastrina sugitanii aionica</i>		●		
11		アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brilliantinus</i>		●		●
12		メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus smaragdinus</i>		●	●	
13		エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i>		●		●
14		オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>		●		
15		ジョウザンミドリシジミ	<i>Favonius taxila taxila</i>				●
16		カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album fentoni</i>	●	●	●	●
17		ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata saepestriata</i>		●	●	●
18		ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus japonicus</i>	●			●
19		トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>		●	●	
20	樹林性	ムモンアカシジミ	<i>Shirozua ionasi</i>	●	●		●
21		ウラミスジシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	●			
22	タテハチョウ	コムラサキ	<i>Apatura metis substituta</i>	●	●	●	●
23		ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushimana</i>	●	●	●	●
24		メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana liane</i>				●
25		ルリタテハ本土亜種	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>				●
26		ウラジャノメ北海道亜種	<i>Lopinga achine jezoensis</i>			●	
27		クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene ella</i>		●	●	●
28		ミスジチョウ	<i>Neptis philyra philyra</i>	●			●
29		コミスジ北海道亜種	<i>Neptis sappho yessoensis</i>		●	●	●
30		キベリタテハ	<i>Nymphalis antiopa</i>			●	
31		エルタテハ	<i>Nymphalis vaualbum</i>				●
32		シータテハ	<i>Polygonia c-album hamigera</i>	●	●	●	●
33		アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	●	●	●	●
34	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ北海道亜種	<i>Luehdorfia puziloi yessoensis</i>		●		
35		カラスアゲハ本土亜種	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>	●			●
36		ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	●		●	●
37		オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus macilentus</i>				●
38		ウスバシロチョウ	<i>Parnassius citrinarius citrinarius</i>	●	●	●	●
39		ヒメウスバシロチョウ	<i>Parnassius stubbendorffii hoenei</i>		●		●
40	シロチョウ	エゾシロチョウ	<i>Aporia crataegi adherbal</i>	●	●	●	●
-	5科	40種類	確認種類数	18	26	18	30

No.	科名	種類名	学名	H9 (1997)	H15 (2003)	H24 (2012)	R4 (2022)
1	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalis unicolor</i>	●	●	●	●
2		コキマダラセセリ	<i>Ochlodes venatus venatus</i>	●	●	●	●
3		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>		●		●
4		ヘリグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus sylvaticus</i>	●		●	●
5	シジミチョウ	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	●	●	●	●
6		ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	●	●	●	●
7		カバイロシジミ	<i>Glaucopsyche lycormas lycormas</i>	●	●	●	●
8		ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas chinensis</i>	●	●	●	●
9		ヒメシジミ北海道亜種	<i>Plebejus argus pseudargus</i>		●	●	●
10		ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada hamada</i>		●	●	
11	タテハチョウ	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana burejana</i>	●	●	●	●
12		アカマダラ	<i>Araschnia levana obscura</i>	●	●	●	●
13							
14		オオウラギンシジモウモン	<i>Argynome ruslana</i>	●		●	●
15		コヒョウモン北海道亜種	<i>Brenthis ino matsuensis</i>			●	●
16		シロオビヒメカゲ北海道東部亜種	<i>Coenonympha hero latifasciata</i>	●	●	●	●
17		ウラギンシジモウモン	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>	●		●	●
18		クジャクチョウ	<i>Inachis io geisha</i>	●	●	●	●
19	草原性	キマダラモドキ	<i>Kirinia fentoni</i>			●	●
20		クロヒカゲ本土亜種	<i>Lethe diana diana</i>	●	●	●	●
21		ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	●	●	●	●
22		サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitchii</i>	●	●	●	●
23		ヤマキマダラヒカゲ本土亜種	<i>Neope niponica niponica</i>	●	●	●	●
24		フタスジチョウ北海道亜種	<i>Neptis rivularis bergmanii</i>	●	●	●	●
25		オオヒカゲ	<i>Ninguta schrenckii schrenckii</i>	●		●	●
26		ギンボシヒョウモン北海道亜種	<i>Speyeria aglaja basalis</i>	●		●	●
27		ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>		●	●	●
28		ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus argus</i>	●	●	●	●
29	アゲハチョウ	キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>	●			●
30	シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種	<i>Anthocharis scolymus scolymus</i>		●		
31		モンキチョウ	<i>Colias erate poliographa</i>	●	●	●	●
32							
33		エゾヒメシロチョウ	<i>Leptidea morsei morsei</i>	●	●	●	●
34		オオモンシロチョウ	<i>Pieris brassicae brassicae</i>		●		●
35		エゾスジグロシロチョウ	<i>Pieris dulcinea tomariana</i>	●	●	●	●
36		スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	●	●	●	●
37		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>	●	●	●	●
-	5科	37種類	確認種類数	28	30	31	31

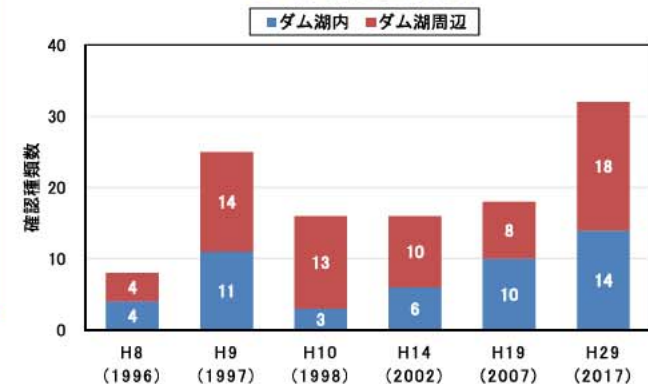
注) 1.ダム湖周辺で実施した全調査地点におけるチョウ類の確認種類を整理した。
 2.和名及び学名、配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。
 3.青字は重要な種、赤字は外来種であることを示す。
 4.「●」:確認種、「空欄」:未確認種を示す。

【参考】生物の生息・生育状況の変化の検証

【鳥類】水鳥の確認状況

- ・ダム湖内及びその周辺において、全体で7科28種類の水鳥が確認され、マガモ、カルガモは経年的に確認されている。
- ・重要な種としては、■■■■、■■■■、オシドリ、オオジシギ等の8種類が確認されている。
- ・平成29(2017)年度に確認種類数が大きく増加しているが、これは3月の大雨によりダム湖の解氷が進んだため、ダム湖及び周辺への水鳥の飛来数が多くなったものと考えられ、環境に大きな変化はみられない。

水鳥確認種類数



◆水鳥の確認状況

No.	目名	科名	種類名	学名	ダム湖内						ダム湖周辺					
					H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H14 (2002)	H19 (2007)	H29 (2017)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H14 (2002)	H19 (2007)	H29 (2017)
1	カモ	カモ	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>												
2			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>		●			●	●					●	●
3			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>				●		●		●	●			●
4			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>					●							●
5			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>					●	●						●
6			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7			カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>		●			●	●		●	●	●		●
9			コガモ	<i>Anas crecca</i>		●			●	●		●	●			●
10			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>					●			●	●			●
11			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		●			●	●		●	●			
12			スズガモ	<i>Aythya marila</i>		●						●	●			
13			シバリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>	●											
14			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>				●		●			●			
15			カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
16	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>												●
17			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>						●						●
18	カイツブリ	ウ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		●		●	●	●		●	●	●	●	●
19			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>						●						
20	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>										●		
21			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		●						●	●	●		
22			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>									●	●		
23			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>								●	●	●	●	●
24			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>		●						●	●	●	●	●
25	チドリ	シギ	セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>							●					
26			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>								●				
27																
28	5目	7科	28種類	確認種類数	4種類	11種類	3種類	6種類	10種類	14種類	4種類	14種類	13種類	10種類	8種類	18種類

注) 1.平成8(1996)年度、平成9(1997)年度、平成10(1998)年度、平成14(2002)年度、平成19(2007)年度及び平成29(2017)年度の全調査による確認種を整理した。

2.水鳥は、カモ目、カイツブリ目、カツオドリ目、ペリカン目及びチドリ目に属する鳥類とした。

3.和名、学名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度版」によった。

4.青字は重要な種であることを示す。

5.「●」: 確認種、「空欄」: 未確認種を示す。

重要種の変化の把握: サクラマス(ヤマメ)

種類名 [重要種のカテゴリー]	ダム運用・管理との関連性
サクラマス(ヤマメ) <i>Oncorhynchus masou masou</i> [国:NT 北:N]	・回遊性魚類であり、ダムの存在・供用により 生息環境に変化が生じる可能性がある。

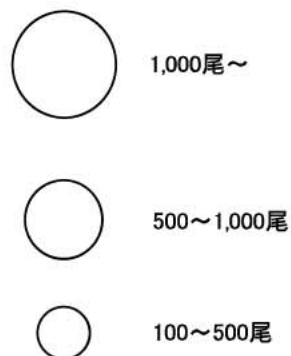
注) [国:NT] 環境省レッドリスト2020(準絶滅危惧:現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

[北:N] 北海道レッドリスト【魚類(淡水・汽水)編】改訂版(2018)(留意種:存続基盤が脆弱な種)



流入河川(沙流川)で確認されたサクラマス(ヤマメ)
(R3(2021), 6.15撮影)

凡例

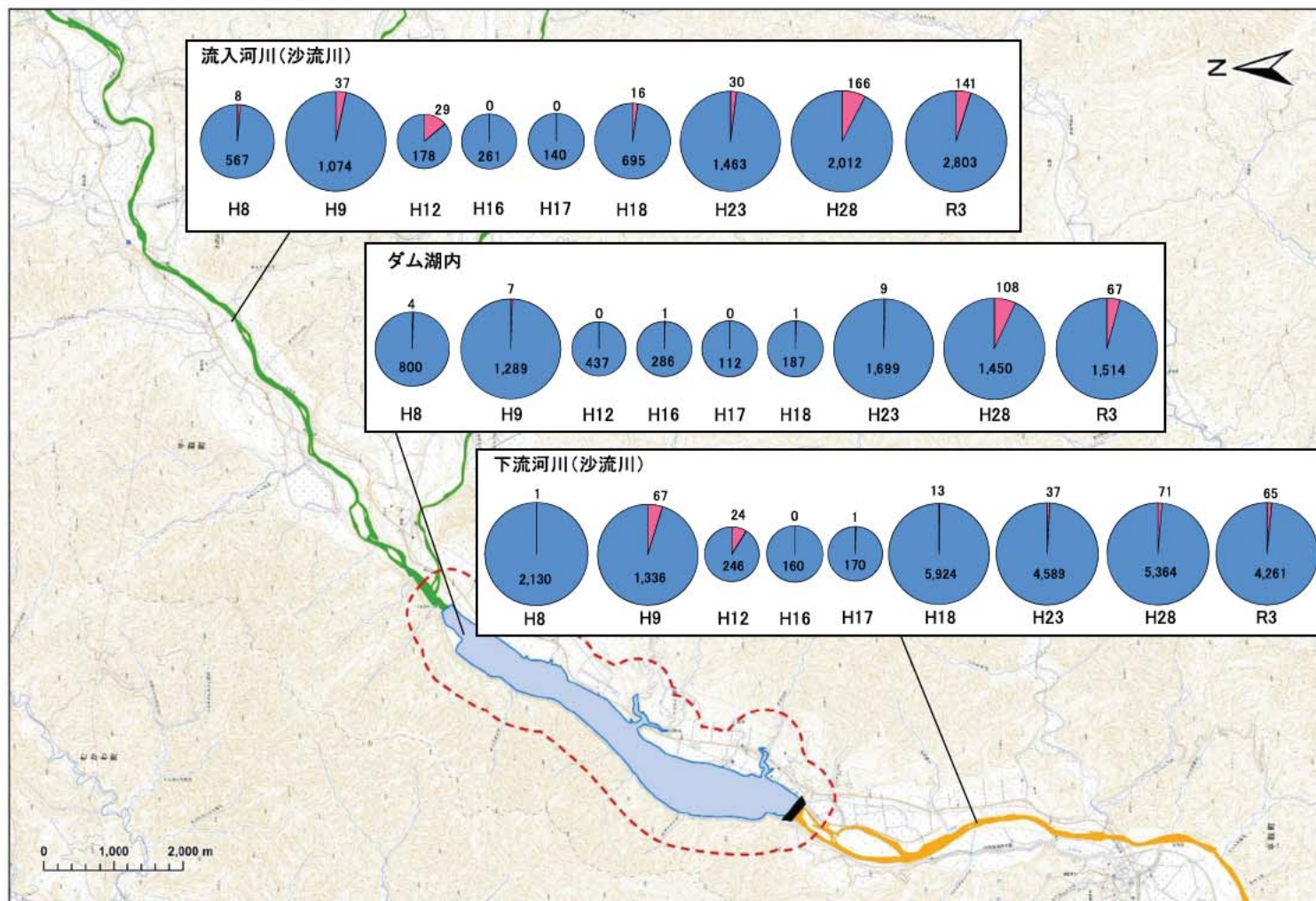


■ サクラマス(ヤマメ)
■ サクラマス(ヤマメ)以外の魚

注) 円グラフの数値について、
ピンクはサクラマス(ヤマメ)
の確認個体数を、青はサクラ
マス(ヤマメ)以外の魚類
の確認個体数を示す。

【確認状況と評価】

・年度により確認個体数に変動はあるものの、ダム湖内、流入河川及び
下流河川のいずれも安定して生息しており、近年増加傾向がみられる。
⇒ダム湖の上下流でサクラマス(ヤマメ)が経年的に確認されていること
から、魚道が機能していると考えられる。



侵略的外来種の変化の把握:オオハンゴンソウ

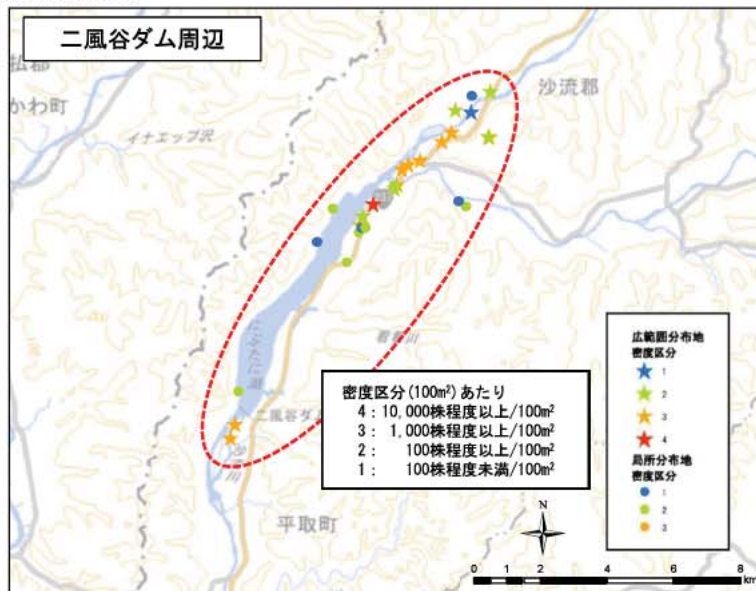
種類名 [外来種の 카테고리]	ダム運用・管理との関連性
オオハンゴンソウ <i>Rudbeckia laciniata</i> [国:環特、国:国外/総合/緊急、 北:国外A2]	・特定外来生物に指定されており、貴重な在来植物との競合、駆逐が懸念される。

注)[国:環特]特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(環特:特定外来生物)
[国:国外/総合/緊急]生態系被害防止外来種リスト
(国外:国外由来の外来種、総合:総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)、
緊急:対策優先度が最も高い(緊急対策外来種))
[北:国外A2]北海道ブルーリスト
(国外:国外外来種、A2:本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種)

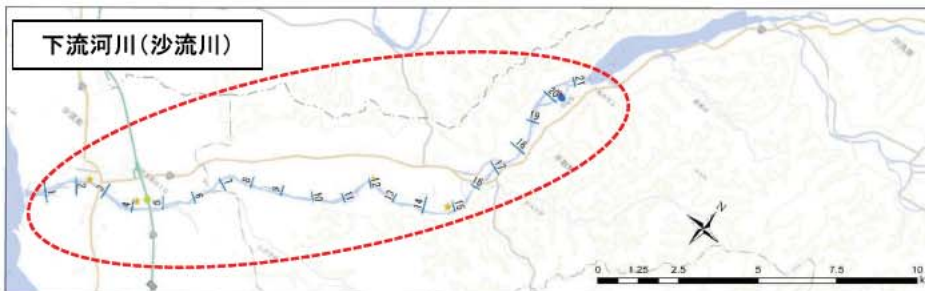
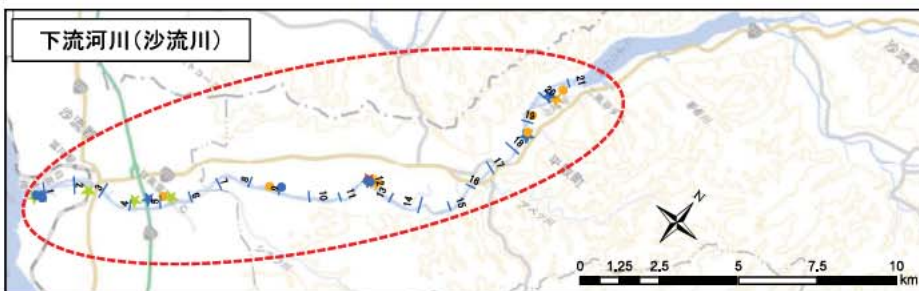
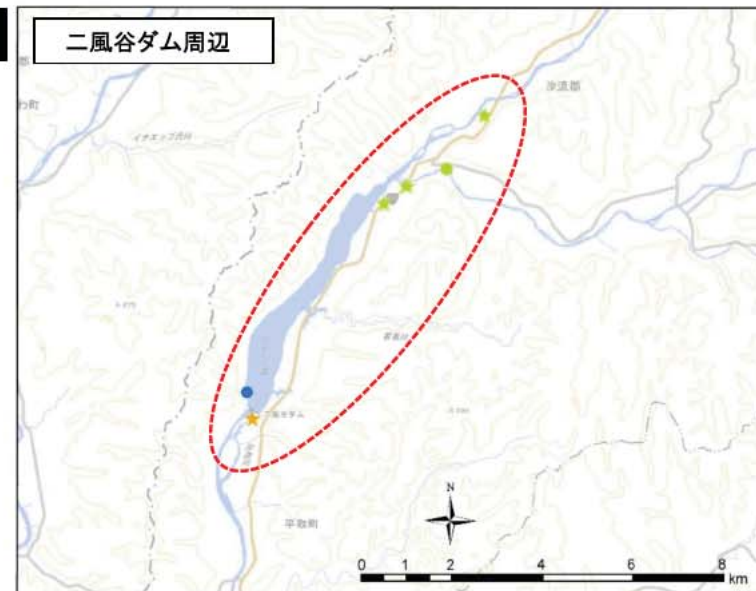
【確認状況と評価】

・平成27(2015)年度は国道沿いの人家周辺で高密度な分布地が多く確認されていたが、令和2(2020)年度は確認地点数、個体数ともに少ない。これは、調査項目の違いにより、令和2(2020)年度のデータ数が少ないことが影響していると考えられる。
⇒今後も河川水辺の国勢調査によりモニタリングを行い、分布状況や生育環境の変化状況及び侵入経路に注視し、必要に応じて防除対策を検討する。

H27(2015)



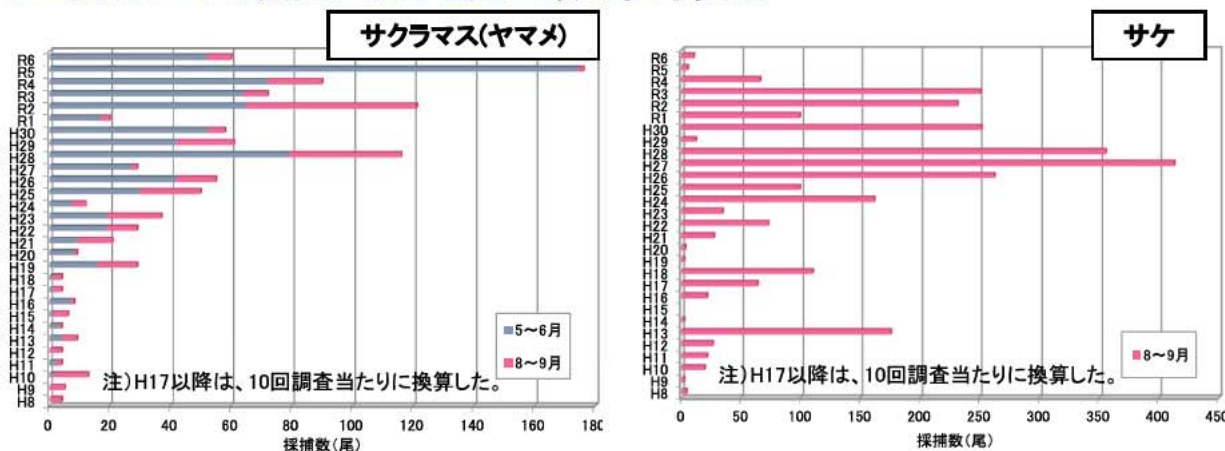
R2(2020)



環境保全対策(サクラマス魚道利用状況)

- ・二風谷ダムでは、魚類の遡上・降下を目的としたセクタ式ゲートを持つ階段式魚道(二風谷式魚道ゲート)が設置されており、サクラマス(ヤマメ)を主体とした魚類の遡上実態を把握するため、平成8(1996)年から継続調査を行っている。
- ・魚道の設置により、サクラマスの遡上が毎年確認されており、魚類の移動通路として機能していると考えられる。
- ・遡上能力の小さいハゼ科、カジカ科等の遡上は確認されなかったが、平成28(2016)年度以降は小型魚がそれぞれ魚道潜孔部から遡上していることが確認されている。

◆二風谷ダムの魚道における遡上数の経年変化



階段式魚道
(二風谷式魚道ゲート)

遡上魚確認種一覧

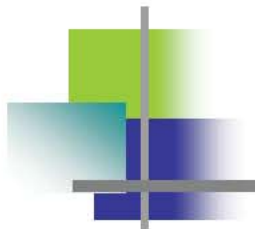
科名	種類名	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
ヤツメウナギ	ミツバヤツメ <i>Entosphenus tridentatus</i>																													
	カワヤツメ <i>Lethenteron japonicum</i>																													
コイ	コイ(型不明) <i>Cyprinus carpio</i>																													
	ギンブナ <i>Carassius auratus langsdorffii</i>																													
	エソウガイ <i>Tribolodon sachalinensis</i>																													
	ウグイ <i>Tribolodon hakonensis</i>																													
	モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i>																													
フクドジョウ	フクドジョウ <i>Noemacheilus barbatulus toni</i>																													
アユ	アユ <i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>																													
サケ	アメマス <i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>																													
	オシロコマ <i>Salvelinus malma krascheninnikovi</i>																													
	サケ <i>Oncorhynchus keta</i>																													
	ベニザケ <i>Oncorhynchus nerka nerka</i>																													
	マスノスケ <i>Oncorhynchus tshawytscha</i>																													
	サクラマス(ヤマメ) <i>Oncorhynchus masou masou</i>																													
	ニジマス <i>Oncorhynchus mykiss</i>																													
	カラフトマス <i>Oncorhynchus gorbusha</i>																													
5科	17種類	確認種類数	8種類	4種類	7種類	6種類	6種類	7種類	6種類	5種類	7種類	6種類	8種類	5種類	6種類	7種類	8種類	8種類	8種類	8種類	7種類	10種類	11種類	7種類	11種類	12種類	10種類	9種類	8種類	7種類

◆二風谷ダムまとめ及び現状のダム管理との関係

- 動植物の生息・生育状況に大きな変化はみられず、ダム湖内、流入河川、下流河川、ダム湖周辺ともに生物の安定的な生息・生育環境になっていると考えられる。
- ダム湖上流部ではヤナギの樹林化が進行し、湖岸部ではヤナギ低木林の侵入・定着や自然裸地の出現がみられる。
- 侵略的外来種（特定外来生物）であるオオハンゴンソウは、平成27(2015)年度は国道沿いの人家周辺で高密度な分布地が多く確認されていたが、令和2(2020)年度は確認地点数、個体数ともに少ない。これは、調査項目の違いにより、令和2(2020)年度のデータ数が少ないことが影響していると考えられる。
- サクラマス(ヤマメ)が、ダム湖の上下流で経年的に確認されていることから、魚道が機能していると考えられる。

◆ 今後の方針

- ダム湖内、流入河川、下流河川を含めて、統一的な調査(地点・時期・手法)を継続し、経年的な変化の状況を検証するための情報を蓄積する。
- 今回の対象期間内に河川水辺の国勢調査が実施されなかった鳥類は、今後実施される調査結果を踏まえ、整理・評価を行う。
- ダム湖上流部ではヤナギの樹林化、湖岸部ではヤナギの侵入・定着等がみられるため、今後の河川水辺の国勢調査において植生の推移に留意する。
- 侵略的外来種(特定外来生物)であるオオハンゴンソウは、今後も河川水辺の国勢調査によりモニタリングを行い、分布状況や生育環境の変化状況及び侵入経路に注視し、必要に応じて防除対策を検討する。
- 魚道の利用状況を把握するため、今後も引き続き、サクラマス(ヤマメ)を主体とした遡上調査を実施する。



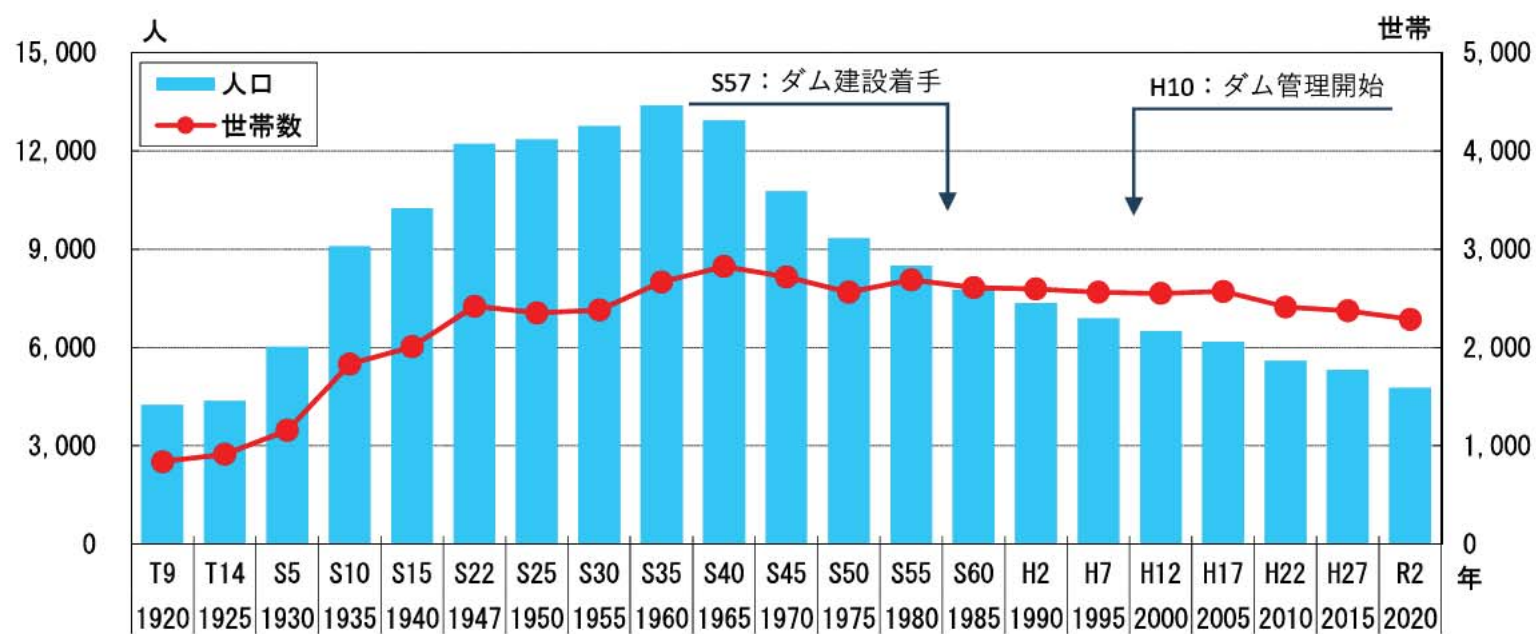
7. 水源地域動態

- ・ 二風谷ダムは、沙流郡平取町の沙流川沿いの山地から平地への中間部に位置している。
- ・ 沙流川沿いには、旭川市と沙流郡日高町を結ぶ国道237号が通っており、日高自動車道の日高富川ICからのアクセスが良好である。



水源地域の人口の状況

- ダムが位置する平取町の人口は、最大であった昭和35年(1960年)と比べ令和2年(2020年)の人口は約36%まで減少している。世帯数は最大であった昭和40年(1965年)の約81%まで減少している。



人口及び世帯数の推移(平取町)

出典：国勢調査（総務省統計局）

二風谷ダムをとりまく経緯

- ・二風谷ダムが位置する平取町の二風谷地区は、アイヌ民族の方々が多く居住するアイヌ文化の拠点となっている地域であり、現在もその伝統や工芸等が語り継がれている。
- ・近年においては、ダム周辺の「二風谷ファミリーランド」や「二風谷コタン」、「びらとり温泉(ゆから)」が平取町の主要な集客施設となり、また、「食の祭典びらとり和牛・トマト祭り」が開催されるなど、二風谷ダムは周辺地域の拠点となるとともに、地域住民の主要な交流の場となっていることが伺える。

ダム事業と地域社会の変化（年表）

年度	ダム事業・インフラ整備事業	イベント・交流活動、地域の出来事	施設設備等
S41～	S48 沙流川総合開発事業実施調査計画開始	S47 第1回チュッサンケ開催(沙流川)	S47 二風谷アイヌ文化資料館開館
S51～	S57 沙流川総合開発事業建設着手	S53 第1回沙流川まつりが二風谷ファミリーランドで開催される	S53 二風谷ファミリーランド開園 S53 びらとり温泉オープン(老人福祉センター)
S61～	S61 二風谷ダム堤体建設工事着手	S61 第1回二風谷観光フェスティバル開催 S62 地域イベント団体「沙流川共和国」結成 S63 第1回グリーンフェスティバルが二風谷ファミリーランドで開催	S62 振内鉄道公園完成 S63 新千歳空港開港
H元～	H8 二風谷ダム試験湛水(4月～6月) H9 竣工 H10 二風谷ダム管理開始	H7 第1回全道PKグランプリが二風谷で開催される H8 チュッサンケが従来地で実施される(民族文化の伝承に配慮し、ダムの水位が下げられる) H10 第1回二風谷湖水まつりが開催される H10 北海道Eポート大会in沙流川が開催される(二風谷湖)	H3 二風谷アイヌ博物館開館 H3 義経資料館開館 H10 沙流川歴史館開館
H11～	H14 沙流川水系河川整備計画策定 H18 沙流川水系河川整備計画〔変更〕 H19 「二風谷ダム及び平取ダムの建設に関する基本計画」の変更(目的、容量、事業費、工期)	H12 二風谷カンカン湖氷上釣り大会開催 H13 第1回北海道国際トライアスロン大会開催(二風谷湖) H14 水源地たんけんツアーが開催される H15 地域への流木の無償提供開始 H20 「先住民サミット」アイヌモシリ2008が開催される	H11 平取町100周年 H12 ふれあいセンターびらとりオープン H17 日高自動車道富川ICが開通
H21～	H25 「二風谷ダム及び平取ダムの建設に関する基本計画」の変更(工期) H27 平取ダム堤体建設工事着手 H30 「二風谷ダム及び平取ダムの建設に関する基本計画」の変更(事業費、工期) R4 平取ダム竣工 R6 沙流川水系河川整備基本方針変更	R1 「平取町・二風谷国際先住民フォーラム2019」を開催 R6 鶴川沙流川河川事務所1階に二風谷ダム展示室オープン R7 「国際先住民フォーラム2025」を開催	H22 平取町アイヌ文化情報センター開館 H24 日高自動車道門別ICが開通 H26びらとり温泉(ゆから)リニューアル H30 日高自動車道厚賀ICが開通 R1 二風谷コタン、平取町アイヌ工芸伝承館ウレシパがオープン R3 JR日高本線鶴川～様似間が廃線 R4 イオル文化交流センターがオープン R4 ノカピライウォロ・ビジターセンターがオープン

地域とダム管理者の関わり①

- 二風谷ダム周辺はアイヌ文化の拠点となっており、「アイヌ文化伝承の場の整備」や「親水性や回遊性を高める場の整備」等を目的としたかわまちづくり事業として平成21年(2009年)に登録された。
- ダム下流及びダム湖畔を中心に整備が進められており、ダム下流の整備箇所(水辺空間)は、令和6年に北海道で初めてのかわまち大賞を受賞した。

整備箇所



ダム湖畔の整備概要



チッサンケの様子(整備予定)



2025/8/24撮影

緩傾斜整備(工事中)



2025/10/9撮影

～かわまちづくり事業とは～
「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取り組みです。実施主体は市町村等とその取り組みを河川管理者が支援する制度です。

出典：平取町かわまちづくり計画書

地域とダム管理者の関わり②

- ・平成16年～22年までの7年間にわたり、生態学的混播・混植法により、地域の方々とともに森づくりを実施。この森は、イオルの森としてダム下流右岸、ダム上流左岸（事務所構内）に造成。
- ・アイヌ文化の伝承活動などが行われるような空間形成を目指す「イオル再生事業」の一端を担っている。



※イオルとは、狩猟・採集をする「狩場」という意味であり、そうした衣食住、儀式等、生活に必要なものの多くをまかなう自然の領域、生活圏のことをいう。

地域とダム管理者の関わり③

- ・二風谷ダムでは、毎年春と夏の利用者が多く訪れる時期の前に、利用者の立場に立った視点で安全に施設を利用いただけるよう、地元関係者（平取町役場・二風谷自治会）と協働でダム湖周辺に点在する休憩場所、転落防止柵など各種施設の点検を行っている。



四阿・ベンチ、進入防止柵の確認状況（R6.4.11撮影）



転落防止柵の確認状況（R6.4.11撮影）

ダム周辺の整備状況

- にぶたに湖周辺には公園、博物館、展望台、遊歩道、親水護岸などが整備されている。二風谷ファミリーランドには温泉、キャンプ場、野球場、テニスコート、パークゴルフ場等があり、平成26年(2014年)6月にはびらとり温泉(ゆから)がリニューアルした。管理橋は山菜採りのシーズンには対岸までのアプローチとして地元の人にも利用されている。



ダム周辺の利用状況①

- ・二風谷ダムでは、ダムフェスタや流木無料配布のイベントを実施しており、こうしたイベントを通じて地域への情報発信に取り組んでいる。
- ・ダム見学会を主とするダムフェスタは、令和5年(2023年)以降、平取ダムと同時開催としている。

◆二風谷ダム及び周辺における主なイベント

※参加人数は（）内年度の合計人数

開催日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数
5月開催	二風谷ダム湖周辺自然観察会・春	二風谷ダム周辺	山菜採り体験、伝統料理試食会等	71人 (R1) ※1
7月開催	沙流川ダムフェスタ (R4以前は二風谷ダムフェスタ)	二風谷ダム (R5以降は平取ダムとの 同時開催)	二風谷ダム見学、流木工作体験等 (R5以降は平取ダム見学も実施)	約250人 (R1, R4~R6) ※2
7月開催	ウレクレク	二風谷湖公園	アイヌの遊び体験、AINU MUSIC LIVE等	—
8月開催	チャサンケ	二風谷コタン周辺	舟おろしの儀式、川下り、古式舞踏等	—
10月開催	二風谷ダム湖周辺自然観察会・秋	二風谷ダム周辺	苗の植樹、ポット苗づくり	48人 (R1) ※1
10～11月開催	流木無料配布	二風谷ダム	流木・木くず無料配布	52人 (R1~R6)

※1：H17から開催していたがコロナ禍のR2以降未開催
※2：R2、R3は中止、R4はダム見学のみ実施



ダムフェスタチラシ



ダムフェスタ状況



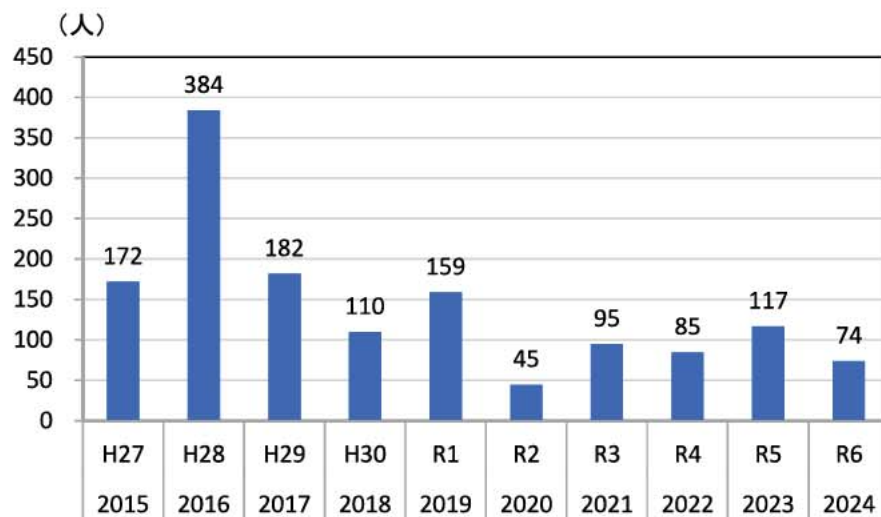
ウレクレクの開催状況



チャサンケの開催状況

ダム周辺の利用状況②

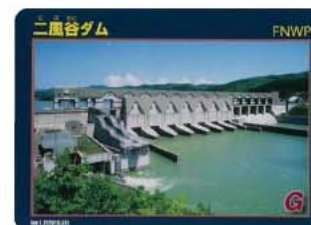
- ・二風谷ダムでは、普段入ることができないダム監査廊やゲート室等の見学会を開催しており、見学者数は平均140人／年程度である。
- ・「ダムカード」を作成し管理支所等で配布しており、令和元年(2019年)に最大約5,500枚/年を配布し、コロナ禍が明けた令和4年(2022年)以降は約3,200枚/年を配布している。



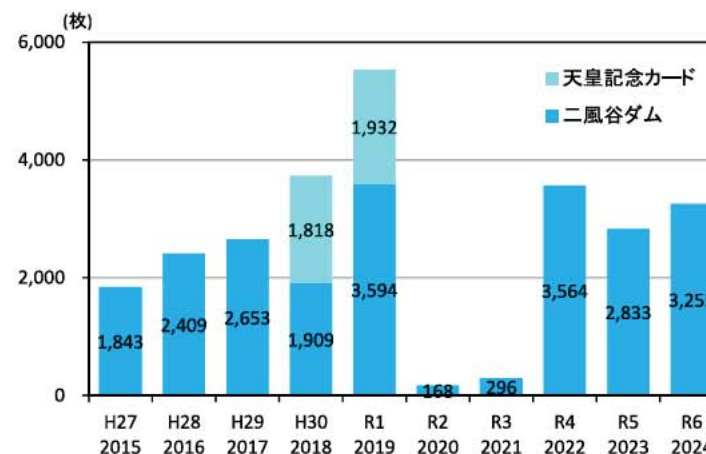
ダム見学者数の推移



ダム見学会の実施状況



H30、R1年度に天皇陛下在位記念のダムカードが配布された。



ダムカード配布数

ダム周辺の利用状況③

令和6年度(2024年度)「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」の結果

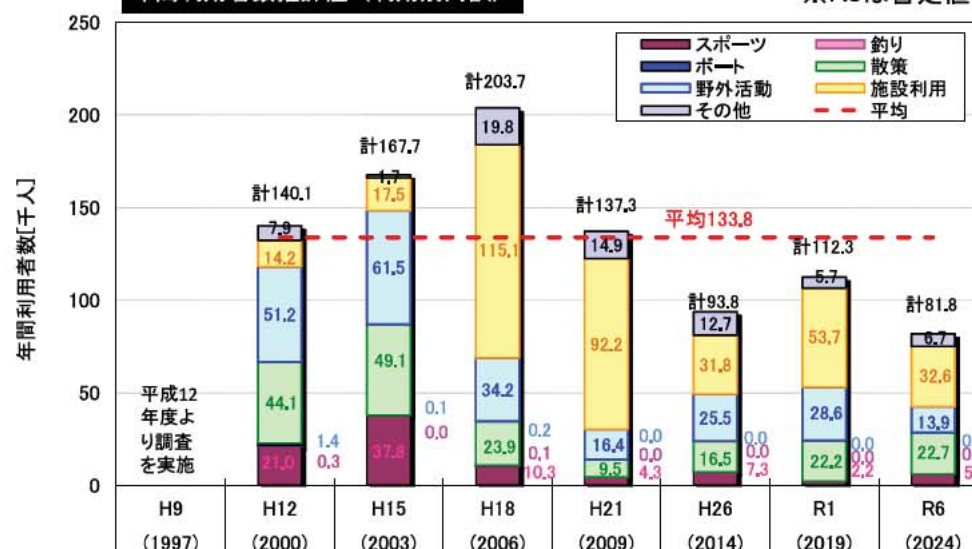
- ダム湖利用実態調査におけるカウント調査による、令和6年度(2024年度)の年間利用者数の推計値(暫定値)は、約8万2千人となっており、平成18年度(2006年度)以前に比べ低い値で推移している。
- 利用形態は、令和6年度(2024年度)は「施設利用」約3万3千人と最も多く、次いで「散策」、「野外活動」となっている。
- 「施設利用」は、年間利用者数が最も多かった平成18年度(2006年度)以降、最も多い利用形態となっている。

※令和元年度以降の秋季調査は、紅葉盛期の10月(それ以前は11月)に実施している。

データ出典：河川水辺の国勢調査結果【ダム湖版】(ダム湖利用実態調査編)
<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokudam/KekkaPDF.htm>

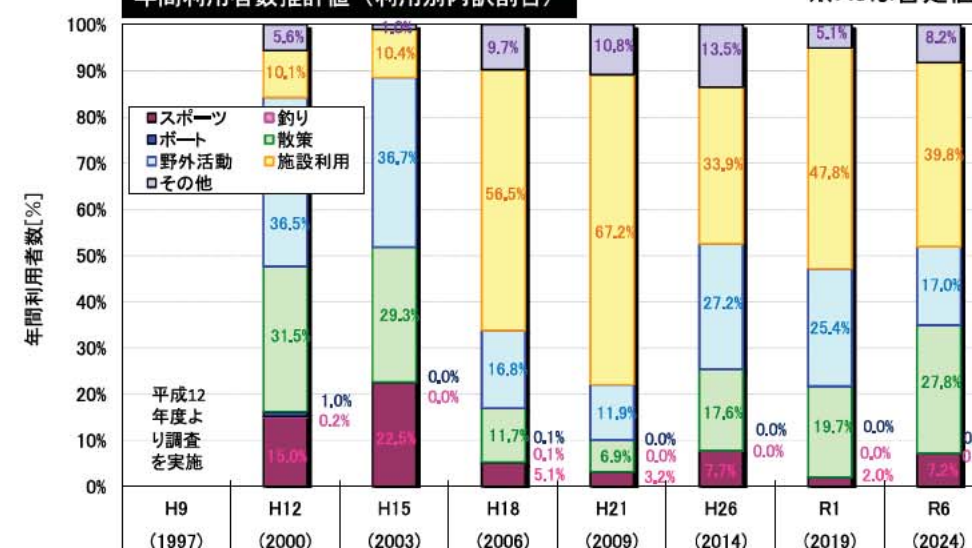
年間利用者数推計値(利用別内訳)

※R6は暫定値



年間利用者数推計値(利用別内訳割合)

※R6は暫定値

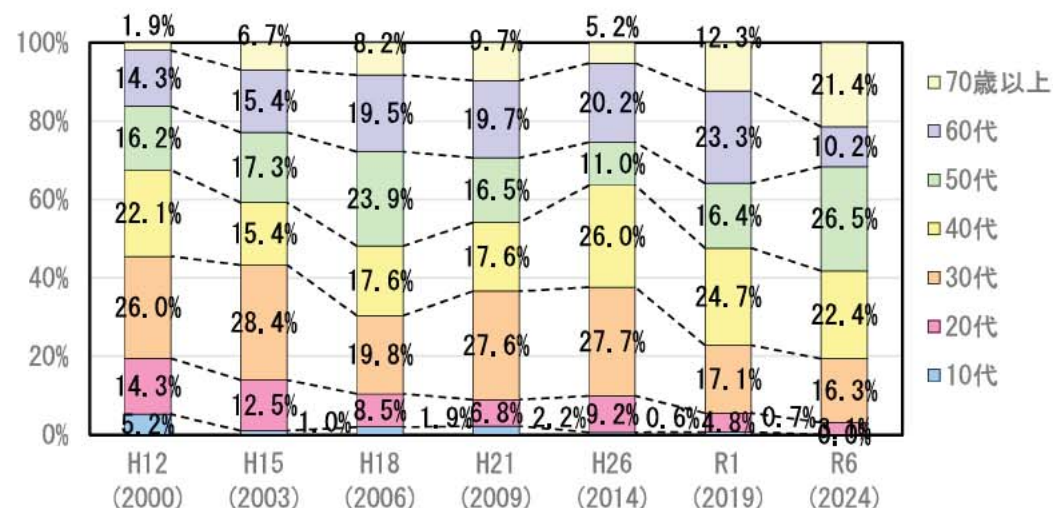


利用者の属性①

回答者の年齢

- 利用者アンケート調査の回答から整理される来訪者は、年度により変動はあるが、20歳代から70歳代まで幅広い年齢層となっている。

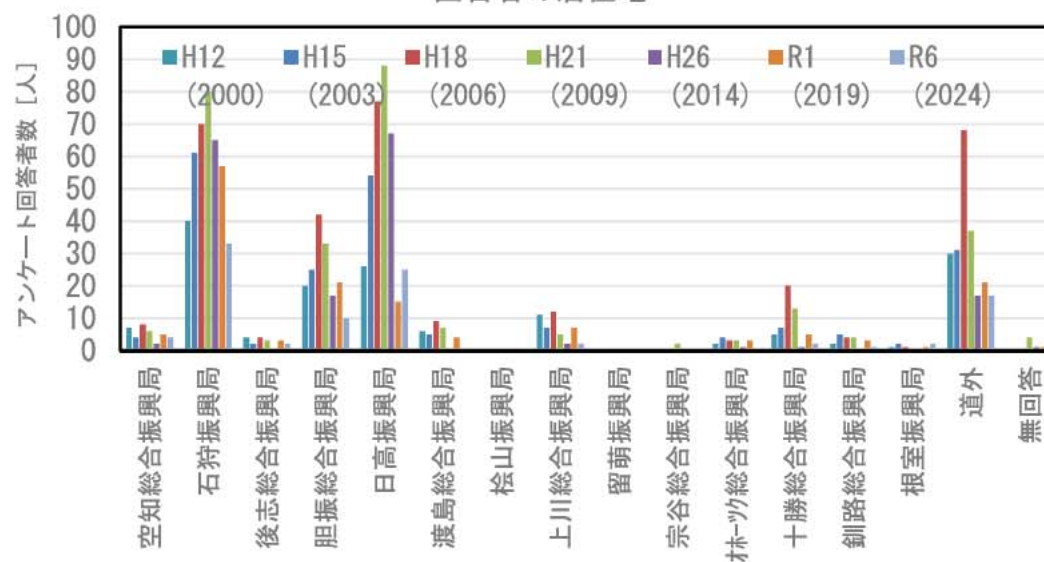
回答者の年齢



来訪者の居住地

- 来訪者の居住地は、年度によって異なるものの、道内が約9割を占め、そのうち平取町が位置する日高振興局管内が1～5割、隣接する胆振総合振興局管内が約1割、石狩振興局が約2～4割を占めている。

回答者の居住地



平成12年度(2000年度)～令和6年度(2024年度)の「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」の利用者アンケート結果より

※利用者アンケート調査対象者数

H18 : 318人、H21 : 285人、H26 : 173人、R1 : 146人、R6 : 98人

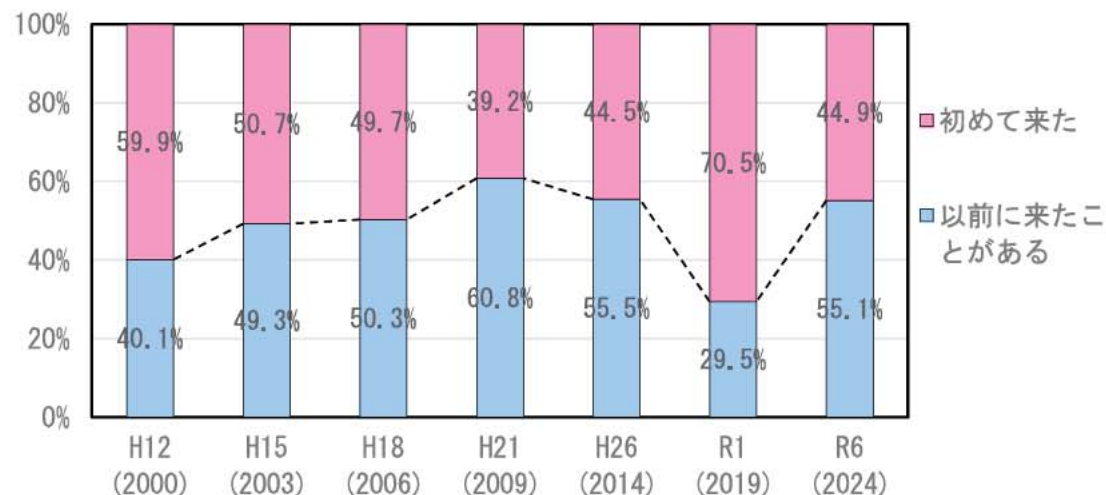
※ダム所在地の平取町は日高振興局に位置する

利用者の属性②

来訪経験

- 平成21年度(2009年度)は、「初めて来た」と回答した人の割合が減少したが以降増加している。

来訪経験



ダムを訪れた目的（複数回答）

- 利用者アンケート調査の回答を整理すると、ダム利用者の目的は、「温泉」「資料館・記念館」「ダム見学」「トイレ・休憩」などの利用が上位を占めている。
- 令和6年度(2024年度)は、「散歩・散策」が上位にランクしている。

【上位5位のランキング】

	1位	2位	3位	4位	5位	延べ回答数
H12 (2000)	キャンプ 33人(17%)	資料館・記念館 28人(14%)	トイレ・休憩 22人(11%)	ダム見学 16人(8%)	温泉 15人(8%)	195人
H15 (2003)	トイレ・休憩 66人(20%)	キャンプ 43人(13%)	ダム見学 34人(10%)	資料館・記念館 32人(10%)	温泉 26人(8%)	332人
H18 (2006)	トイレ・休憩 80人(18%)	資料館・記念館 77人(17%)	ダム見学 63人(14%)	温泉 50人(11%)	キャンプ 37人(8%)	451人
H21 (2009)	温泉 55人(15%)	トイレ・休憩 37人(10%)	ダム見学 36人(10%)	資料館・記念館 34人(9%)	工事関係 25人(7%)	365人
H26 (2014)	温泉 74人(24%)	資料館・記念館 39人(13%)	キャンプ 30人(10%)	ダム見学 28人(9%)	バーベキュー 25人(8%)	306人
R1 (2019)	資料館・記念館 57人(24%)	温泉 40人(17%)	ダム見学 37人(15%)	キャンプ 32人(13%)	ダムカード収集 16人(7%)	239人
R6 (2024)	温泉 28人(22%)	資料館・記念館 24人(19%)	散歩・散策 16人(12%)	キャンプ・BBQ 11人(9%)	ダム見学 9人(7%)	129人

平成12年度(2000年度)～令和6年度(2024年度)の「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」の利用者アンケート結果より

※利用者アンケート調査対象者数

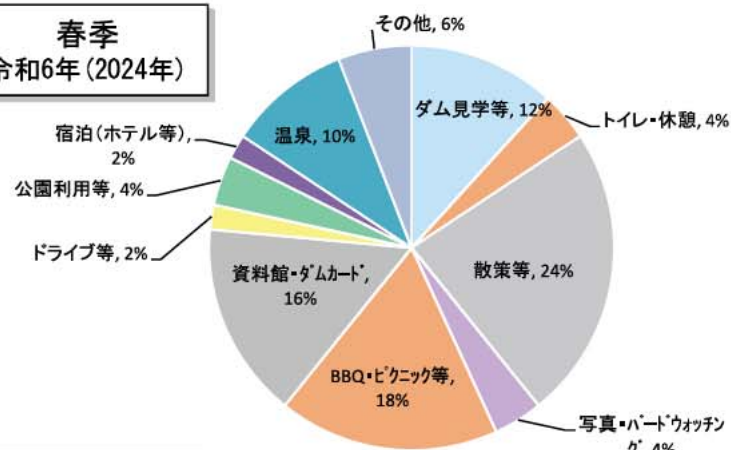
H18 : 318人、H21 : 285人、H26 : 173人、R1 : 146人、R6 : 98人

利用者の属性③

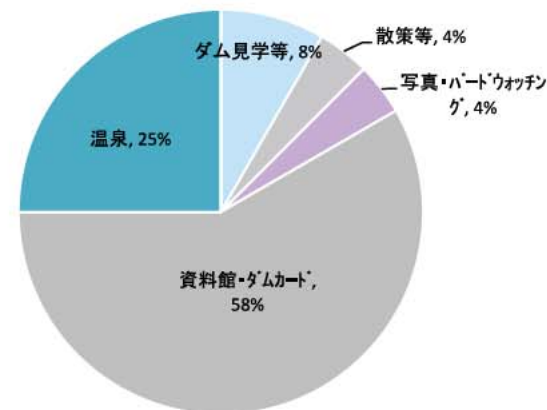
- ・利用者アンケート調査の回答から整理される季別の来訪目的は、一年を通じて利用割合の多い「資料館・ダムカード」をはじめ、春季は「散策」や「BBQ・ピクニック等」、夏季は「温泉」、秋季から冬季は「散策」や「公園利用等」、「温泉」の利用割合が多いのが特徴的である。

二風谷ダムを訪れた季別目的（複数回答）

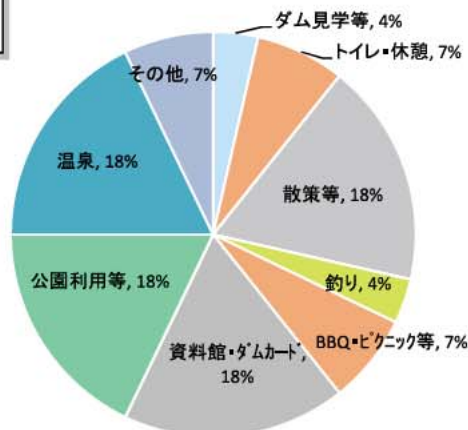
春季
令和6年(2024年)



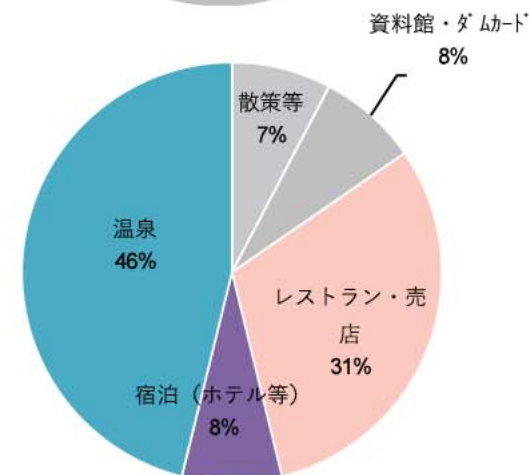
夏季
令和6年(2024年)



秋季
令和6年(2024年)



冬季
令和6年(2024年)



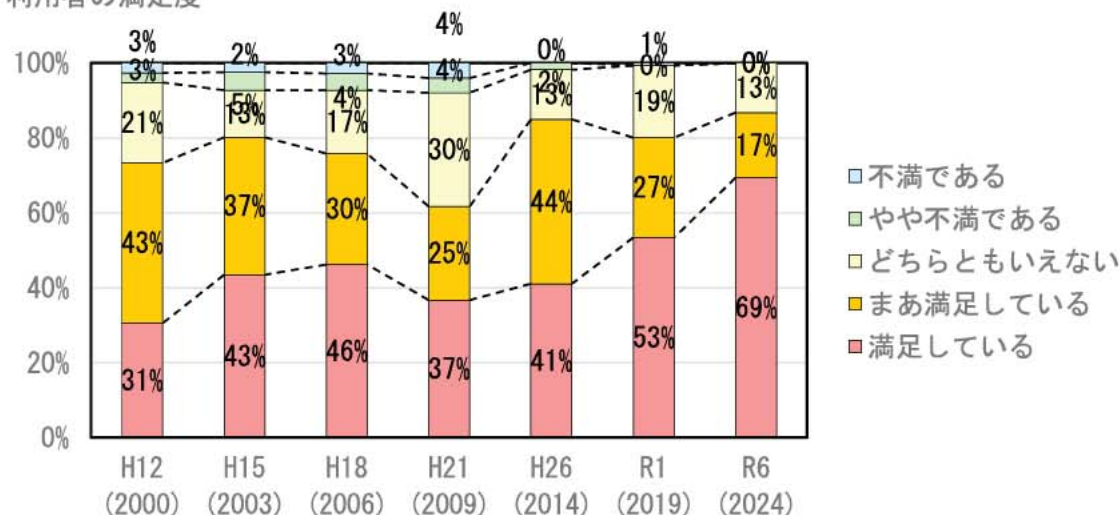
資料：令和6年度(2024年度)「河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）」利用者アンケート結果より

※利用者アンケート調査対象者数（R6：98人）

利用者の満足度

- ・利用者アンケート調査において利用した感想を聞いた結果、「満足」「まあ満足」の割合が約8割を占め、不満回答は近年減少傾向にある。

利用者の満足度



※利用者アンケート調査対象者数

H18 : 318人、H21 : 285人、H26 : 173人、R1 : 145人、R6 : 98人

平成12年度(2000年度)～令和6年度(2024年度)の「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」の利用者アンケート結果より

「不満」「やや不満」の理由

【H12】

- ・資料館が土・日・祝に閉館しているのは意味がない
- ・ダムの設置目的がよく分からない
- ・なぜこんなに経費をかけてかつ自然を壊してまでダムを作ることがあったのか
- ・トイレ、ゴミ箱の数が少ない 等

【H15】

- ・水が汚い
- ・先住民族の文化等を保存することは大切だが、施設にお金をかけすぎ
- ・遊べる施設が何もない
- ・トイレが外見は立派だが、中は汚い 等

【H18】

- ・資料館が休館していて残念
- ・アイヌの人のことを考えると必要性に疑問を感じる
- ・清流がなくなってがっかりした
- ・トイレが開く時間が遅い 等

【H21】

- ・自然をこわす
- ・資料室に入れなかった
- ・魚がいない
- ・工業用水として使用できなくなった
- ・水に親しむ物を作って欲しい
- ・アイヌの土地が奪われた 等

【R1】

- ・ガイド的な案内が欲しかった

【R6】

- ・なし

水源地域動態のまとめ

◆水源地域動態のまとめ

項目	まとめ
地域の交流・連携等	●二風谷ダム周辺は、平取町はもとより北海道におけるアイヌ文化の保護と伝承活動の拠点としての役割を果たすとともに、ダム周辺の施設利用など、地域の憩いの場、交流の場としての役割を担っている。 ●二風谷ダムでは地元関係者と協働で各種施設の安全点検を毎年実施している。
情報発信・学習の場等	●二風谷ダム及びダム湖周辺は、アイヌ文化の伝承活動の拠点、環境・体験学習等の会場、地域への情報発信の拠点として活用されている。
利用状況	●二風谷ダム利用者の目的は、散策、BBQ・ピクニック、温泉、資料館・ダムカードなど広域的に利用されており、その満足度も高い。

◆今後の方針

項目	方針
地域との係わり	●地域の観光振興への協力を継続する。 ●教育や学習の場としてダム周辺を活用するとともに、利用者や地域の要望を踏まえ、来訪者の要望に沿う施設活性化に努める。 ●ダム周辺施設を安全に利用していただくように引き続き、地元関係者と連携を図る。
利用実態調査	●今後も河川水辺の国勢調査により利用実態のアンケート調査を実施し、利用者の動向の経年的な変化を把握して施設管理に反映していく。
今後の維持管理の留意事項	●今後もダム周辺の豊かな自然環境を保全しつつ、トイレの整備など利用者が休憩や交流活動の場として快適に利用できるようダム管理者として対応すべき維持管理を行っていく。



8. 景 観

ダム周辺の景観の概況①

二風谷ダム周辺の状況

看々橋展望台



展望台の状況

R7.9.18撮影

ダム下流右岸展望台



展望台の状況

R7.9.18撮影



展望台からの眺望（ダム方向） R7.9.18撮影

沙流川歴史館周辺



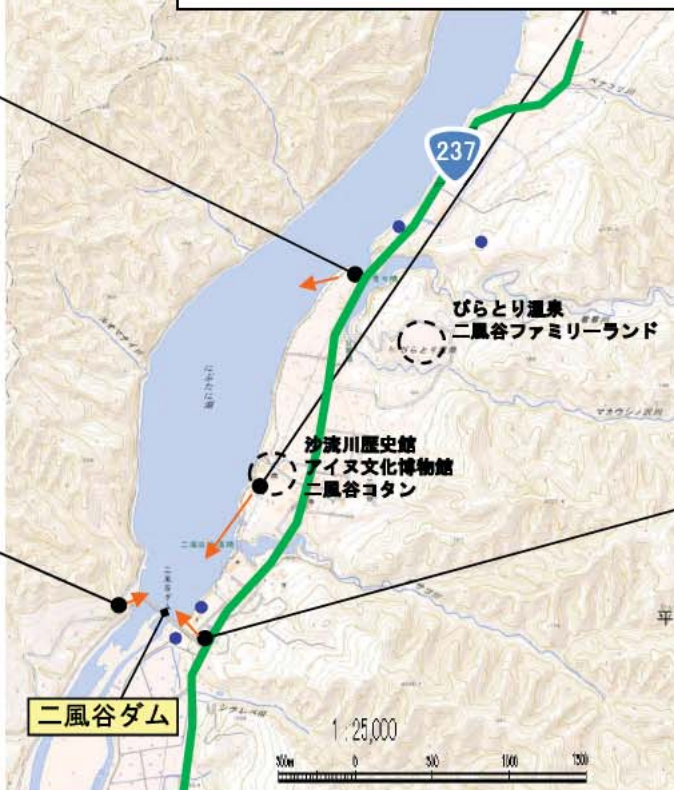
沙流川歴史館周辺の視点場

R7.6.24撮影



二風谷湖公園周辺からの眺望（ダム湖方向）

R7.6.11撮影



●：チャシ跡

「平取町文化的景観解説シート」より転記
※チャシとは、柵や砦を意味する

二風谷ダム管理支所



二風谷ダム管理支所の状況

R7.9.18撮影



管理支所屋上からの眺望（ダム方向）

R7.10.23撮影

凡 例

● 視点場



眺望写真撮影方向

ダム周辺の景観の概況②

- 二風谷ダム周辺の『アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観』は文化財としての価値が特に重要な「重要文化的景観」として、平成19年(2007年)7月に北海道で初めて選定された。

二風谷区域：
アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観

アイヌ文化を育む
沙流川と森林景観



二風谷湖右岸に広がる「町民の森」



町民の森展望台

交流の文化を伝える
歴史的景観



マンロー館



マンロー館へと
続く並木道

沙流川区域：
自然とアイヌの伝統、開拓の営
為が織りなす多文化な河川景観

沙流川区域

※重要文化的景観：

「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、我が国民生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」を指す文化財

伝統文化を伝える集落景観



クマ(物干し)で干されているニペシ
(シナの木の皮)



復元されたチセ群



受け継がれる
アイヌ古式舞踊

精神文化を伝える自然景観



原風景を残す沙流川の流れ



チプサンケ

ダム周辺の景観特性

〈空間特性〉

- 主要な利用がある左岸側の二風谷アイヌ文化博物館、沙流川歴史館、二風谷コタン、びらとり温泉及びファミリーランドー帯は広い緩斜面で、右岸はやや急峻であるが高くない。
- 主にダム湖を上下流方向に見たときの印象は、直線的で見通しが良く、広く感じる。

〈シーケンス特性〉

- 下流側からは、左岸主要道路(国道237号)の1km程度下流からダムサイト付近までのシーケンスが断続的に眺望できる。
- 上流側からは、堤体とダム湖(水面)を眺望できる。



沙流川歴史館周辺からの眺望（下流方向）

2025/6/24撮影



国道237号からの眺望（下流側）

2025/10/10撮影



管理支所付近からの眺望

2025/10/23撮影

視点場と景観特性



視点場名	状況	眺望景観 (視軸方向)	主要な景観要素
①ダム下流右岸 展望台	二風谷ダム右岸の展望台。東屋があり、ダム及びダム下流施設等が見られる眺望点となっている。	ダム方向の景観	○ダム及び下流付帯施設
②ダム管理支所	ダム管理支所屋上に設置された展望スペースである。管理所の外にアクセス用の階段が設置されている。	ダム、ダム湖方向の景観	○二風谷湖 ○ダム及び上流付帯施設
③二風谷湖公園・ 沙流川歴史館	沙流川歴史館が併設されている湖岸公園。休憩展望スペースが整備されている。	ダム、ダム湖方向の景観	○二風谷湖 ○ダム及び上流付帯施設 ○沙流川歴史館 ○湖岸公園
④看々橋展望台	ダム湖畔の看々橋より、若干下流側に位置する展望スペース。遺跡跡地で展望台等がある。駐車場は併設されていない。	ダム湖方向の景観	○二風谷湖
⑤町民の森展望台	二風谷右岸に広がる森林景観。	ダム、ダム湖方向の景観	○二風谷湖 ○森林景観
⑥国道237号 (シークエンス景観)	下流でダムが見える以外は、ほとんどダム湖は見えない。	下流からダム方向の景観	○ダム ○沿道施設など

※ダム天端はダムの上下流がゲート室で遮られており、視点場としてあまり適さない。

視点場及び眺望景観の状況①

①ダム下流右岸展望台

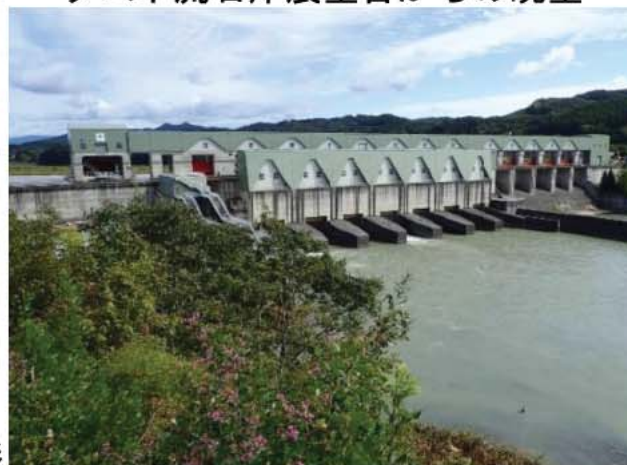
- ・ダム下流右岸に整備された展望スペースには東屋が整備されており、ダム下流面を眺めることができる。
- ・右岸の堤頂広場からは、ダム湖やダム下流の付帯施設を眺望できる。



視点場（ダム下流右岸展望台）



ダム下流右岸展望台からの眺望



視点場（右岸堤頂広場）



右岸堤頂広場からの眺望



視点場及び眺望景観の状況②

②ダム管理支所（屋上）

- ・ 管理支所の側面（上流側）に設置された階段から自由に屋上に出入りが可能である。
- ・ 屋上からは、ダム本体上流面及びダム湖が一望できる視点場となっている。

視点場（管理支所屋上）

屋上展望台への案内サイン



ダム管理支所屋上からの眺望



視点場及び眺望景観の状況③

③二風谷湖公園・沙流川歴史館

- ・視点場となる二風谷湖公園や沙流川歴史館付近の親水護岸には展望スペースが整備されており、ダム本体上流面及びダム湖が一望できる。

視点場（歴史館周辺）



視点場（二風谷公園）



二風谷湖公園周辺からの眺望



視点場及び眺望景観の状況④

④看々橋展望台

- ・ダム湖畔の看々橋下流に位置する遺跡の跡地に展望スペースが整備されている。
- ・ダム湖方向を眺望可能であるが、現在は樹木の生育により視界が遮られつつある状況である。

視点場（看々橋展望台）



視点場（看々橋展望広場）



展望台からの眺望



展望広場からの眺望



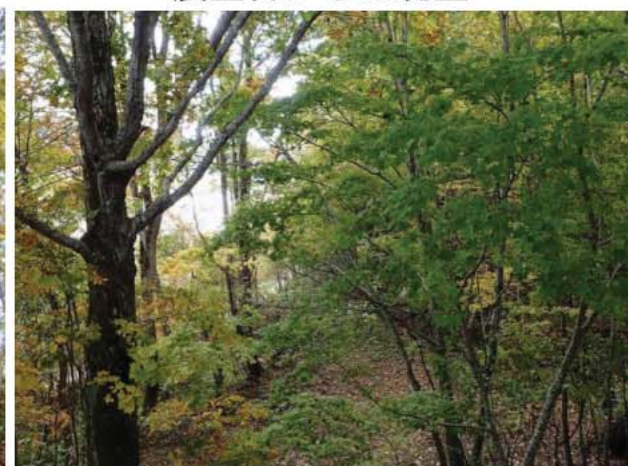
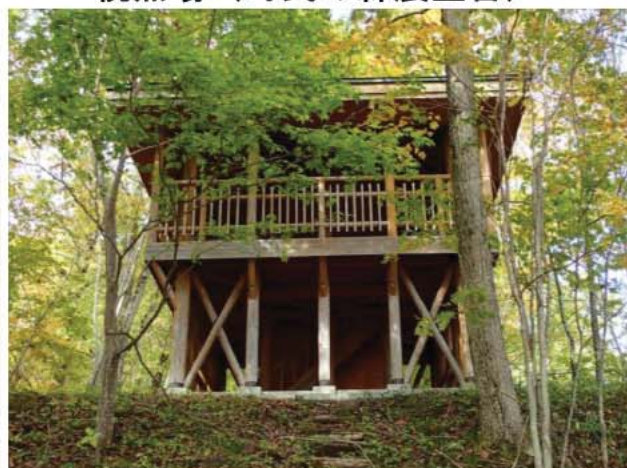
視点場及び眺望景観の状況⑤

⑤町民の森展望台

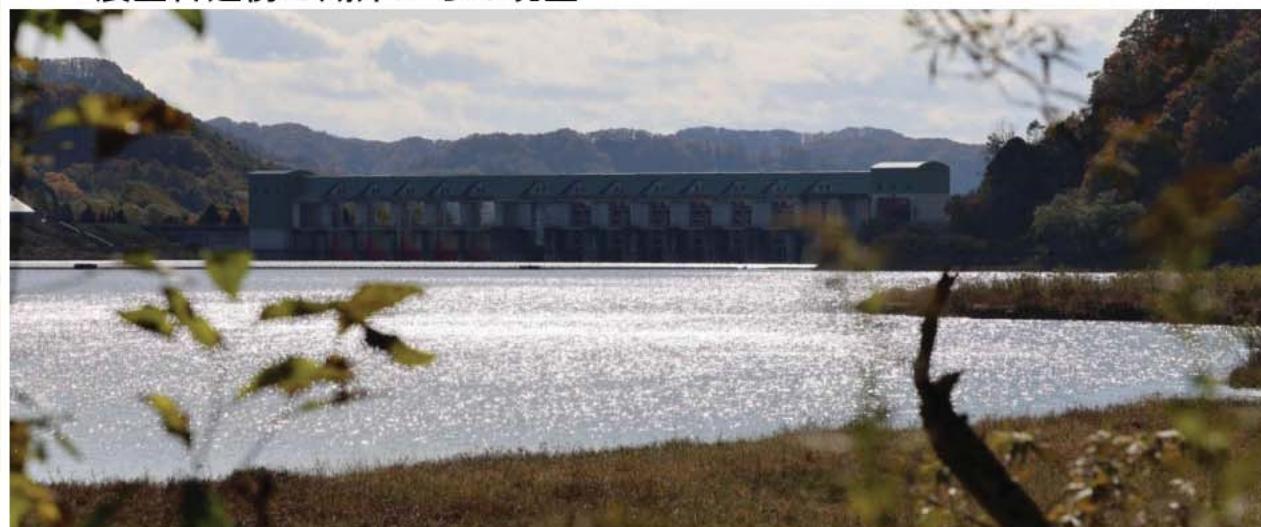
- ダム湖右岸KP1.4に町民の森展望台が整備されているが、現在は樹木の生育により視界が遮られているものの、湖岸からはダム湖やダム上流面を眺望することができる。

視点場（町民の森展望台）

展望台からの眺望



展望台近傍の湖岸からの眺望



※写真は全て2025/10/10撮影

視点場及び眺望景観の状況⑥

⑥国道237号（ダム下流約0.4～2.0km）

- ・ 国道237号のダム下流約0.4～2.0kmの区間では、走行中の車窓から、草木の間に見え隠れするダム堤体を望むことができる。

視点場（国道237号）

国道237号からの眺望



国道237号からの眺望



※写真は全て2025/10/10撮影

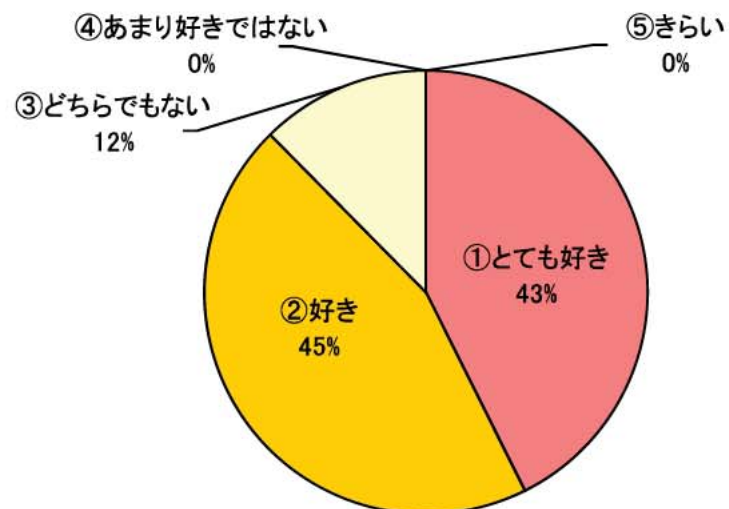
景観アンケート結果①

- ・ 景観については、令和6年度(2024年度)は令和元年度(2019年度)より「とても好き」の割合が増加した。
- ・ 「とても好き」「好き」の割合は約9割、「あまり好きでない」「きらい」は0%となっており、好意的に捉えられている。

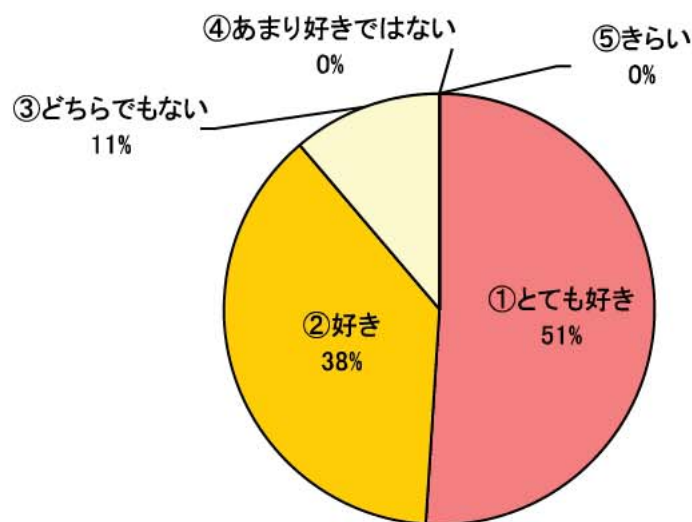
このダム・周辺の景観は好きか

Q：ここのダムやダム湖周辺全体の景観や雰囲気は好きですか。

令和元年(2019年)



令和6年(2024年)



資料：令和元年度(2019年度)、令和6年度(2024年度)「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」利用者アンケート結果より

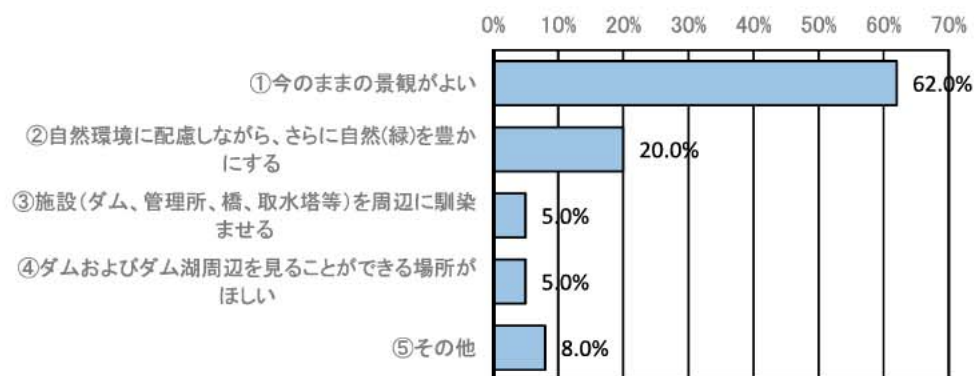
※景観アンケート回答者数(R1：145人、R6：98人)

景観アンケート結果②

- ・ 景観に期待することについては、「①今のままの景観でよい」が62.0%と最も多く、次いで「②自然環境に配慮しながら、さらに自然(緑)を豊かにする」の回答であり、きれいな景色を眺める観光スポットとして期待されていると考えられる。
- ・ 今後の景観づくりに向けた意見については、「今のままで良い」が多数を占めるものの、トイレや案内板等について「使い(見)やすくする」などに意見が寄せられている。

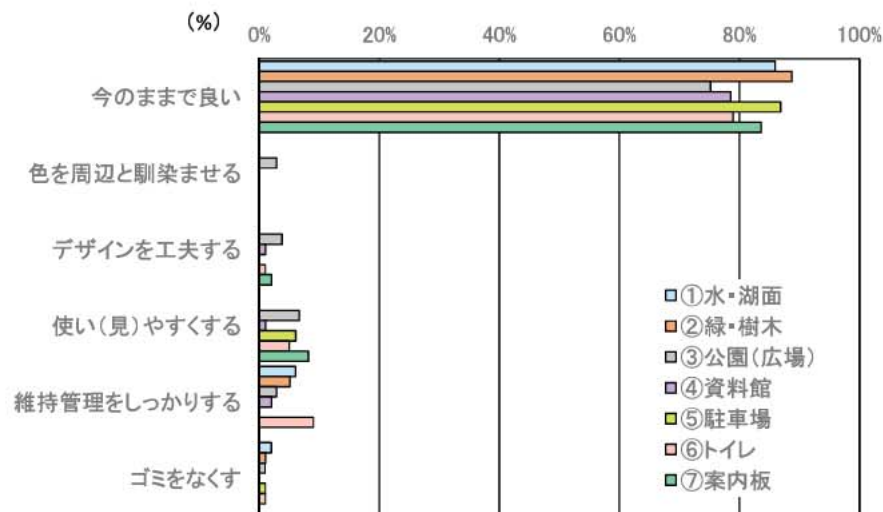
景観に期待すること（複数回答）

Q：ダムらしい（望ましい）景観として何を期待しますか？



より良い景観づくりに向けた意見

Q：さらにより良いダムの景観づくりに向けて、ご意見をお聞かせ下さい。



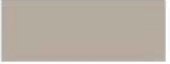
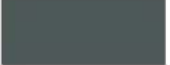
※景観アンケート回答者数：98人

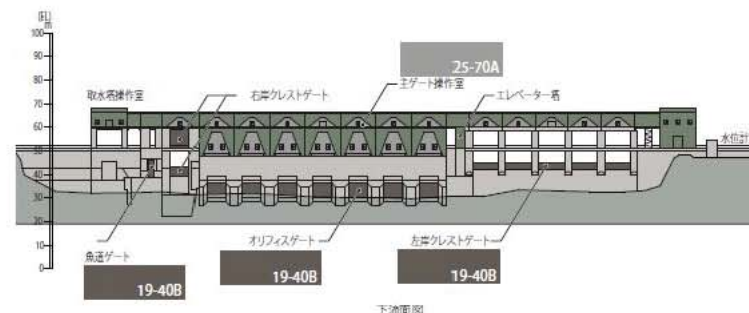
資料：令和6年度(2024年度)「河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）」利用者アンケート結果より

- 令和6年(2024年)、二風谷ダムの管理施設について周辺の自然環境と調和した色彩を検討し、長年の維持管理において一貫した色彩管理を可能とすることを目的として、色見本パネルによる現地確認を行ったうえで、周囲に溶け込む管理施設の色彩ガイドラインを作成した。
- 現在は、重要文化的景観に関する解説看板と連携したサインを検討している。

◆色彩計画

●背景となる自然景観との調和、ダム施設全体の色彩調和を形成するため、素地に近似の低彩度色を基本とし、補修や修繕・整備を行うごとに全体の統一感や連続性が構築され、より景観が整った環境へと『育てて』行く方針としている。

名称・色	日塗工番号 ※1	マンセル値 ※2	CMYK 値 ※3 (印刷用参考値)	RGB 値 ※3 (印刷用参考値)
塗装色1: ダークブラウン 	19-40B	10YR 4.0/1.0	C=65.9 M=61.2 Y=65.1 K=26.7	R=103 G=95 B=85
塗装色2: ダークグレー 	19-30A	10YR 3.0/0.5	C=73.5 M=68.2 Y=67.5 K=41.1	R=75 G=71 B=67
塗装色3: グレーベージュ 	19-60B	10YR 6.0/1.0	C=49.8 M=44.7 Y=47.5 K=3.1	R=155 G=146 B=136
塗装色4: オフグレー 	25-70A	5Y 7.0/0.5	C=41 M=32.5 Y=30.2 K=0	R=176 G=173 B=167
塗装色5: ダークグリーン 	45-40B	5G 4.0/1.0	C=72.5 M=58.4 Y=61.2 K=23.9	R=89 G=98 B=93



現在の色彩



R7.5.8撮影

自然景観と調和した色彩の設定



色見本パネルを使用した現地確認



【参考】試行的な貯水位運用

- 地域文化や地元要望により令和6年度(2024年度)に、洪水期の貯水位を平取ダム運用開始前において、実績があるEL41.5mまで試行的に上昇させ、貯水池の水面を拡大させた。
- また、この試行により、例年8月に二風谷ダム下流で行われるチッサンケ（舟おろしの儀式）においても、実施に適した安定的な流量の供給(30m³/s程度)を可能とした。
- また、二風谷ダムの湖岸において、かわまちづくりによる水辺空間を整備中であり、地域振興の取組として、地元より通年の水位維持の要望があることから、引き続き、試行を行い最適な水位を検証していく。



試行中の状況（2025.7.3撮影 EL=約41.5m）

SUPでの利用
（柔軟なダム運
用の試行期間）



チッサンケ
（柔軟なダム運
用の試行期間）



◆景観のまとめ

項目	まとめ
ダム及び周辺の景観評価	●二風谷ダムは、「重要文化的景観(平成19年(2007年)7月に北海道が選定)」の地区に選定されており、アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観を有している。 ●ダム及び周辺の景観・雰囲気は、約9割の利用者が好意的に捉えている。 ●景観に期待することについては、「今のままの景観でよい」が約62%と最も多いが、「自然環境に配慮しながら、さらに自然(緑)を豊かにしてほしい」といった要望が確認された。 ●今後の景観づくりに向けた意見については、「今のままで良い」が多数を占めるものの、サインシステム等に意見が寄せられている。 ●周辺環境と調和した美しい景観の形成に向けて、二風谷ダム管理施設デザインガイドラインを作成し、色彩計画の検討が行われている。

◆今後の方針

項目	方針
フォローアップによる継続的な確認	●利用者は二風谷ダム周辺の景観を良好なものとして捉えており、景観が損なわれないためにも、ダム湖利用実態調査の際に景観に関する調査を継続的に実施し、施設等の維持管理に反映する。
景観に配慮した施設の維持管理	●経年劣化した施設の更新時には、二風谷ダム管理施設デザインガイドラインを基に、景観に配慮した改修を行う。 ●重要文化的景観に関する解説看板と連携したサインシステムを整備する。
視点場のモニタリング	●施設状況や環境変化により、現在の「視点場」からの眺望が確保できなくなった場合は、関係機関と協議し改善に努める。 ●ダムの下流面が見える、かわまちづくり整備エリアにおいて視点場を検討する。